

令和5年度子ども・子育て支援調査研究事業

教育・保育施設等における「教育・保育施設等における
事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」等の
効果的な周知方策についての調査研究

事業報告書

令和6年3月

PwC コンサルティング合同会社

目次

1. 事業概要	1
(1) 事業の背景・目的	1
(2) 事業の実施概要	2
(3) 事業の実施体制	4
2. 調査結果	5
(1) 文献調査	5
(2) 職員アンケート調査	7
3. 啓発資材の作成と改良	28
(1) 啓発資材の作成	28
(2) セミナー開催	33
4. 考察	58
(1) リサーチクエスションへの解	58
(2) 調査設計上の課題	59
5. まとめ	60
(1) 本事業の成果	60
(2) 今後に向けた課題	61
付録	62
付録1 職員アンケート調査票	63
付録2 セミナーリーフレット	69
付録3 セミナー申込み票	70
付録4 セミナー参加後アンケート調査票	74
付録5 セミナー資料	78
付録6 グループワーク中の作業例	94
付録7 啓発資材	95

1. 事業概要

(1) 事業の背景・目的

教育・保育施設等における、特に重大事故が発生しやすい場面ごとの注意事項や、事故が発生した場合の具体的な対応方法等について、各施設・事業者や地方自治体の参考となるよう、平成 28 年 3 月、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）が通知されている。

既にこれまで、ガイドラインの内容を教育・保育の現場に端的に伝えるための教材が作成されているが、こうした取組を通じてもお、ガイドライン等において示された事故防止のための注意事項が現場に浸透していないと、「教育・保育施設等における重大事故防止策を考える有識者会議」（以下「有識者会議」という。）において指摘を受けている。

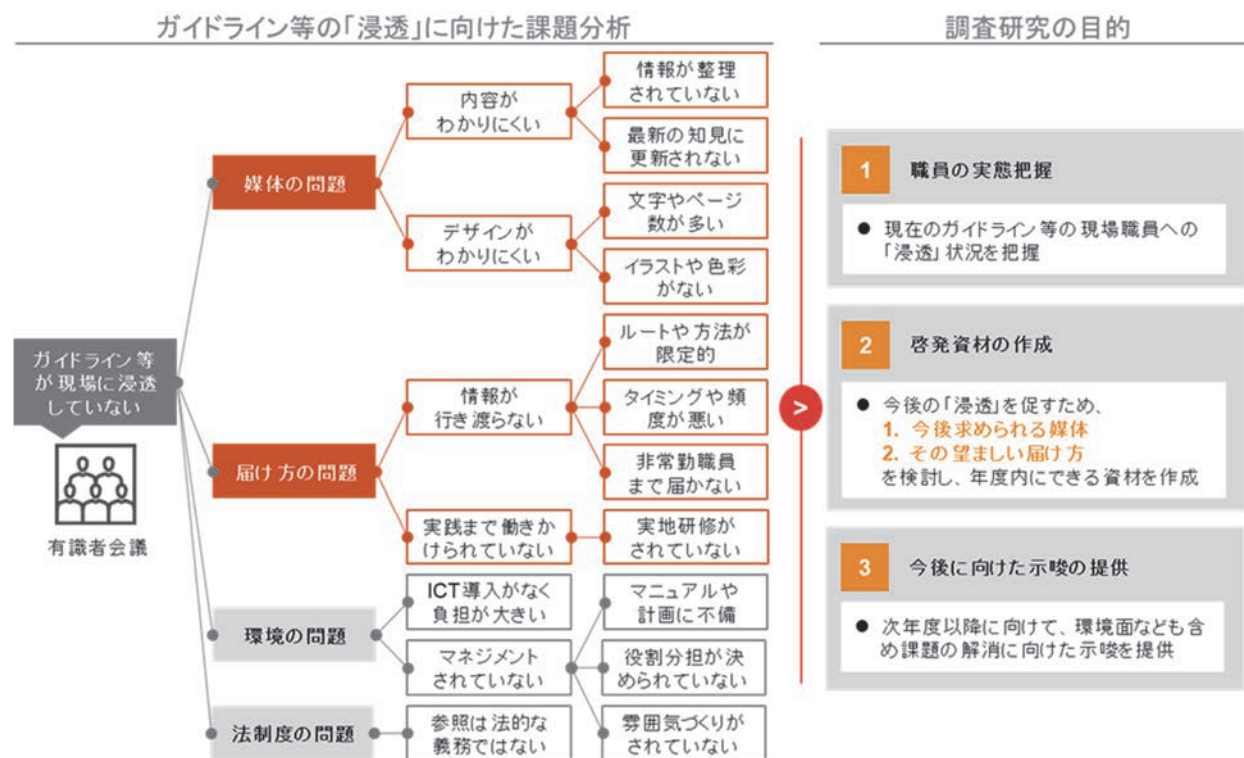
このため、本事業は、ガイドライン等の内容が現場職員に浸透し、効果的に事故防止が行われるよう、現在のガイドライン等の現場職員への浸透状況を把握した上で、①現場職員にとって求められる媒体、②現場でも活用できる啓発方策に焦点を当て調査研究を行い、当該調査結果を踏まえ、啓発資材を作成することを目的として実施した。

調査設計に当たり、以下 4 つのリサーチクエスチョンを設定した。

図表 1 リサーチクエスチョン

- ① ガイドライン等が「浸透」しているといえるのは具体的にどのような状態か
- ② 現時点で浸透している職員層はどのような属性であり、浸透を促す要素は何か
- ③ 現時点で浸透していない職員層はどのような属性であり、浸透に向けた課題や要望は何か
- ④ 浸透していない職員層にみられる課題や要望に対応する効果的な方策は何か

図表 2 ガイドライン等の「浸透」に向けた課題



(2) 事業の実施概要

① 文献調査

労働安全衛生等の他分野における事故防止に向けたトレーニング手法を参照し、教育・保育現場においても効果的な啓発方策を検討するため、文献調査を実施した。

図表 3 文献調査の概要

調査対象	労働安全衛生等の分野における事故防止に向けたトレーニング手法
実施方法	デスクトップリサーチ
実施時期	令和5年10月
調査内容	・トレーニングの目的及び進め方 ・教育・保育現場における導入事例

② 職員アンケート調査

教育・保育施設等の職員に対し、ガイドライン等の内容について認知・理解・実践の状況や、事故防止に向けて希望する媒体・取組を把握するため、アンケート調査を実施した。

図表 4 職員アンケート調査の概要

調査対象	教育・保育施設等の職員（施設長等の管理職を除く）
調査方法	Web 調査
調査時期	令和5年10月17日～令和5年10月31日
調査内容	・基礎情報（年齢、勤務地、所属施設・事業、職種、役職、勤務形態） ・認知（ガイドライン等の認知、周知ルート、振り返る頻度） ・理解（事故防止策の理解、理解に役立つもの・役立たないもの） ・実践（事故防止策の実践の有無、実践に役立つもの・役立たないもの） ・事故防止に向けて希望する媒体・取組

③ 啓発資材作成

教育・保育現場の職員にガイドライン等の内容を浸透させるため、アンケート調査により収集した情報を基に、ガイドライン等の内容をわかりやすく示す啓発資材を作成した。

図表 5 啓発資材の概要

ねらい	教育・保育施設等の職員が事故予防策を実行しやすくなるよう促す
媒体形式	・紙媒体での印刷を想定するが、人によって希望するサイズが異なると想定されるため、Web 公開し、各自ダウンロード・任意のサイズに印刷することを想定
特徴	・特に重大事故につながりやすい「寝る・食べる・水遊び」に特化 ・現場で振り返りやすいよう一枚にまとめ、イラストなどをまじえた視覚的わかりやすさと、推奨・禁止事項の理由まで示す明確さを念頭に置く

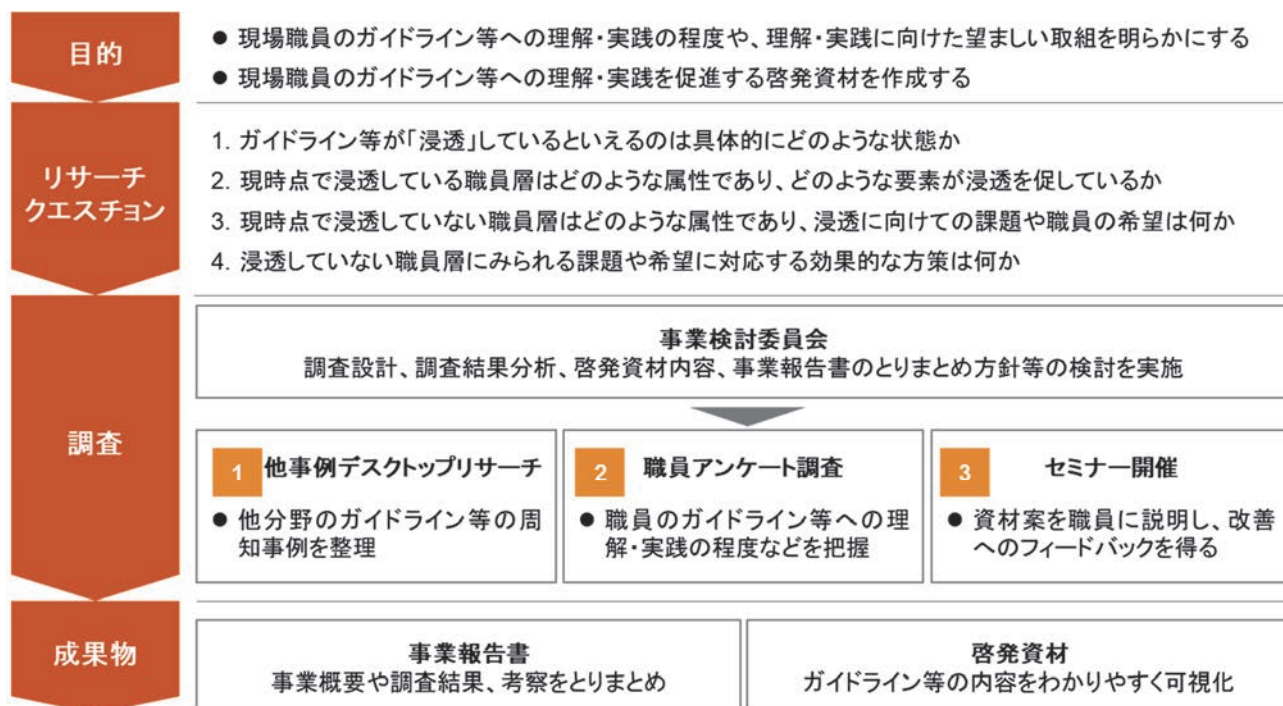
④ セミナー開催

教育・保育現場の職員に、事故防止に向けた研修を提供するとともに、作成した啓発資材への意見を聴取するため、「教育・保育事故の予防に向けたセミナー」を開催した。

図表 6 セミナーの概要

実施対象	- 教育・保育施設等の職員 - 自治体職員
実施方法	現地会場（東京都）とオンライン会議のハイブリッド形式
実施日時	令和6年1月19日（金）13:00-15:00
プログラム	- 保育事故遺族の講演 - 保育現場職員の講演 - 事故防止に向けた研修（KYT グループワーク） - 啓発資材及び研修についての解説

図表 7 事業の全体像



(3) 事業の実施体制

調査設計・分析、啓発資材の作成等について専門的立場から助言を得るため、有識者からなる事業検討委員会を設置した。委員及び開催状況は図表 8 から図表 11 の通り。

図表 8 事業検討委員会委員（五十音順、敬称略）

氏名	所属
伊澤 昭治	社会福祉法人日本保育協会評議員
栗並 えみ	碧南市認可保育所死亡事故 被害児童の親
関川 芳孝	大阪公立大学名誉教授
寺嶋 仁子	川崎市こども未来局総務部監査担当課長
西田 佳史	東京工業大学教授
山中 龍宏	緑園こどもクリニック院長

図表 9 オブザーバー（順不同、敬称略）

氏名	所属
森島 正木	こども家庭庁成育局安全対策課事故対策係 課長補佐
宮崎 航	こども家庭庁成育局安全対策課事故対策係 係長
一山 裕美	こども家庭庁成育局安全対策課事故対策係
宮本 里香	こども家庭庁成育局保育政策課認可外保育施設担当室 指導監査官

図表 10 事務局

氏名	所属
東海林 崇	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部 ディレクター
古屋 智子	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部 シニアマネージャー
中村 舞	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部 シニアアソシエイト
小野 真季	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部 アソシエイト
清水 式子	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部

図表 11 委員会開催状況

開催回	内容
第 1 回 2023 年 10 月 12 日	- 事業概要説明 - デスクトップリサーチ結果報告 - アンケート調査設計検討
第 2 回 2023 年 11 月 20 日	- アンケート調査結果報告 - 資材内容・デザイン検討 - セミナー実施概要検討
第 3 回 2024 年 2 月 19 日	- セミナー開催報告 - 事業報告書案・資材修正方針確認

2. 調査結果

(1) 文献調査

① 調査の目的

教育・保育以外の分野において先行する事故防止に向けたトレーニング手法を参照し、教育・保育現場においても効果的な啓発方策を検討するため、文献調査を実施した。

② 調査方法

事業検討委員会委員より、事故防止の実践に向けて効果的なトレーニング手法として、労働安全衛生分野において長年発展し、近年医療分野等においても取り入れられている「KYT」について、教育・保育の現場においても参考になるのではないかと助言を受けた。

このため、まず労働安全衛生分野等において実施されている KYT の概要を把握した上で、教育・保育現場における導入事例を調査し、教育・保育現場に広く周知可能かを確認することとした。

③ 調査結果及び分析

ア. KYT の概要

KYT とは、危険予知トレーニングの Kiken の K、予知 Yochi の Y、Training の T をとった略称である。職場や作業の状況のなかにひそむ危険要因とそれが引き起こす現象を、職場や作業の状況を描いたイラストシートを使い、あるいは現場で実際に作業しながら、小集団で話し合い、考え合い、分かり合って、危険のポイントや重点実施項目を指差唱和・指差呼称で確認する訓練である¹。

KYT を通じて、①危険を危険と気付く感受性を鋭くし、②要所要所で、皆で指差し確認を行うことにより集中力を高め、③危険に対する情報を共有し合い、それを解決していく中で問題解決能力を向上させ、④チームで実践への意欲を強めることを目指している。また、KYT によって培われた、危険を予知し安全を先取りする感受性やチームワークは、事故予防以外のすべての自主的な問題解決に及び、職場風土が変わっていくことにもつながりうる²。

図表 12 KYT の基本的な進め方

- | |
|---------------------------------|
| 第1ラウンド：イラストをみるなどして、考えられる危険を出し合う |
| 第2ラウンド：特に重要な危険のポイントを絞り込む |
| 第3ラウンド：どう対応すべきか、みんなでアイデアを出し合う |
| 第4ラウンド：皆で守る行動目標を確認する |

¹ 中央労働災害防止協会「危険予知訓練（KYT）とは」<https://www.jisha.or.jp/zerosai/kyt/index.html>（令和6年1月閲覧）

² 中央労働災害防止協会「危険予知訓練（KYT）が目指すもの」<https://www.jisha.or.jp/zerosai/kyt/file03.html>（令和6年1月閲覧）

イ. KYT の教育・保育現場における導入事例

KYT は、元々労働災害防止、労働者の安全衛生を目的として発展してきたが、現在では、医療分野といった対人援助職にも広がり³、教育・保育分野においても、養成課程や現場施設において取り入れるところが出てきている。

図表 13 教育・保育分野における KYT 導入事例

1 大学カリキュラム	2 研修・教材	3 自治体・施設	4 過去の好事例
【山梨県立大学「乳児保育Ⅱ」】 ・(1) オリエンテーション 乳児保育の意義・基本 ・(2)～(9) 排泄、着脱、清潔、食事に関する指導と演習 ・(10) 0～3歳未満児の保育内容と遊び ・(11)～(12) 0～3歳児の手づくり玩具の作成、発表 ・(13) 乳児保育における健康と安全 危険予知トレーニング ・(14) 危険予知トレーニング グループ発表 ・(15) 乳児保育における指導計画と評価・乳児保育を支える連携	【指導者向けKYT】 ・【研修】保育職員の危険予知能力向上(KYT)セミナー(一社)安全衛生人材開発協会) ・【研修】教育・保育施設等向け「事故防止等支援サービス」にてKYT研修実施(株式会社インテリクス総研) ・【教材】社会福祉法人・福祉施設におけるリスクマネジメントの基本的な視点<Ver.3>(全国社会福祉法人経営者協議会) ・【教材】参考にしたい職場環境改善アドバイザーアドバイス集 保育事業編(地方公務員災害補償基金) ・【教材】保育園における危険予知トレーニング(田中哲郎)	【指導者向けKYT】 ・東京都立川市 →あいおいニッセイ同和損害保険株式会社(※)と包括連携協定を締結し、市内の保育士にKYT研修実施 ※同社はこども向けKYT教材も提供 	【にじいろのはな保育園】 ・所在地:福岡県 ・認可保育施設(小規模保育事業) ・週2回のミーティングの中で、保育現場の日常の写真を基に危険がありそうな箇所とその対策を制限時間内に書き出して、職員間で情報共有及び意見交換を行う ※令和3年度子ども・子育て支援調査研究事業「教育・保育施設等における重大事故防止対策に係る調査研究」(日本経済研究所)報告書
【石巻専修大学「乳児保育Ⅱ」】 ・(1) ガイダンス、講義の目的 ・(2)～(7) 公衆衛生、地域保健活動、精神保健活動、感染症 ・(8) 安全管理(1) 危険予知とKYT ・(9) 安全管理(2) 演習 危険予知トレーニング(0歳児・保護者) ・(10) 安全管理(3) 演習 危険予知トレーニング(1歳児と2歳児) ・(11) 安全管理(4) 災害と安全管理、災害福祉支援(演習) ・(12) 安全管理(5) 救急対応と応急手当 ・(13)～(14) こころの問題と乳児育児相談 ・(15) まとめ ・ほか、宮城県内・東京都内の保育園で危険予知トレーニングを研究(2022-)	【こども向けKYT】 ・【教材】子供たちの安全と安心のために～危険予知トレーニング(KYT)の進め方とモデルシート集～指導者用(中央労働災害防止協会) 	【こども向けKYT】 ・長野県箕輪町 →第5次振興計画に「保育園児等への危険予知トレーニングの導入」を盛り込み、町内保育園でKYT実施 	【さくらゆうゆう保育園】 ・所在地:愛知県 ・認可外保育施設(企業主導型保育施設) ・月1回、職員打合せを実施しており、そのうち3か月に1回は、KYTを実施し、日頃から危険が予測できるようにしている ※令和元年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「保育所等における事故防止対策の実施状況等に関する調査研究」(日本経済研究所)報告書

出所:各掲載団体のWebサイト

ウ. KYT の教育・保育現場における普及可能性

広くこどもの生活に携わる教育・保育の現場において、事故につながりうるリスクはあらゆる場所・場面に存在しており、それらすべてをガイドラインやマニュアルに書いたり、教えたりすることは不可能である。したがって、現場職員が自ら事故防止の重要性を理解し、知識のインプットに留まらず、日々の教育・保育現場に潜む危険を察知し、回避する能力を養う必要があり、KYT はそのために有効なトレーニング手法であると考え⁴。

当初は啓発資材の作成に焦点が当てられていたが、教育・保育現場への KYT の普及にも事業検討委員会でも前向きな意見が寄せられたため、後述のセミナーで紹介することとした。

³ 例として、社団法人神奈川県看護協会「保健医療福祉分野における危険予知訓練の手引き」

⁴ 田中哲郎「事故防止のための取り組み」(平成28年度保育所等事故予防研修会資料)

（２）職員アンケート調査

① 調査の目的

教育・保育施設等の職員に対し、ガイドライン等の内容について認知・理解・実践の状況や、事故防止に向けて希望する媒体・取組を把握するため、アンケート調査を実施した。

② 調査対象・調査方法

全国の教育・保育施設等の職員を対象とし、自治体及び日本保育協会に依頼し、各教育・保育施設等にメールで周知いただいた。今回は、普段こどもと直接接する現場職員の実態把握という趣旨を考慮し、施設長等の管理職は対象とせず、職員一人一人に回答を依頼した。

③ 調査結果及び分析

有効回答数は 42,171 件となった。設問趣旨と矛盾のある回答は無効回答とした。

ア. 回答者の基本属性

年齢は、20 代から 50 代までの各年代がそれぞれ約 20～25%の割合を占める。

図表 14 年齢

#	回答	件数	割合
1	18-19歳	55	0.1%
2	20-29歳	9,275	22.0%
3	30-39歳	9,760	23.1%
4	40-49歳	10,943	25.9%
5	50-59歳	8,229	19.5%
6	60-69歳	3,577	8.5%
7	70歳以上	332	0.8%
	全体	42,171	100.0%

施設・事業種別は、認可保育所が約 4 割を占める。

図表 15 施設・事業種別

#	回答	件数	割合
1	認可保育所	17,050	40.4%
2	認定こども園	8,059	19.1%
3	放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)	5,462	13.0%
4	小規模保育事業	2,848	6.8%
5	幼稚園	2,788	6.6%
6	企業主導型保育施設	2,508	5.9%
7	その他の認可外保育施設	1,466	3.5%
8	事業所内保育事業(認可)	520	1.2%
9	病児保育事業	337	0.8%
10	子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)	284	0.7%
11	地方単独保育施設	191	0.5%
12	家庭的保育事業	190	0.5%
13	一時預かり事業	179	0.4%
14	子育て短期支援事業(ショートステイ・トワイライトステイ)	109	0.3%
15	居宅訪問型保育事業	80	0.2%
16	認可外の居宅訪問型保育事業	67	0.2%
17	その他(単に「保育所」など、具体的な種別が不明なもの)	33	0.1%
	全体	42,171	100.0%

職種は保育士が過半数を占め、栄養士・調理員やバス運転手など幅広い職種から回答を得ている。

図表 16 職種

#	回答	件数	割合
1	保育士	23,351	55.4%
2	その他(放課後児童支援員、事務員など)	5,423	12.9%
3	保育教諭	4,924	11.7%
4	幼稚園教諭	2,783	6.6%
5	栄養士・調理員	2,534	6.0%
6	保育補助者	2,207	5.2%
7	嘱託医・看護師	812	1.9%
8	バス運転手	137	0.3%
	全体	42,171	100.0%

役職は、役職についていない者が約 6 割を占める。

図表 17 役職

#	回答	件数	割合
1	役職についていない	25,595	60.7%
2	主任	6,222	14.8%
3	副主任・中核リーダー・専門リーダー	6,054	14.4%
4	若手リーダー・職務分野別リーダー	3,381	8.0%
5	その他(クラス担任・副担任、サブリーダーなど)	919	2.2%
	全体	42,171	100.0%

勤務形態は、常勤職員が約 75%、非常勤職員が約 20%を占める。

図表 18 勤務形態

#	回答	件数	割合
1	常勤職員	31,685	75.1%
2	非常勤職員	9,029	21.4%
3	その他(単に「パート」など、常勤か否かの区別が不明なもの)	1,457	3.5%
	全体	42,171	100.0%

イ. ガイドライン等の認知

ガイドライン等の事故防止に関する資料について、「知っている」より「読んだことがある」の回答が少ない。職場に置いてあるなどして単に存在は知っているが、読んだことはない場合などが想定される。

「知っている」「読んだことがある」対象としては、ガイドラインのほか、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」などが高い割合を示している。

職種別にみると、職種ごとに認知している対象にばらつきがあり、それぞれの職務内容により関連の深いと考えるものを参照していると思われる。

図表 19 知っているガイドライン等（複数回答、n=41,545）

#	回答	件数	割合
1	アレルギー対応ガイドライン	28,522	68.7%
2	事故防止ガイドライン	28,488	68.6%
3	プール活動・水遊び監視のポイント	22,939	55.2%
4	消費者庁ハンドブック	19,224	46.3%
5	勤務先独自の事故防止関係資料	18,609	44.8%
6	食品による窒息	15,474	37.2%
7	その他の国の通知・事務連絡	10,839	26.1%
8	バス送迎・安全徹底マニュアル	9,979	24.0%
9	自治体独自の事故防止関係資料	9,636	23.2%
10	園児の見落とし等防止	9,543	23.0%
11	幼稚園・保育所等の事故防止パンフレット	8,965	21.6%
12	家庭的保育ガイドライン	7,356	17.7%
13	保育職員のための学びのツール	3,713	8.9%
14	知らない	1,896	4.6%
15	その他	242	0.6%

図表 20 読んだことがあるガイドライン等（複数回答、n=41,701）

#	回答	件数	割合
1	事故防止ガイドライン	24,178	58.0%
2	アレルギー対応ガイドライン	24,092	57.8%
3	プール活動・水遊び監視のポイント	20,152	48.3%
4	勤務先独自の事故防止関係資料	17,677	42.4%
5	消費者庁ハンドブック	15,722	37.7%
6	食品による窒息	12,767	30.6%
7	自治体独自の事故防止関係資料	8,731	20.9%
8	その他の国の通知・事務連絡	8,442	20.2%
9	園児の見落とし等防止	7,473	17.9%
10	バス送迎・安全徹底マニュアル	7,470	17.9%
11	幼稚園・保育所等の事故防止パンフレット	6,902	16.6%
12	家庭的保育ガイドライン	5,342	12.8%
13	保育職員のための学びのツール	2,835	6.8%
14	読んだことはない	2,757	6.6%
15	その他	312	0.7%

図表 21 知っている・読んだことがあるガイドライン等（自由記載、抜粋・要約）

・大量調理衛生管理マニュアル(厚生労働省) ・学校の危機管理マニュアル作成の手引(文部科学省) ・学校給食における食物アレルギー対応指針(文部科学省) ・学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン(公益財団法人日本学校保健会) ・食物アレルギーを正しく知ろう(独立行政法人環境再生保全機構) ・熱中症環境保健マニュアル(環境省) ・学童保育の安全対策・危機管理(全国学童保育連絡協議会) ・病児保育室の事故防止ガイドライン(全国病児保育協議会) ・病児に関わる全ての保育者のための事故から考える安全対策ハンドブック(全国病児保育協議会) ・病児・病後児保育における保育士・看護師等のためのハンドブック(平成26年度厚生労働省科学研究費補助金「病児・病後児保育の実態把握と質向上に関する研究」) ・ファミリー・サポート・センター事業における事故防止および事故発生時の対応のための手引き(一般財団法人女性労働協会)
--

図表 22 知っているガイドライン等（職種別）

		07.知っている_01.事故防止ガイドライン	07.知っている_02.消費者庁ハンドブック	07.知っている_03.家庭的保育ガイドライン	07.知っている_04.プールの活動・水遊び監視のポイント	07.知っている_05.食品による窒息	07.知っている_06.アレルギー対応ガイドライン	07.知っている_07.幼稚園・保育所等の事故防止パンフレット	07.知っている_08.保育職員のための学びのツール	07.知っている_09.バス送迎・安全徹底マニュアル	07.知っている_10.園児の見落とし等防止	07.知っている_11.その他の国の通知・事務連絡	07.知っている_12.自治体独自の事故防止関係資料	07.知っている_13.勤務先独自の事故防止関係資料	07.知っている_14.知らない	07.知っている_15.その他	ALL
01_保育士	n=22938	75.1%	50.8%	20.0%	65.4%	40.6%	76.5%	24.2%	10.0%	23.7%	28.2%	31.0%	25.1%	45.0%	3.1%	0.6%	100.0%
02_保育補助者	n=2139	55.7%	41.5%	20.6%	39.1%	33.2%	51.2%	20.9%	13.6%	19.8%	19.1%	22.2%	19.6%	44.4%	10.5%	0.6%	100.0%
03_保育教諭	n=4841	74.6%	48.6%	16.7%	65.2%	38.3%	73.5%	24.8%	9.0%	34.5%	24.8%	27.5%	19.8%	43.0%	3.2%	0.6%	100.0%
04_幼稚園教諭	n=2736	63.6%	43.3%	12.8%	53.9%	28.4%	48.1%	26.8%	6.6%	42.1%	17.5%	14.9%	17.0%	39.3%	5.7%	0.5%	100.0%
05_栄養士・調理員	n=2500	43.4%	23.0%	11.0%	22.3%	57.7%	84.9%	10.0%	3.7%	11.0%	9.0%	18.9%	13.4%	28.2%	7.2%	0.6%	100.0%
06_嘱託医・看護師	n=802	75.2%	58.4%	17.0%	62.1%	47.8%	86.8%	26.6%	4.7%	18.8%	19.8%	35.9%	28.8%	49.9%	3.2%	1.0%	100.0%
07_バス運転手	n=132	31.8%	25.0%	3.0%	18.2%	8.3%	11.4%	11.4%	3.0%	73.5%	20.5%	8.3%	24.2%	50.8%	8.3%		100.0%
08_その他	n=5344	56.0%	38.6%	14.1%	26.2%	18.5%	40.6%	10.4%	7.0%	14.5%	10.7%	14.0%	26.9%	56.3%	8.3%	0.5%	100.0%

図表 23 読んだことがあるガイドライン等（職種別）

		08.読んだことがある_01.事故防止ガイドライン	08.読んだことがある_02.消費者庁ハンドブック	08.読んだことがある_03.家庭的保育ガイドライン	08.読んだことがある_04.プールの活動・水遊び監視のポイント	08.読んだことがある_05.食品による窒息	08.読んだことがある_06.アレルギー対応ガイドライン	08.読んだことがある_07.幼稚園・保育所等の事故防止パンフレット	08.読んだことがある_08.保育職員のための学びのツール	08.読んだことがある_09.バス送迎・安全徹底マニュアル	08.読んだことがある_10.園児の見落とし等防止	08.読んだことがある_11.その他の国の通知・事務連絡	08.読んだことがある_12.自治体独自の事故防止関係資料	08.読んだことがある_13.勤務先独自の事故防止関係資料	08.読んだことがある_14.読んだことはない	08.読んだことがある_15.その他	ALL
01_保育士	n=23051	63.8%	41.3%	14.6%	57.9%	33.1%	64.0%	18.5%	7.6%	17.5%	22.1%	24.1%	22.2%	42.3%	5.1%	0.5%	100.0%
02_保育補助者	n=2171	48.2%	36.2%	17.0%	33.4%	28.0%	42.6%	16.7%	11.1%	14.1%	14.9%	17.3%	18.9%	42.4%	11.4%	1.2%	100.0%
03_保育教諭	n=4873	63.2%	39.0%	12.1%	56.6%	31.0%	60.3%	19.4%	6.9%	26.4%	18.9%	20.7%	17.5%	40.9%	5.6%	0.7%	100.0%
04_幼稚園教諭	n=2759	51.7%	34.7%	7.8%	45.6%	22.0%	38.3%	20.6%	4.6%	32.4%	13.0%	11.3%	15.2%	37.6%	8.7%	1.1%	100.0%
05_栄養士・調理員	n=2519	31.9%	15.8%	6.8%	16.0%	50.9%	80.2%	7.1%	3.0%	6.8%	6.2%	13.7%	12.1%	25.4%	9.2%	0.4%	100.0%
06_嘱託医・看護師	n=805	66.2%	49.4%	12.7%	56.9%	40.6%	80.9%	20.4%	3.4%	14.3%	17.8%	27.3%	25.7%	47.0%	4.1%	1.4%	100.0%
07_バス運転手	n=137	26.3%	21.9%	4.4%	16.8%	7.3%	10.2%	9.5%	1.5%	70.1%	14.6%	5.8%	14.6%	43.8%	9.5%	1.5%	100.0%
08_その他	n=5386	47.3%	32.2%	9.6%	21.8%	14.7%	32.3%	7.7%	5.2%	10.7%	8.6%	11.5%	25.8%	53.7%	10.1%	1.5%	100.0%

ガイドライン等を認知したルートは、勤務先や自治体等で実施された研修が最も多い。うち主任等の上位役職、また常勤職員の回答割合が多くなっている。

図表 24 ガイドライン等の認知ルート（複数回答、n=41,697）

#	回答	件数	割合
1	勤務先や自治体等で実施された研修	23,882	57.3%
2	自治体から勤務先への通知・事務連絡	18,043	43.3%
3	勤務先からの案内	17,403	41.7%
4	国のWebサイト	5,805	13.9%
5	資格試験の教材	4,542	10.9%
6	自治体のWebサイト	3,051	7.3%
7	知らない・読んだことはない	2,668	6.4%
8	その他	524	1.3%

図表 25 ガイドライン等の認知ルート（自由記載、抜粋・要約）

・大学や養成校の授業、参考資料、実習 ・新規採用者研修 ・キャリアアップ研修 ・子育て支援員研修 ・各種団体からの案内（児童育成協会、全国学童保育連絡協議会、家庭的保育連絡協議会、全国病児保育協議会、女性労働協会等） ・勤務先（職員会議、常勤職員からの紹介、他の職員との会話） ・他の施設・字義用（他の幼稚園看護師より提供、他園からの連絡ツール、同職種間の情報） ・消防主催の救急救命 ・自己学習 ・自身のこどもの健診時の資料 ・こどもの保育園の掲示物 ・SNS(Facebook、X) ・新聞記事 ・保育園看護師オープンチャット
--

図表 26 ガイドライン等の認知ルート（役職別）

		09.認知 ルート _01.資格 試験の教 材	09.認知 ルート _02.勤務 先や自治 体等の研 修	09.認知 ルート _03.自治 体から勤 務先への 通知・事 務連絡	09.認知 ルート _04.勤務 先からの 案内	09.認知 ルート _05.国の Webサイ ト	09.認知 ルート _06.自治 体のWeb サイト	09.認知 ルート _07.知ら ない・読 んだこと はない	09.認知 ルート _08.その 他	ALL
03_主任	n=6147	6.8%	61.3%	67.8%	41.8%	23.9%	11.0%	2.2%	1.2%	100.0%
04_副主任・中核リー ダー・専門リーダー	n=5973	8.4%	68.2%	51.9%	46.0%	15.7%	7.6%	3.0%	0.8%	100.0%
05_若手リーダー・職 務分野別リーダー	n=3340	13.2%	64.8%	39.8%	42.1%	12.9%	6.3%	4.5%	1.0%	100.0%
06_役職についていな い	n=25325	12.0%	52.8%	35.8%	40.8%	11.1%	6.4%	8.4%	1.4%	100.0%
07_その他	n=912	13.9%	54.6%	42.4%	37.6%	18.1%	9.9%	7.2%	2.3%	100.0%

図表 27 ガイドライン等の認知ルート（勤務形態別）

		09.認知 ルート _01.資格 試験の教 材	09.認知 ルート _02.勤務 先や自治 体等の研 修	09.認知 ルート _03.自治 体から勤 務先への 通知・事 務連絡	09.認知 ルート _04.勤務 先からの 案内	09.認知 ルート _05.国の Webサイ ト	09.認知 ルート _06.自治 体のWeb サイト	09.認知 ルート _07.知ら ない・読 んだこと はない	09.認知 ルート _08.その 他	ALL
01_常勤職員	n=31336	10.5%	60.2%	46.4%	41.3%	14.6%	7.4%	5.1%	1.3%	100.0%
02_非常勤職員	n=8916	12.0%	48.9%	34.7%	43.2%	11.8%	6.8%	9.9%	1.1%	100.0%
03_その他	n=1445	12.7%	45.0%	29.1%	42.6%	12.1%	7.9%	12.4%	2.0%	100.0%

事故防止策等について振り返る頻度は、月に1、2回程度が最も多い。

図表 28 事故予防策や事故対応の振り返りの頻度

#	回答	件数	割合
1	月に1、2回程度	12,244	29.0%
2	毎日・出勤のたびに確認している	5,740	13.6%
3	一度読んだだけである・繰り返し読んでいない	5,261	12.5%
4	1年に1、2回程度	5,109	12.1%
5	半年に1、2回程度	4,963	11.8%
6	週に1、2回程度	4,374	10.4%
7	3カ月に1、2回程度	1,816	4.3%
8	週に3、4回程度	1,703	4.0%
9	読んだことはない	961	2.3%
	全体	42,171	100.0%

ウ. 「睡眠中、プール活動・水遊び、食事中」の事故防止策の理解・実行

特に重大事故につながりやすい「睡眠中、プール活動・水遊び、食事中」の場面に焦点を当て、当該場面における事故防止策としてガイドライン等において示されているものの理解・実行について設問を立てた。結果、いずれの場面も「理解している」より「実行している」の回答が少ない。

年齢別では、他の年代より20代から40代の理解・実行の割合が多い。

施設・事業種別では、施設・事業ごとの特性によって注力する事故防止策に差異があると思われる。例えば、睡眠中の事故防止策をみると、幼稚園や放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）等における実行の割合が少なくなっている。これは、当該施設・事業における対象年齢児について、睡眠中の事故発生のリスクが低いという意識があらわれているものと考ええる。

職種別でも差異がある。例えば、食事中の事故防止策をみると、特に避けるべきまたは配慮が必要な食材への理解・実行の割合について、保育士等はその他の食事介助等に関する選択肢よりも少ない一方、栄養士・調理員はその他の選択肢よりも多い。これは、食事介助に関することは保育士等、調理に関することは栄養士・調理員という意識や実際の業務分担の影響が考えられる。

ただし、「イ．ガイドライン等の認知」において参照した通り、ガイドラインについて読んだことがあると回答した保育士は6割を超えるが、栄養士・調理師は約3割程度となっており、調理に関する留意事項が業務従事者に行き渡っていない場合も想定される。

役職別では、特にリーダー職にある者の理解・実行の割合が多い。勤務形態別では、常勤職員の理解・実行の割合が多い。

図表 29 理解している睡眠中の事故防止策（複数回答、n=37,264）

#	回答	件数	割合
1	一人にしない	30,698	82.4%
2	仰向けに寝かせる	29,845	80.1%
3	呼吸・体位などの定期点検	29,603	79.4%
4	異物や嘔吐物の確認	28,229	75.8%
5	やわらかい布団などを使用しない	26,962	72.4%
6	預け始めの時期は特に注意	24,779	66.5%
7	睡眠中の場面に従事しない	5,515	14.8%
8	その他	397	1.1%

図表 30 実行している睡眠中の事故防止策（複数回答、n=37,264）

#	回答	件数	割合
1	一人にしない	28,968	77.7%
2	呼吸・体位などの定期点検	27,505	73.8%
3	仰向けに寝かせる	26,895	72.2%
4	異物や嘔吐物の確認	25,732	69.1%
5	やわらかい布団などを使用しない	25,074	67.3%
6	預け始めの時期は特に注意	23,529	63.1%
7	睡眠中の場面に従事しない	6,492	17.4%
8	その他	532	1.4%

図表 31 理解している睡眠中の事故防止策（年齢別）

		11.理解 （睡眠 中）_01. 仰向けに 寝かせる	11.理解 （睡眠 中）_02. 一人にし ない	11.理解 （睡眠 中）_03. 異物や嘔 吐物の確 認	11.理解 （睡眠 中）_04. 呼吸・体 位などの 定期点検	11.理解 （睡眠 中）_05. やわらか い布団な どを使用 しない	11.理解 （睡眠 中）_06. 預け始め の時期は 特に注意	11.理解 （睡眠 中）_07. 睡眠中の 場面に従 事しない	11.理解 （睡眠 中）_08. その他	ALL
01_18-19歳	n=50	44.0%	56.0%	34.0%	40.0%	24.0%	24.0%	32.0%		100.0%
02_20-29歳	n=7833	86.3%	87.6%	79.9%	84.4%	71.5%	67.5%	8.8%	0.4%	100.0%
03_30-39歳	n=8477	86.8%	87.8%	82.9%	86.4%	80.0%	73.3%	10.0%	0.9%	100.0%
04_40-49歳	n=9734	83.6%	84.9%	79.0%	83.0%	77.3%	70.6%	13.1%	1.0%	100.0%
05_50-59歳	n=7500	72.9%	76.7%	69.6%	72.7%	68.2%	62.2%	20.7%	1.5%	100.0%
06_60-69歳	n=3354	59.0%	65.6%	56.4%	59.2%	54.4%	48.7%	29.8%	1.9%	100.0%
07_70歳以上	n=315	39.4%	50.5%	37.8%	37.5%	32.4%	30.2%	43.2%	3.2%	100.0%

図表 32 理解している睡眠中の事故防止策（施設・事業種別）

		11.理解 （睡眠 中）_01. 仰向けに 寝かせる	11.理解 （睡眠 中）_02. 一人にし ない	11.理解 （睡眠 中）_03. 異物や嘔 吐物の確 認	11.理解 （睡眠 中）_04. 呼吸・体 位などの 定期点検	11.理解 （睡眠 中）_05. やわらか い布団な どを使用 しない	11.理解 （睡眠 中）_06. 預け始め の時期は 特に注意	11.理解 （睡眠 中）_07. 睡眠中の 場面に従 事しない	11.理解 （睡眠 中）_08. その他	ALL
01_認定こども園	n=7051	86.9%	87.3%	82.1%	86.0%	77.0%	70.1%	10.7%	0.9%	100.0%
02_幼稚園	n=2543	72.8%	76.7%	63.7%	70.9%	56.5%	51.0%	19.1%	0.3%	100.0%
03_認可保育所	n=14710	89.6%	89.2%	85.2%	88.6%	82.6%	75.9%	9.2%	0.8%	100.0%
04_小規模保育事業	n=2405	90.4%	90.0%	86.7%	89.7%	84.3%	79.5%	8.1%	0.6%	100.0%
05_家庭的保育事業	n=173	89.6%	89.0%	82.7%	89.6%	82.7%	80.9%	9.2%	2.9%	100.0%
06_居宅訪問型保育事業	n=75	92.0%	92.0%	88.0%	93.3%	86.7%	86.7%	6.7%	1.3%	100.0%
07_事業所内保育事業 （認可）	n=449	89.5%	90.9%	85.5%	89.8%	84.9%	80.6%	7.6%	1.1%	100.0%
08_一時預かり事業	n=168	91.1%	94.6%	83.9%	88.1%	82.1%	77.4%	3.6%	0.6%	100.0%
09_病児保育事業	n=317	95.0%	95.6%	91.5%	97.8%	94.6%	81.4%	0.6%	1.3%	100.0%
10_子育て援助活動支 援事業（ファミ リー・サポート・セ ンター事業）	n=267	70.8%	72.7%	62.2%	65.2%	68.9%	55.4%	23.2%	4.1%	100.0%
11_子育て短期支援事 業（ショートステ イ・トワイライトス テイ）	n=103	81.6%	87.4%	73.8%	83.5%	66.0%	68.0%	4.9%	1.9%	100.0%
12_放課後児童健全育 成事業（放課後児童 クラブ）	n=5282	33.9%	48.4%	31.6%	34.8%	26.4%	23.0%	43.4%	2.4%	100.0%
13_企業主導型保育施 設	n=2154	88.6%	88.3%	86.0%	88.2%	85.4%	81.6%	10.6%	0.7%	100.0%
14_地方単独保育施設	n=170	82.9%	83.5%	78.2%	82.4%	75.9%	66.5%	15.9%	1.2%	100.0%
15_その他の認可外保 育施設	n=1312	95.1%	94.8%	91.6%	94.4%	91.3%	86.8%	3.9%	1.4%	100.0%
16_認可外の居宅訪問 型保育事業	n=56	94.6%	92.9%	85.7%	91.1%	89.3%	83.9%	3.6%	3.6%	100.0%
18_その他	n=28	92.9%	96.4%	85.7%	96.4%	89.3%	71.4%	3.6%		100.0%

図表 33 理解している睡眠中の事故防止策（職種別）

		11.理解 （睡眠 中）_01. 仰向けに 寝かせる	11.理解 （睡眠 中）_02. 一人にし ない	11.理解 （睡眠 中）_03. 異物や嘔 吐物の確 認	11.理解 （睡眠 中）_04. 呼吸・体 位などの 定期点検	11.理解 （睡眠 中）_05. やわらか い布団な どを使用 しない	11.理解 （睡眠 中）_06. 預け始め の時期は 特に注意	11.理解 （睡眠 中）_07. 睡眠中の 場面に従 事しない	11.理解 （睡眠 中）_08. その他	ALL
01_保育士	n=20010	97.3%	97.2%	93.2%	96.5%	90.4%	83.9%	1.0%	0.9%	100.0%
02_保育補助者	n=2044	72.2%	79.3%	65.1%	71.8%	63.4%	55.3%	16.1%	0.8%	100.0%
03_保育教諭	n=4246	96.8%	97.2%	91.7%	95.9%	86.6%	79.1%	0.8%	0.8%	100.0%
04_幼稚園教諭	n=2513	79.7%	83.6%	70.8%	78.2%	62.4%	56.9%	12.3%	0.4%	100.0%
05_栄養士・調理員	n=2344	8.9%	9.4%	8.1%	8.0%	6.2%	5.3%	89.7%	0.0%	100.0%
06_嘱託医・看護師	n=747	98.0%	98.3%	94.8%	98.7%	96.8%	88.2%	0.7%	3.5%	100.0%
07_バス運転手	n=133	13.5%	12.8%	9.0%	9.8%	5.3%	7.5%	85.0%		100.0%
08_その他	n=5226	35.0%	46.7%	32.1%	35.5%	27.9%	24.4%	46.3%	2.6%	100.0%

図表 34 理解している睡眠中の事故防止策（役職別）

		11.理解 （睡眠 中）_01. 仰向けに 寝かせる	11.理解 （睡眠 中）_02. 一人にし ない	11.理解 （睡眠 中）_03. 異物や嘔 吐物の確 認	11.理解 （睡眠 中）_04. 呼吸・体 位などの 定期点検	11.理解 （睡眠 中）_05. やわらか い布団な どを使用 しない	11.理解 （睡眠 中）_06. 預け始め の時期は 特に注意	11.理解 （睡眠 中）_07. 睡眠中の 場面に従 事しない	11.理解 （睡眠 中）_08. その他	ALL
03_主任	n=5469	82.2%	85.1%	78.9%	82.2%	76.1%	71.2%	12.4%	1.6%	100.0%
04_副主任・中核リー ダー・専門リーダー	n=5294	88.2%	88.9%	84.9%	87.8%	81.8%	76.9%	8.7%	1.4%	100.0%
05_若手リーダー・職 務分野別リーダー	n=2862	86.7%	86.3%	82.3%	85.4%	78.0%	72.9%	11.1%	1.1%	100.0%
06_役職についていな い	n=22807	77.4%	80.1%	72.5%	76.6%	69.0%	62.6%	16.9%	0.8%	100.0%
07_その他	n=831	67.0%	72.0%	62.9%	65.0%	58.7%	53.4%	24.2%	2.0%	100.0%

図表 35 理解している睡眠中の事故防止策（勤務形態別）

		11.理解 （睡眠 中）_01. 仰向けに 寝かせる	11.理解 （睡眠 中）_02. 一人にし ない	11.理解 （睡眠 中）_03. 異物や嘔 吐物の確 認	11.理解 （睡眠 中）_04. 呼吸・体 位などの 定期点検	11.理解 （睡眠 中）_05. やわらか い布団な どを使用 しない	11.理解 （睡眠 中）_06. 預け始め の時期は 特に注意	11.理解 （睡眠 中）_07. 睡眠中の 場面に従 事しない	11.理解 （睡眠 中）_08. その他	ALL
01_常勤職員	n=27672	83.7%	85.2%	79.4%	83.0%	75.4%	70.0%	12.3%	1.0%	100.0%
02_非常勤職員	n=8244	70.6%	75.3%	66.2%	70.3%	64.3%	57.3%	21.2%	1.0%	100.0%
03_その他	n=1347	63.2%	68.2%	58.6%	61.7%	58.6%	51.2%	27.1%	2.2%	100.0%

図表 36 実行している睡眠中の事故防止策（年齢別）

		16.実行 （睡眠 中）_01. 仰向けに 寝かせる	16.実行 （睡眠 中）_02. 一人にし ない	16.実行 （睡眠 中）_03. 異物や嘔 吐物の確 認	16.実行 （睡眠 中）_04. 呼吸・体 位などの 定期点検	16.実行 （睡眠 中）_05. やわらか い布団な どを使用 しない	16.実行 （睡眠 中）_06. 預け始め の時期は 特に注意	16.実行 （睡眠 中）_07. 睡眠中の 場面に従 事しない	16.実行 （睡眠 中）_08. その他	ALL
01_18-19歳	n=49	30.6%	46.9%	22.4%	22.4%	16.3%	14.3%	38.8%		100.0%
02_20-29歳	n=7806	78.5%	83.6%	72.4%	78.5%	67.1%	64.2%	11.5%	0.5%	100.0%
03_30-39歳	n=8345	79.9%	84.3%	77.0%	82.0%	75.7%	70.8%	12.7%	1.2%	100.0%
04_40-49歳	n=9532	76.9%	81.2%	74.2%	78.6%	73.5%	68.7%	16.0%	1.6%	100.0%
05_50-59歳	n=7417	66.3%	73.3%	64.5%	68.7%	64.1%	59.8%	23.5%	2.0%	100.0%
06_60-69歳	n=3349	51.5%	61.4%	50.6%	54.8%	49.4%	45.6%	33.0%	2.8%	100.0%
07_70歳以上	n=314	34.7%	47.5%	31.2%	32.8%	30.9%	28.3%	46.2%	1.3%	100.0%

図表 37 実行している睡眠中の事故防止策（施設・事業別）

		16.実行 （睡眠 中）_01. 仰向けに 寝かせる	16.実行 （睡眠 中）_02. 一人にし ない	16.実行 （睡眠 中）_03. 異物や嘔 吐物の確 認	16.実行 （睡眠 中）_04. 呼吸・体 位などの 定期点検	16.実行 （睡眠 中）_05. やわらか い布団な どを使用 しない	16.実行 （睡眠 中）_06. 預け始め の時期は 特に注意	16.実行 （睡眠 中）_07. 睡眠中の 場面に従 事しない	16.実行 （睡眠 中）_08. その他	ALL
01_認定こども園	n=6929	81.8%	84.8%	77.6%	82.5%	74.5%	69.2%	12.6%	1.1%	100.0%
02_幼稚園	n=2439	55.9%	65.9%	48.6%	56.6%	45.3%	40.5%	28.5%	0.9%	100.0%
03_認可保育所	n=14464	85.0%	87.4%	81.9%	85.8%	80.4%	75.0%	10.6%	1.0%	100.0%
04_小規模保育事業	n=2365	86.0%	87.7%	83.6%	86.8%	81.3%	78.7%	9.6%	0.8%	100.0%
05_家庭的保育事業	n=175	83.4%	88.6%	82.3%	88.0%	84.0%	82.3%	9.7%	4.0%	100.0%
06_居宅訪問型保育事業	n=73	89.0%	89.0%	91.8%	93.2%	89.0%	86.3%	6.8%	4.1%	100.0%
07_事業所内保育事業（認可）	n=448	87.1%	89.5%	83.9%	87.9%	83.3%	80.1%	7.8%	1.1%	100.0%
08_一時預かり事業	n=169	87.6%	93.5%	84.0%	87.6%	81.7%	79.9%	4.1%	1.8%	100.0%
09_病児保育事業	n=318	89.0%	91.8%	89.9%	97.8%	92.1%	83.6%	1.6%	1.6%	100.0%
10_子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）	n=272	52.2%	54.4%	46.7%	50.7%	50.0%	44.1%	40.4%	5.5%	100.0%
11_子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ）	n=105	67.6%	71.4%	59.0%	79.0%	60.0%	73.3%	7.6%	3.8%	100.0%
12_放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）	n=5359	20.0%	41.4%	19.5%	26.0%	17.5%	16.1%	48.5%	3.5%	100.0%
13_企業主導型保育施設	n=2135	84.4%	85.5%	81.6%	85.1%	81.8%	79.4%	13.3%	0.6%	100.0%
14_地方単独保育施設	n=167	79.6%	80.2%	76.0%	79.6%	72.5%	66.5%	18.0%	1.2%	100.0%
15_その他の認可外保育施設	n=1308	92.0%	93.3%	89.1%	93.4%	89.4%	86.6%	4.7%	1.9%	100.0%
16_認可外の居宅訪問型保育事業	n=60	86.7%	88.3%	80.0%	91.7%	80.0%	80.0%	5.0%	5.0%	100.0%
18_その他	n=26	92.3%	96.2%	92.3%	92.3%	80.8%	84.6%	3.8%		100.0%

図表 38 実行している睡眠中の事故防止策（職種別）

		16.実行 （睡眠 中）_01. 仰向けに 寝かせる	16.実行 （睡眠 中）_02. 一人にし ない	16.実行 （睡眠 中）_03. 異物や嘔 吐物の確 認	16.実行 （睡眠 中）_04. 呼吸・体 位などの 定期点検	16.実行 （睡眠 中）_05. やわらか い布団な どを使用 しない	16.実行 （睡眠 中）_06. 預け始め の時期は 特に注意	16.実行 （睡眠 中）_07. 睡眠中の 場面に従 事しない	16.実行 （睡眠 中）_08. その他	ALL
01_保育士	n=19590	93.5%	96.1%	90.4%	94.6%	88.7%	83.8%	1.4%	1.1%	100.0%
02_保育補助者	n=2047	64.0%	74.5%	57.9%	65.3%	57.9%	51.6%	19.5%	0.8%	100.0%
03_保育教諭	n=4116	92.5%	96.2%	88.6%	93.5%	84.9%	79.4%	1.5%	1.2%	100.0%
04_幼稚園教諭	n=2403	64.2%	73.8%	56.1%	64.8%	51.3%	47.3%	20.7%	1.1%	100.0%
05_栄養士・調理員	n=2476	4.2%	4.8%	3.7%	3.9%	3.6%	2.9%	94.4%	0.1%	100.0%
06_嘱託医・看護師	n=743	92.7%	95.8%	91.1%	96.1%	93.0%	85.6%	2.2%	4.2%	100.0%
07_バス運転手	n=137	8.0%	8.8%	4.4%	7.3%	5.8%	5.8%	89.8%		100.0%
08_その他	n=5300	21.1%	38.4%	20.0%	26.5%	18.8%	17.5%	52.6%	3.8%	100.0%

図表 39 実行している睡眠中の事故防止策（役職別）

		16.実行 (睡眠 中) _01. 仰向けに 寝かせる	16.実行 (睡眠 中) _02. 一人にし ない	16.実行 (睡眠 中) _03. 異物や嘔 吐物の確 認	16.実行 (睡眠 中) _04. 呼吸・体 位などの 定期点検	16.実行 (睡眠 中) _05. やわらか い布団な どを使用 しない	16.実行 (睡眠 中) _06. 預け始め の時期は 特に注意	16.実行 (睡眠 中) _07. 睡眠中の 場面に従 事しない	16.実行 (睡眠 中) _08. その他	ALL
03_主任	n=5337	76.3%	82.4%	74.3%	78.4%	72.8%	68.6%	14.3%	2.7%	100.0%
04_副主任・中核リー ダー・専門リーダ－	n=5181	82.7%	87.0%	80.7%	84.7%	78.9%	76.0%	10.6%	1.7%	100.0%
05_若手リーダー・職 務分野別リーダー	n=2833	80.3%	83.7%	76.5%	81.4%	74.2%	70.1%	13.6%	1.0%	100.0%
06_役職についていな い	n=22615	69.8%	75.8%	66.2%	71.4%	64.4%	59.9%	20.1%	1.1%	100.0%
07_その他	n=846	55.4%	64.5%	53.0%	56.7%	51.4%	47.5%	30.1%	3.7%	100.0%

図表 40 実行している睡眠中の事故防止策（勤務形態別）

		16.実行 (睡眠 中) _01. 仰向けに 寝かせる	16.実行 (睡眠 中) _02. 一人にし ない	16.実行 (睡眠 中) _03. 異物や嘔 吐物の確 認	16.実行 (睡眠 中) _04. 呼吸・体 位などの 定期点検	16.実行 (睡眠 中) _05. やわらか い布団な どを使用 しない	16.実行 (睡眠 中) _06. 預け始め の時期は 特に注意	16.実行 (睡眠 中) _07. 睡眠中の 場面に従 事しない	16.実行 (睡眠 中) _08. その他	ALL
01_常勤職員	n=27218	77.1%	81.8%	73.9%	78.6%	71.5%	67.7%	14.9%	1.4%	100.0%
02_非常勤職員	n=8242	62.7%	70.9%	59.8%	65.0%	59.6%	54.3%	24.6%	1.3%	100.0%
03_その他	n=1352	53.9%	63.2%	51.2%	57.0%	51.8%	47.1%	30.6%	3.1%	100.0%

図表 41 理解しているプール活動・水遊び中の事故防止策（複数回答、n=37,010）

#	回答	件数	割合
1	監視担当者と指導担当者の分担	28,591	77.3%
2	監視エリア全域をくまなく監視	27,604	74.6%
3	動かない・不自然な動きをしているこどもの発見	26,976	72.9%
4	時間的余裕をもってプール活動を行う	26,322	71.1%
5	プール活動・水遊びの場面に従事しない	5,518	14.9%
6	その他	878	2.4%

図表 42 実行しているプール活動・水遊び中の事故防止策（複数回答、n=37,010）

#	回答	件数	割合
1	監視担当者と指導担当者の分担	25,259	68.2%
2	動かない・不自然な動きをしているこどもの発見	24,732	66.8%
3	時間的余裕をもってプール活動を行う	24,596	66.5%
4	監視エリア全域をくまなく監視	24,551	66.3%
5	プール活動・水遊びの場面に従事しない	6,286	17.0%
6	その他	1,766	4.8%

図表 43 理解しているプール活動・水遊び中の事故防止策（年齢別）

		12.理解 (プール 活動・水 遊び) _01.監視 担当者と 指導担当 者の分担	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _02.監視 エリア全 域をくま なく監視	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _03.動か ない・不 自然な動 きをして いるこど もの発見	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _04.時間 的余裕を もって プール活 動を行う	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _05.プー ル活動・ 水遊びの 場面に従 事しない	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _06.その 他	ALL
01_18-19歳	n=52	51.9%	51.9%	46.2%	40.4%	19.2%	1.9%	100.0%
02_20-29歳	n=7751	83.7%	81.5%	78.1%	76.9%	8.3%	1.0%	100.0%
03_30-39歳	n=8419	84.6%	82.4%	80.4%	78.7%	9.7%	1.5%	100.0%
04_40-49歳	n=9641	80.8%	78.1%	76.7%	74.1%	13.0%	1.9%	100.0%
05_50-59歳	n=7473	69.0%	66.3%	65.6%	63.9%	21.7%	3.4%	100.0%
06_60-69歳	n=3358	56.0%	51.7%	51.6%	50.3%	30.7%	6.3%	100.0%
07_70歳以上	n=316	39.6%	33.2%	33.2%	34.2%	44.3%	8.9%	100.0%

図表 44 理解しているプール活動・水遊び中の事故防止策（施設・事業種別）

		12.理解 (プール 活動・水 遊び) _01.監視 担当者と 指導担当 者の分担	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _02.監視 エリア全 域をくま なく監視	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _03.動か ない・不 自然な動 きをして いるこど もの発見	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _04.時間 的余裕を もって プール活 動を行う	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _05.プー ル活動・ 水遊びの 場面に従 事しない	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _06.その 他	ALL
01_認定こども園	n=6988	83.6%	81.7%	78.4%	75.0%	11.4%	1.0%	100.0%
02_幼稚園	n=2508	83.9%	81.7%	77.6%	75.7%	7.2%	0.9%	100.0%
03_認可保育所	n=14540	85.8%	82.8%	80.7%	79.3%	10.3%	0.9%	100.0%
04_小規模保育事業	n=2390	82.9%	77.2%	77.8%	79.2%	10.2%	1.6%	100.0%
05_家庭的保育事業	n=175	75.4%	70.3%	73.7%	74.3%	10.9%	3.4%	100.0%
06_居宅訪問型保育事業	n=72	55.6%	52.8%	58.3%	61.1%	27.8%	6.9%	100.0%
07_事業所内保育事業 (認可)	n=449	83.3%	80.6%	78.4%	79.5%	9.1%	0.9%	100.0%
08_一時預かり事業	n=169	65.1%	58.6%	60.9%	60.9%	19.5%	7.1%	100.0%
09_病児保育事業	n=320	40.9%	41.6%	44.4%	40.9%	41.6%	8.1%	100.0%
10_子育て援助活動支 援事業（ファミ リー・サポート・セ ンター事業）	n=265	37.0%	39.2%	38.1%	35.8%	49.4%	4.9%	100.0%
11_子育て短期支援事 業（ショートステ イ・トワイライトス テイ）	n=103	45.6%	46.6%	47.6%	62.1%	19.4%	6.8%	100.0%
12_放課後児童健全育 成事業（放課後児童 クラブ）	n=5304	40.3%	39.0%	38.9%	35.4%	37.7%	8.7%	100.0%
13_企業主導型保育施 設	n=2150	83.9%	80.2%	79.5%	78.9%	12.2%	1.5%	100.0%
14_地方単独保育施設	n=168	78.6%	76.8%	73.2%	74.4%	17.9%	1.8%	100.0%
15_その他の認可外保 育施設	n=1322	84.9%	80.9%	81.9%	81.7%	7.6%	3.0%	100.0%
16_認可外の居宅訪問 型保育事業	n=59	66.1%	61.0%	62.7%	61.0%	20.3%	10.2%	100.0%
18_その他	n=28	96.4%	89.3%	78.6%	89.3%	3.6%		100.0%

図表 45 理解しているプール活動・水遊び中の事故防止策（職種別）

		12.理解 (プール 活動・水 遊び) _01.監視 担当者と 指導担当 者の分担	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _02.監視 エリア全 域をくま なく監視	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _03.動か ない・不 自然な動 きをして いるこど もの発見	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _04.時間 的余裕を もって プール活 動を行う	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _05.プー ル活動・ 水遊びの 場面に従 事しない	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _06.その 他	ALL
1_保育士	n=19754	92.4%	89.1%	87.3%	86.3%	2.1%	1.5%	100.0%
2_保育補助者	n=2059	66.8%	63.3%	61.2%	58.0%	19.4%	2.4%	100.0%
3_保育教諭	n=4177	94.4%	91.6%	88.8%	85.5%	0.8%	1.2%	100.0%
4_幼稚園教諭	n=2472	89.2%	87.2%	83.3%	81.1%	1.6%	1.1%	100.0%
5_栄養士・調理員	n=2440	5.1%	4.4%	3.5%	3.9%	93.6%	0.0%	100.0%
6_嘱託医・看護師	n=741	85.6%	83.4%	82.2%	81.2%	7.4%	3.6%	100.0%
7_バス運転手	n=134	13.4%	11.9%	11.9%	9.7%	85.1%		100.0%
8_その他	n=5233	38.9%	37.9%	37.9%	34.3%	41.6%	8.2%	100.0%

図表 46 理解しているプール活動・水遊び中の事故防止策（役職別）

		12.理解 (プール 活動・水 遊び) _01.監視 担当者と 指導担当 者の分担	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _02.監視 エリア全 域をくま なく監視	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _03.動か ない・不 自然な動 きをして いるこど もの発見	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _04.時間 的余裕を もって プール活 動を行う	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _05.プー ル活動・ 水遊びの 場面に従 事しない	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _06.その 他	ALL
3_主任	n=5379	83.5%	81.2%	80.8%	78.6%	9.3%	3.6%	100.0%
04_副主任・中核リー ダー・専門リーダー	n=5202	87.4%	84.6%	82.9%	81.1%	7.9%	2.2%	100.0%
05_若手リーダー・職 務分野別リーダー	n=2836	85.0%	81.3%	79.3%	77.2%	11.1%	1.2%	100.0%
06_役職についていな い	n=22757	73.1%	70.4%	68.5%	66.8%	17.9%	2.2%	100.0%
7_その他	n=836	62.1%	59.7%	57.9%	56.5%	25.5%	4.5%	100.0%

図表 47 理解しているプール活動・水遊び中の事故防止策（勤務形態別）

		12.理解 (プール 活動・水 遊び) _01.監視 担当者と 指導担当 者の分担	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _02.監視 エリア全 域をくま なく監視	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _03.動か ない・不 自然な動 きをして いるこど もの発見	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _04.時間 的余裕を もって プール活 動を行う	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _05.プー ル活動・ 水遊びの 場面に従 事しない	12.理解 (プール 活動・水 遊び) _06.その 他	ALL
01_常勤職員	n=27389	81.9%	79.4%	77.4%	75.9%	11.6%	2.0%	100.0%
02_非常勤職員	n=8283	65.3%	62.2%	61.2%	58.8%	23.5%	2.9%	100.0%
03_その他	n=1338	56.3%	52.6%	53.8%	49.9%	28.8%	6.4%	100.0%

図表 48 実行しているプール活動・水遊び中の事故防止策（年齢別）

		17.実行 (プール 活動・水 遊び) _01.監視 担当者 と指導 担当者 の分担	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _02.監視 エリア全 域をくま なく監視	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _03.動か ない・不 自然な動 きをして いるこど もの発見	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _04.時間 的余裕を もって プール活 動を行う	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _05.プー ル活動・ 水遊びの 場面に従 事しない	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _06.その 他	ALL
01_18-19歳	n=53	49.1%	43.4%	39.6%	32.1%	20.8%	5.7%	100.0%
02_20-29歳	n=7671	75.6%	73.7%	72.8%	73.3%	10.4%	3.1%	100.0%
03_30-39歳	n=8268	76.4%	74.8%	75.3%	74.7%	12.0%	3.6%	100.0%
04_40-49歳	n=9480	72.8%	71.1%	71.9%	70.5%	15.4%	4.1%	100.0%
05_50-59歳	n=7455	60.5%	58.3%	59.9%	59.6%	23.8%	6.5%	100.0%
06_60-69歳	n=3364	47.3%	44.9%	45.2%	46.3%	32.8%	9.5%	100.0%
07_70歳以上	n=321	35.8%	28.3%	30.8%	28.7%	46.7%	8.4%	100.0%

図表 49 実行しているプール活動・水遊び中の事故防止策（施設・事業別）

		17.実行 (プール 活動・水 遊び) _01.監視 担当者 と指導 担当者 の分担	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _02.監視 エリア全 域をくま なく監視	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _03.動か ない・不 自然な動 きをして いるこど もの発見	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _04.時間 的余裕を もって プール活 動を行う	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _05.プー ル活動・ 水遊びの 場面に従 事しない	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _06.その 他	ALL
01_認定こども園	n=6871	77.6%	76.2%	76.2%	73.3%	12.9%	2.0%	100.0%
02_幼稚園	n=2497	77.4%	76.2%	74.4%	73.5%	8.0%	1.9%	100.0%
03_認可保育所	n=14227	79.3%	77.0%	77.0%	76.1%	11.9%	2.7%	100.0%
04_小規模保育事業	n=2366	72.7%	68.9%	71.9%	75.9%	11.7%	4.1%	100.0%
05_家庭的保育事業	n=174	62.1%	62.1%	70.7%	74.1%	12.1%	4.6%	100.0%
06_居宅訪問型保育事業	n=74	27.0%	35.1%	40.5%	44.6%	33.8%	18.9%	100.0%
07_事業所内保育事業 (認可)	n=440	74.5%	73.0%	75.0%	74.1%	11.4%	2.7%	100.0%
08_一時預かり事業	n=172	45.9%	45.9%	43.0%	51.7%	26.2%	14.0%	100.0%
09_病児保育事業	n=331	21.8%	21.5%	23.3%	24.2%	51.7%	19.9%	100.0%
10_子育て援助活動支 援事業（ファミ リー・サポート・セ ンター事業）	n=276	22.8%	21.0%	21.7%	23.6%	60.5%	11.6%	100.0%
11_子育て短期支援事 業（ショートステ イ・トワイライトス テイ）	n=106	23.6%	34.0%	34.0%	50.9%	29.2%	15.1%	100.0%
12_放課後児童健全育 成事業（放課後児童 クラブ）	n=5375	29.7%	28.6%	29.0%	28.5%	41.4%	13.9%	100.0%
13_企業主導型保育施 設	n=2145	74.5%	71.7%	73.3%	74.9%	15.4%	3.6%	100.0%
14_地方単独保育施設	n=167	72.5%	71.3%	70.1%	70.7%	19.2%	4.2%	100.0%
15_その他の認可外保 育施設	n=1304	72.3%	68.3%	73.7%	77.8%	9.4%	6.6%	100.0%
16_認可外の居宅訪問 型保育事業	n=60	43.3%	46.7%	43.3%	48.3%	25.0%	20.0%	100.0%
18_その他	n=27	81.5%	85.2%	81.5%	85.2%	3.7%	7.4%	100.0%

図表 50 実行しているプール活動・水遊び中の事故防止策（職種別）

		17.実行 (プール 活動・水 遊び) _01.監視 担当者 と指導 担当者 の分担	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _02.監視 エリア全 域をくま なく監視	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _03.動か ない・不 自然な動 きをして いるこど もの発見	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _04.時間 的余裕を もって プール活 動を行う	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _05.プー ル活動・ 水遊びの 場面に従 事しない	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _06.その 他	ALL
1_保育士	n=19371	84.4%	81.8%	82.7%	83.2%	3.3%	3.8%	100.0%
2_保育補助者	n=2049	56.1%	54.3%	54.7%	52.1%	22.3%	5.7%	100.0%
3_保育教諭	n=4056	89.1%	87.1%	86.8%	84.5%	1.5%	2.5%	100.0%
4_幼稚園教諭	n=2449	83.7%	82.7%	81.4%	80.4%	1.8%	1.9%	100.0%
5_栄養士・調理員	n=2491	1.9%	2.0%	1.6%	1.7%	96.9%	0.2%	100.0%
6_嘱託医・看護師	n=740	73.2%	72.3%	73.8%	71.1%	12.8%	7.4%	100.0%
7_バス運転手	n=137	10.9%	12.4%	11.7%	10.9%	85.4%		100.0%
8_その他	n=5319	28.0%	27.1%	27.5%	26.8%	46.3%	13.2%	100.0%

図表 51 実行しているプール活動・水遊び中の事故防止策（役職別）

		17.実行 (プール 活動・水 遊び) _01.監視 担当者 と指導 担当者 の分担	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _02.監視 エリア全 域をくま なく監視	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _03.動か ない・不 自然な動 きをして いるこど もの発見	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _04.時間 的余裕を もって プール活 動を行う	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _05.プー ル活動・ 水遊びの 場面に従 事しない	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _06.その 他	ALL
3_主任	n=5289	76.4%	75.1%	76.5%	75.1%	10.7%	6.7%	100.0%
04_副主任・中核リーダー・専門リーダー	n=5119	81.3%	78.3%	78.8%	78.5%	8.8%	4.5%	100.0%
05_若手リーダー・職務分野別リーダー	n=2777	78.7%	76.2%	76.2%	74.4%	12.5%	3.0%	100.0%
06_役職についていない	n=22576	63.9%	62.1%	62.5%	62.5%	20.7%	4.6%	100.0%
7_その他	n=851	52.5%	49.7%	50.4%	49.5%	29.1%	8.5%	100.0%

図表 52 実行しているプール活動・水遊び中の事故防止策（勤務形態別）

		17.実行 (プール 活動・水 遊び) _01.監視 担当者 と指導 担当者 の分担	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _02.監視 エリア全 域をくま なく監視	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _03.動か ない・不 自然な動 きをして いるこど もの発見	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _04.時間 的余裕を もって プール活 動を行う	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _05.プー ル活動・ 水遊びの 場面に従 事しない	17.実行 (プール 活動・水 遊び) _06.その 他	ALL
01_常勤職員	n=26956	74.4%	72.5%	72.7%	72.5%	13.5%	4.2%	100.0%
02_非常勤職員	n=8292	55.5%	53.4%	54.5%	53.7%	26.7%	5.6%	100.0%
03_その他	n=1364	44.2%	42.7%	44.5%	43.9%	31.5%	12.0%	100.0%

図表 53 理解している食事中の事故防止策（複数回答、n=37,577）

#	回答	件数	割合
1	こどもの口にあった量で与える	32,511	86.5%
2	こどもの意志にあったタイミングで与える	31,070	82.7%
3	食べ物を飲み込んだことを確認する	31,027	82.6%
4	汁物などの水分を適切に与える	30,157	80.3%
5	眠くなっていないか、正しく座っているか注意	30,141	80.2%
6	食事の提供中に驚かせない	26,440	70.4%
7	ミニトマト（プチトマト）などは使用しない	25,606	68.1%
8	りんごなどは加熱して提供	22,213	59.1%
9	食事中の場面に従事しない	1,852	4.9%
10	その他	828	2.2%

図表 54 実行している食事中の事故防止策（複数回答、n=37,577）

#	回答	件数	割合
1	こどもの口にあった量で与える	30,248	80.5%
2	こどもの意志にあったタイミングで与える	29,801	79.3%
3	食べ物を飲み込んだことを確認する	29,387	78.2%
4	眠くなっていないか、正しく座っているか注意	29,162	77.6%
5	汁物などの水分を適切に与える	28,788	76.6%
6	食事の提供中に驚かせない	26,891	71.6%
7	ミニトマト（プチトマト）などは使用しない	22,790	60.6%
8	りんごなどは加熱して提供	18,743	49.9%
9	食事中の場面に従事しない	2,190	5.8%
10	その他	1,151	3.1%

図表 55 理解している食事中の事故防止策（年齢別）

		13.理解 (食事 中) _01. こどもの 意志に あったタ イミング で与える	13.理解 (食事 中) _02. こどもの 口にあっ た量で与 える	13.理解 (食事 中) _03. 食べ物を 飲み込ん だことを 確認する	13.理解 (食事 中) _04. 汁物など の水分を 適切に与 える	13.理解 (食事 中) _05. 食事の提 供中に驚 かせない	13.理解 (食事 中) _06. 眠くなっ ていない か、正し く座って いるか注 意	13.理解 (食事 中) _07. ミニトマ ト（プチ トマト） などは使 用しない	13.理解 (食事 中) _08. りんごな どは加熱 して提供	13.理解 (食事 中) _09. 従事しな い	13.理解 (食事 中) _10. その他	ALL
01_18-19歳	n=50	62.0%	64.0%	54.0%	58.0%	46.0%	48.0%	16.0%	16.0%	6.0%		100.0%
02_20-29歳	n=7883	86.8%	92.2%	87.7%	83.5%	71.4%	84.9%	66.5%	57.4%	1.2%	0.7%	100.0%
03_30-39歳	n=8556	88.6%	93.0%	89.6%	86.9%	76.0%	86.9%	77.4%	67.4%	2.3%	1.4%	100.0%
04_40-49歳	n=9791	85.3%	89.8%	86.0%	83.6%	72.7%	83.3%	73.9%	63.8%	3.9%	1.6%	100.0%
05_50-59歳	n=7583	77.8%	80.6%	77.0%	76.1%	68.3%	75.3%	63.8%	55.6%	7.4%	3.6%	100.0%
06_60-69歳	n=3391	64.7%	65.1%	60.4%	59.7%	55.3%	59.0%	46.3%	40.6%	15.2%	6.1%	100.0%
07_70歳以上	n=322	51.6%	43.8%	34.2%	40.1%	37.0%	35.4%	28.3%	23.0%	30.1%	5.0%	100.0%

図表 56 理解している食事中的事故防止策（施設・事業別）

		13.理解 (食事 中) _01. こどもの 意志に あったタ イミング で与える	13.理解 (食事 中) _02. こどもの 口にあっ た量で与 える	13.理解 (食事 中) _03. 食べ物を 飲み込ん だことを 確認する	13.理解 (食事 中) _04. 汁物など の水分を 適切に与 える	13.理解 (食事 中) _05. 食事の提 供中に驚 かせない	13.理解 (食事 中) _06. 眠くなっ ていない か、正し く座って いるか注 意	13.理解 (食事 中) _07. ミニトマ ト（プチ トマト） などは使 用しない	13.理解 (食事 中) _08. りんごな どは加熱 して提供	13.理解 (食事 中) _09. 従事しな い	13.理解 (食事 中) _10. その他	ALL
01_認定こども園	n=7102	86.0%	92.5%	88.5%	85.2%	71.2%	85.1%	73.3%	61.8%	3.8%	0.9%	100.0%
02_幼稚園	n=2542	77.9%	85.0%	74.7%	68.6%	58.3%	71.7%	58.5%	36.1%	6.3%	1.1%	100.0%
03_認可保育所	n=14854	90.0%	94.8%	92.2%	89.8%	77.5%	89.4%	79.9%	71.5%	2.1%	0.6%	100.0%
04_小規模保育事業	n=2426	92.6%	96.1%	94.3%	92.3%	80.3%	91.3%	79.6%	77.3%	1.4%	0.5%	100.0%
05_家庭的保育事業	n=176	93.2%	94.3%	93.2%	91.5%	81.8%	89.2%	77.3%	76.7%	1.7%	1.7%	100.0%
06_居宅訪問型保育事業	n=74	91.9%	93.2%	93.2%	93.2%	87.8%	90.5%	70.3%	70.3%	5.4%	1.4%	100.0%
07_事業所内保育事業（認可）	n=453	90.1%	93.4%	91.2%	88.5%	77.9%	88.1%	77.9%	67.5%	3.1%	0.4%	100.0%
08_一時預かり事業	n=170	90.0%	94.7%	88.2%	87.6%	77.6%	82.4%	64.1%	51.8%	1.2%	3.5%	100.0%
09_病児保育事業	n=323	94.7%	98.1%	97.2%	95.7%	81.7%	92.3%	68.1%	60.1%	1.5%	1.9%	100.0%
10_子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）	n=270	64.1%	68.9%	66.7%	61.5%	53.0%	56.3%	49.3%	38.9%	27.4%	3.3%	100.0%
11_子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ）	n=103	82.5%	90.3%	79.6%	78.6%	63.1%	68.9%	45.6%	36.9%	4.9%	1.0%	100.0%
12_放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）	n=5328	48.4%	44.5%	37.0%	37.4%	40.5%	38.7%	19.8%	14.1%	16.0%	10.7%	100.0%
13_企業主導型保育施設	n=2165	90.7%	94.6%	93.0%	91.4%	82.8%	90.5%	80.7%	76.2%	4.0%	0.6%	100.0%
14_地方単独保育施設	n=169	88.2%	92.9%	90.5%	91.7%	74.6%	86.4%	82.2%	73.4%	2.4%	2.4%	100.0%
15_その他の認可外保育施設	n=1332	93.0%	96.8%	95.3%	93.5%	84.5%	93.5%	78.6%	68.5%	1.4%	1.4%	100.0%
16_認可外の居宅訪問型保育事業	n=60	83.3%	93.3%	86.7%	88.3%	75.0%	83.3%	78.3%	63.3%	3.3%	6.7%	100.0%
18_その他	n=29	93.1%	96.6%	93.1%	89.7%	79.3%	89.7%	82.8%	55.2%			100.0%

図表 57 理解している食事中的事故防止策（職種別）

		13.理解 (食事 中) _01. こどもの 意志に あったタ イミング で与える	13.理解 (食事 中) _02. こどもの 口にあっ た量で与 える	13.理解 (食事 中) _03. 食べ物を 飲み込ん だことを 確認する	13.理解 (食事 中) _04. 汁物など の水分を 適切に与 える	13.理解 (食事 中) _05. 食事の提 供中に驚 かせない	13.理解 (食事 中) _06. 眠くなっ ていない か、正し く座って いるか注 意	13.理解 (食事 中) _07. ミニトマ ト（プチ トマト） などは使 用しない	13.理解 (食事 中) _08. りんごな どは加熱 して提供	13.理解 (食事 中) _09. 従事しな い	13.理解 (食事 中) _10. その他	ALL
01_保育士	n=20164	93.6%	97.5%	95.5%	92.7%	80.7%	92.7%	80.0%	70.9%	0.5%	0.7%	100.0%
02_保育補助者	n=2072	72.4%	76.4%	68.5%	68.6%	59.5%	67.8%	49.3%	43.5%	10.4%	1.3%	100.0%
03_保育教諭	n=4261	91.6%	97.8%	94.7%	91.4%	76.6%	91.6%	76.8%	64.2%	0.2%	0.9%	100.0%
04_幼稚園教諭	n=2516	84.0%	91.2%	80.8%	74.7%	63.2%	78.3%	62.3%	39.7%	0.9%	1.2%	100.0%
05_栄養士・調理員	n=2416	62.5%	72.7%	65.5%	65.6%	55.9%	59.6%	75.9%	77.1%	8.8%	1.1%	100.0%
06_嘱託医・看護師	n=752	95.1%	98.3%	97.7%	95.6%	88.2%	94.8%	82.8%	76.9%	1.1%	2.0%	100.0%
07_バス運転手	n=132	4.5%	5.3%	4.5%	5.3%	3.8%	3.8%	3.8%	1.5%	93.2%		100.0%
08_その他	n=5263	46.5%	43.9%	37.3%	37.1%	39.2%	38.2%	21.8%	16.0%	22.0%	10.3%	100.0%

図表 58 理解している食事中的事故防止策（役職別）

		13.理解 (食事 中)_01. こどもの 意志に あったタ イミング で与える	13.理解 (食事 中)_02. こどもの 口にあっ た量で与 える	13.理解 (食事 中)_03. 食べ物を 飲み込ん だことを 確認する	13.理解 (食事 中)_04. 汁物など の水分を 適切に与 える	13.理解 (食事 中)_05. 食事の提 供中に驚 かせない	13.理解 (食事 中)_06. 眠くなっ ていない か、正し く座って いるか注 意	13.理解 (食事 中)_07. ミニトマ ト(プチ トマト) などは使 用しない	13.理解 (食事 中)_08. りんごな どは加熱 して提供	13.理解 (食事 中)_09. 従事しな い	13.理解 (食事 中)_10. その他	ALL
03_主任	n=5493	85.4%	87.2%	83.9%	82.1%	75.5%	82.0%	72.9%	62.5%	3.1%	3.8%	100.0%
04_副主任・中核リー ダー・専門リーダー	n=5318	90.2%	93.9%	90.5%	88.5%	78.8%	88.2%	79.1%	69.2%	1.7%	2.1%	100.0%
05_若手リーダー・職 務分野別リーダー	n=2889	89.5%	94.6%	91.8%	88.1%	77.4%	89.4%	77.3%	67.4%	1.6%	1.0%	100.0%
06_役職についていな い	n=23032	79.9%	84.2%	79.8%	77.5%	66.7%	77.3%	63.9%	55.5%	6.3%	1.9%	100.0%
07_その他	n=844	69.7%	71.0%	66.9%	63.2%	59.1%	64.9%	51.5%	44.8%	11.6%	5.0%	100.0%

図表 59 理解している食事中的事故防止策（勤務形態別）

		13.理解 (食事 中)_01. こどもの 意志に あったタ イミング で与える	13.理解 (食事 中)_02. こどもの 口にあっ た量で与 える	13.理解 (食事 中)_03. 食べ物を 飲み込ん だことを 確認する	13.理解 (食事 中)_04. 汁物など の水分を 適切に与 える	13.理解 (食事 中)_05. 食事の提 供中に驚 かせない	13.理解 (食事 中)_06. 眠くなっ ていない か、正し く座って いるか注 意	13.理解 (食事 中)_07. ミニトマ ト(プチ トマト) などは使 用しない	13.理解 (食事 中)_08. りんごな どは加熱 して提供	13.理解 (食事 中)_09. 従事しな い	13.理解 (食事 中)_10. その他	ALL
01_常勤職員	n=27852	86.0%	90.0%	86.5%	83.7%	73.6%	83.9%	72.5%	62.5%	3.2%	1.9%	100.0%
02_非常勤職員	n=8362	74.3%	77.9%	72.5%	71.4%	62.0%	70.7%	57.2%	50.4%	9.6%	2.5%	100.0%
03_その他	n=1362	66.3%	67.9%	64.5%	63.7%	55.4%	62.6%	46.0%	43.4%	11.8%	5.5%	100.0%

図表 60 実行している食事中的事故防止策（年齢別）

		18.実行 (食事 中)_01. こどもの 意志に あったタ イミング で与える	18.実行 (食事 中)_02. こどもの 口にあっ た量で与 える	18.実行 (食事 中)_03. 食べ物を 飲み込ん だことを 確認する	18.実行 (食事 中)_04. 汁物など の水分を 適切に与 える	18.実行 (食事 中)_05. 食事の提 供中に驚 かせない	18.実行 (食事 中)_06. 眠くなっ ていない か、正し く座って いるか注 意	18.実行 (食事 中)_07. ミニトマ ト(プチ トマト) などは使 用しない	18.実行 (食事 中)_08. りんごな どは加熱 して提供	18.実行 (食事 中)_09. 従事しな い	18.実行 (食事 中)_10. その他	ALL
01_18-19歳	n=51	58.8%	37.3%	43.1%	43.1%	41.2%	35.3%	7.8%	3.9%	7.8%		100.0%
02_20-29歳	n=7877	84.9%	86.7%	83.9%	81.2%	75.7%	84.0%	59.9%	48.2%	1.9%	1.1%	100.0%
03_30-39歳	n=8464	85.4%	88.1%	86.1%	84.2%	78.4%	85.0%	69.5%	58.1%	3.2%	2.3%	100.0%
04_40-49歳	n=9684	83.0%	85.2%	82.6%	80.5%	74.3%	81.7%	66.5%	54.2%	4.6%	2.8%	100.0%
05_50-59歳	n=7537	74.3%	74.1%	72.5%	72.1%	68.0%	71.9%	56.8%	47.2%	8.7%	4.6%	100.0%
06_60-69歳	n=3392	60.8%	58.2%	55.9%	56.0%	54.3%	55.9%	40.9%	34.1%	17.0%	7.1%	100.0%
07_70歳以上	n=323	50.2%	40.9%	33.1%	36.8%	35.9%	31.9%	23.8%	20.1%	28.5%	5.3%	100.0%

図表 61 実行している食事中的事故防止策（施設・事業種別）

		18.実行 (食事 中) _01. こどもの 意志に あったタ イミング で与える	18.実行 (食事 中) _02. こどもの 口にあっ た量で与 える	18.実行 (食事 中) _03. 食べ物を 飲み込ん だことを 確認する	18.実行 (食事 中) _04. 汁物など の水分を 適切に与 える	18.実行 (食事 中) _05. 食事の提 供中に驚 かせない	18.実行 (食事 中) _06. 眠くなっ ていない か、正し く座って いるか注 意	18.実行 (食事 中) _07. ミニトマ ト（プチ トマト） などは使 用しない	18.実行 (食事 中) _08. りんごな どは加熱 して提供	18.実行 (食事 中) _09. 従事しな い	18.実行 (食事 中) _10. その他	ALL
01_認定こども園	n=6989	84.0%	88.8%	85.8%	83.3%	74.9%	84.3%	67.5%	53.4%	4.3%	1.2%	100.0%
02_幼稚園	n=2576	75.2%	76.4%	71.1%	63.4%	60.4%	70.9%	45.5%	19.0%	7.1%	2.5%	100.0%
03_認可保育所	n=14650	88.1%	91.6%	89.5%	88.2%	80.3%	88.1%	74.0%	63.8%	2.7%	1.1%	100.0%
04_小規模保育事業	n=2398	91.0%	93.5%	92.6%	91.3%	82.4%	89.9%	75.4%	71.0%	1.9%	0.9%	100.0%
05_家庭的保育事業	n=174	93.1%	93.7%	94.3%	93.7%	84.5%	90.8%	70.7%	68.4%	1.7%	1.7%	100.0%
06_居宅訪問型保育事業	n=75	89.3%	89.3%	89.3%	90.7%	86.7%	85.3%	58.7%	60.0%	5.3%	8.0%	100.0%
07_事業所内保育事業（認可）	n=454	89.0%	92.1%	90.7%	89.0%	81.3%	87.4%	73.3%	63.7%	3.3%	1.5%	100.0%
08_一時預かり事業	n=170	88.8%	90.6%	87.6%	84.1%	75.3%	79.4%	50.0%	37.6%	2.9%	5.9%	100.0%
09_病児保育事業	n=325	96.3%	98.5%	97.2%	96.3%	84.3%	94.2%	59.1%	48.6%	0.9%	4.0%	100.0%
10_子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）	n=273	46.2%	45.4%	43.6%	41.0%	38.8%	39.9%	28.6%	20.9%	44.7%	7.0%	100.0%
11_子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ）	n=105	82.9%	85.7%	78.1%	80.0%	71.4%	74.3%	39.0%	26.7%	3.8%	2.9%	100.0%
12_放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）	n=5386	41.9%	30.5%	28.3%	29.4%	38.2%	33.6%	12.2%	6.1%	17.6%	12.7%	100.0%
13_企業主導型保育施設	n=2174	87.4%	89.7%	88.6%	87.8%	82.2%	87.0%	73.4%	67.7%	6.0%	1.2%	100.0%
14_地方単独保育施設	n=168	85.7%	88.7%	86.3%	86.3%	78.0%	83.9%	75.6%	66.7%	3.6%	3.0%	100.0%
15_その他の認可外保育施設	n=1322	91.5%	94.7%	94.0%	92.4%	86.6%	92.1%	68.8%	57.0%	2.0%	3.0%	100.0%
16_認可外の居宅訪問型保育事業	n=61	85.2%	90.2%	88.5%	88.5%	82.0%	86.9%	72.1%	57.4%	3.3%	6.6%	100.0%
18_その他	n=28	96.4%	92.9%	92.9%	89.3%	85.7%	92.9%	75.0%	50.0%			100.0%

図表 62 実行している食事中的事故防止策（職種別）

		18.実行 (食事 中) _01. こどもの 意志に あったタ イミング で与える	18.実行 (食事 中) _02. こどもの 口にあっ た量で与 える	18.実行 (食事 中) _03. 食べ物を 飲み込ん だことを 確認する	18.実行 (食事 中) _04. 汁物など の水分を 適切に与 える	18.実行 (食事 中) _05. 食事の提 供中に驚 かせない	18.実行 (食事 中) _06. 眠くなっ ていない か、正し く座って いるか注 意	18.実行 (食事 中) _07. ミニトマ ト（プチ トマト） などは使 用しない	18.実行 (食事 中) _08. りんごな どは加熱 して提供	18.実行 (食事 中) _09. 従事しな い	18.実行 (食事 中) _10. その他	ALL
01_保育士	n=19908	93.2%	95.8%	94.2%	92.5%	84.6%	92.6%	73.9%	62.9%	0.7%	1.3%	100.0%
02_保育補助者	n=2076	69.4%	69.5%	65.7%	65.1%	59.6%	63.9%	41.3%	33.5%	11.8%	2.5%	100.0%
03_保育教諭	n=4175	91.6%	95.9%	93.9%	90.7%	82.1%	92.8%	71.5%	55.7%	0.4%	1.3%	100.0%
04_幼稚園教諭	n=2542	81.9%	83.2%	78.1%	70.4%	66.6%	78.2%	49.6%	23.0%	1.1%	2.4%	100.0%
05_栄養士・調理員	n=2413	46.1%	54.0%	47.7%	49.8%	45.2%	45.5%	69.2%	71.4%	10.3%	2.5%	100.0%
06_嘱託医・看護師	n=746	91.2%	95.4%	95.3%	92.4%	88.7%	92.9%	74.4%	66.6%	2.5%	3.5%	100.0%
07_バス運転手	n=137	6.6%	5.1%	5.1%	5.1%	4.4%	3.6%	4.4%	1.5%	92.0%		100.0%
08_その他	n=5331	39.2%	30.1%	28.2%	29.0%	36.2%	32.5%	13.9%	7.5%	25.6%	12.1%	100.0%

図表 63 実行している食事中的事故防止策（役職別）

		18.実行 (食事 中) _01. こどもの 意志に あったタ イミング で与える	18.実行 (食事 中) _02. こどもの 口にあっ た量で与 える	18.実行 (食事 中) _03. 食べ物を 飲み込ん だことを 確認する	18.実行 (食事 中) _04. 汁物など の水分を 適切に与 える	18.実行 (食事 中) _05. 食事の提 供中に驚 かせない	18.実行 (食事 中) _06. 眠くなっ ていない か、正し く座って いるか注 意	18.実行 (食事 中) _07. ミニトマ ト（プチ トマト） などは使 用しない	18.実行 (食事 中) _08. りんごな どは加熱 して提供	18.実行 (食事 中) _09. 従事しな い	18.実行 (食事 中) _10. その他	ALL
03_主任	n=5445	83.0%	82.4%	81.0%	79.6%	76.7%	80.5%	65.6%	54.1%	3.6%	5.1%	100.0%
04_副主任・中核リー ダー・専門リーダー	n=5256	88.4%	90.4%	87.9%	87.1%	81.6%	87.4%	72.9%	60.5%	2.1%	2.5%	100.0%
05_若手リーダー・職 務分野別リーダー	n=2842	86.9%	90.0%	88.9%	86.7%	80.3%	87.5%	70.6%	59.1%	2.0%	1.3%	100.0%
06_役職についていな い	n=22928	76.8%	78.1%	75.5%	73.8%	68.2%	74.9%	56.8%	46.4%	7.4%	2.9%	100.0%
07_その他	n=857	66.0%	64.4%	61.1%	56.9%	57.2%	60.1%	41.2%	35.4%	14.6%	5.6%	100.0%

図表 64 実行している食事中的事故防止策（勤務形態別）

		18.実行 (食事 中) _01. こどもの 意志に あったタ イミング で与える	18.実行 (食事 中) _02. こどもの 口にあっ た量で与 える	18.実行 (食事 中) _03. 食べ物を 飲み込ん だことを 確認する	18.実行 (食事 中) _04. 汁物など の水分を 適切に与 える	18.実行 (食事 中) _05. 食事の提 供中に驚 かせない	18.実行 (食事 中) _06. 眠くなっ ていない か、正し く座って いるか注 意	18.実行 (食事 中) _07. ミニトマ ト（プチ トマト） などは使 用しない	18.実行 (食事 中) _08. りんごな どは加熱 して提供	18.実行 (食事 中) _09. 従事しな い	18.実行 (食事 中) _10. その他	ALL
01_常勤職員	n=27591	83.4%	85.1%	83.0%	81.0%	75.8%	82.4%	65.5%	53.6%	3.9%	2.7%	100.0%
02_非常勤職員	n=8364	71.0%	70.8%	67.8%	67.0%	62.4%	67.2%	49.9%	41.4%	11.1%	3.6%	100.0%
03_その他	n=1373	63.0%	61.6%	59.3%	60.5%	55.7%	59.5%	39.4%	35.5%	13.5%	7.1%	100.0%

エ. 事故防止策の理解・実行を促す要素

事故防止策の実行を促す要素は、ヒヤリハットの共有などができる職場の雰囲気づくりや、勤務先のマニュアル・研修など、職場のマネジメントに係る回答が多い。理解から実行に至るに当たり、継続的な職員間の意見交換や研修などが一助になっていると考えられる。

事故防止策の理解・実行を阻む要素は、概ね6～7割の回答者が「特にない」としている。理解・実行を阻む理由の中では、ガイドライン等のわかりにくさや扱いにくさに係るものが多い。

図表 65 事故防止策の理解に役立ったこと（複数回答、n=42,047）

#	回答	件数	割合
1	他職員等からのアドバイス	16,815	40.0%
2	勤務先の研修がわかりやすい	15,442	36.7%
3	勤務先のマニュアル等：内容がわかりやすい	14,726	35.0%
4	国のガイドライン等：内容がわかりやすい	11,065	26.3%
5	自治体や団体の研修がわかりやすい	9,219	21.9%
6	勤務先のマニュアル等：発信方法や頻度が適切	8,809	21.0%
7	自治体のガイドライン等：内容がわかりやすい	8,375	19.9%
8	勤務先のマニュアル等：デザインが読みやすい	7,890	18.8%
9	国のガイドライン等：デザインが読みやすい	7,244	17.2%
10	自治体のガイドライン等：デザインが読みやすい	5,191	12.3%
11	国のガイドライン等：発信方法や頻度が適切	5,170	12.3%
12	自治体のガイドライン等：発信方法や頻度が適切	4,730	11.2%
13	勤務先で評価される	4,685	11.1%
14	自治体からのアドバイス	3,831	9.1%
15	ICT等導入	1,472	3.5%
16	役立ったことはない	1,464	3.5%
17	その他	722	1.7%

図表 66 事故防止策の実行に役立ったこと（複数回答、n=42,047）

#	回答	件数	割合
1	ヒヤリハット案件共有など勤務先の雰囲気づくり	25,566	60.8%
2	勤務先のマニュアル等：手軽に見返すことができる	14,014	33.3%
3	勤務先のマニュアル等：イメージがわかりやすい	13,001	30.9%
4	勤務先の研修はイメージがわかりやすい	12,861	30.6%
5	勤務先で実行できているか定期的に確認	12,804	30.5%
6	勤務先で役割分担が決められている	10,025	23.8%
7	国のガイドライン等：イメージがわかりやすい	8,566	20.4%
8	自治体や団体の研修はイメージがわかりやすい	6,229	14.8%
9	自治体のガイドライン等：イメージがわかりやすい	6,147	14.6%
10	国のガイドライン等：手軽に見返すことができる	6,108	14.5%
11	自治体のガイドライン等：手軽に見返すことができる	6,039	14.4%
12	自治体の指摘を受け改善する	5,148	12.2%
13	勤務先で評価される	4,605	11.0%
14	ICT等導入	1,900	4.5%
15	役立ったことはない	1,838	4.4%
16	その他	539	1.3%

図表 67 事故防止策の理解を妨げたこと（複数回答、n=41,900）

#	回答	件数	割合
1	特になし	27,589	65.8%
2	国のガイドライン等：内容がわかりにくい	5,286	12.6%
3	国のガイドライン等：デザインが読みにくい	5,003	11.9%
4	ICT等導入なし	2,931	7.0%
5	国のガイドライン等：発信方法や頻度が不適切	2,819	6.7%
6	自治体のガイドライン等：内容がわかりにくい	2,304	5.5%
7	自治体のガイドライン等：デザインが読みにくい	1,965	4.7%
8	自治体のガイドライン等：発信方法や頻度が不適切	1,735	4.1%
9	自治体からのアドバイスなし	991	2.4%
10	勤務先のマニュアル等：発信方法や頻度が不適切	978	2.3%
11	勤務先のマニュアル等：内容がわかりにくい	901	2.2%
12	勤務先で評価されない	796	1.9%
13	その他	759	1.8%
14	勤務先のマニュアル等：デザインが読みにくい	705	1.7%
15	他職員等からのアドバイスなし	638	1.5%
16	自治体や団体の研修がわかりにくい	533	1.3%
17	勤務先の研修がわかりにくい	438	1.0%

図表 68 事故防止策の実行を妨げたこと（複数回答、n=41,900）

#	回答	件数	割合
1	特になし	25,240	60.2%
2	国：手軽に見返すことができない	9,111	21.7%
3	国：イメージがわかりにくい	5,503	13.1%
4	自治体：手軽に見返すことができない	5,345	12.8%
5	自治体：イメージがわかりにくい	2,699	6.4%
6	ICT等導入なし	2,627	6.3%
7	勤務先：手軽に見返すことができない	1,808	4.3%
8	勤務先で実行できているか定期的に確認なし	1,573	3.8%
9	勤務先で役割分担が決められていない	1,436	3.4%
10	勤務先：イメージがわかりにくい	1,008	2.4%
11	自治体や団体の研修はイメージがわかりにくい	983	2.3%
12	ヒヤリハット案件共有など勤務先の雰囲気づくりなし	971	2.3%
13	勤務先で評価されない	922	2.2%
14	勤務先の研修はイメージがわかりにくい	701	1.7%
15	自治体の指摘を受け改善しない	592	1.4%
16	その他	537	1.3%

オ. 事故防止に向けて効果的と考える媒体・取組

事故防止に向けて効果的と考える媒体は、特に重大事故につながりやすい「寝る・食べる・水遊び」に特化した一枚紙が最も多く、次点が事故全般について図解したハンドブックである。効果的と考える取組は、実践的な研修や訓練が最も多く、例としてグループワークやKYTの回答が多い。

図表 69 事故防止に向けて効果的な媒体（複数回答（最大3つ）、n=36,981）

#	回答	件数	割合
1	「食べる・寝る・水遊び」など1枚でまとめた紙媒体	29,000	78.4%
2	事故予防・事故対応全般を図解したハンドブック:紙媒体	25,305	68.4%
3	こどもと一緒に学習できる教材	14,310	38.7%
4	「食べる・寝る・水遊び」など1枚でまとめた電子媒体	9,548	25.8%
5	改良されたガイドライン等	9,373	25.3%
6	事故予防・事故対応全般を図解したハンドブック:電子媒体	7,058	19.1%
7	e-learning教材:事故類型ごとの1,2分の解説動画	4,975	13.5%
8	e-learning教材:学習アプリ	4,490	12.1%
9	e-learning教材:講義聴講	3,967	10.7%
10	その他	275	0.7%

図表 70 事故防止に向けて効果的な取組（複数回答（最大3つ）、n=36,617）

#	回答	件数	割合
1	実践的な研修や訓練	22,404	61.2%
2	グループワーク	17,603	48.1%
3	KYT(危険予知トレーニング)	14,790	40.4%
4	時機にあわせ特有の事故対策を発信	12,414	33.9%
5	職員が確認したかどうかまでチェック	8,249	22.5%
6	インシデント分析	5,594	15.3%
7	ICTや安全装置の導入	5,559	15.2%
8	資格試験時の事故予防・事故対応の内容を充実	3,689	10.1%
9	昇格等の要件に事故予防・事故対応の理解度を加える	3,595	9.8%
10	専門家に質問できる相談窓口	2,061	5.6%
11	理解度チェック結果が繰り返し低い場合は悪い評価	1,607	4.4%
12	その他	306	0.8%

図表 71 事故防止に向けて効果的な媒体・取組（自由記載、抜粋・要約）

1. 媒体 ・皆危機感を持って保育にあたっているが、人手がギリギリで事故が起きてしまったり、今日に限って。。。という感じで事故があると思う。時間をとらずに、でもしっかりと気を引き締められる素材を作してほしい ・絵を多くし、簡単に短い言葉で端的に要点を絞った、パッと見てわかる1枚ものを目につく所にはる ・実際の事故事例と対策をまとめたもの ・対象児童、活動場所、活動内容に即したガイドライン ・繰り返しガイドラインを読む機会をつくる ・自治体からのお知らせを必要な時にそのまま職員用アプリに発信すると、確実に周知できる 2. 研修等の取組 ・紙媒体や映像ではなく実地研修の実施 ・難しくせず、わかりやすい言葉と映像や写真又はイラストなどを使った研修 ・実際に発生した事案に基づく問題点と対応策等を踏まえた研修や資料配付 ・定期的に園内研修をしたり、毎週のミーティングで確認し合うことが大切 3. 人的・時間的余裕 ・十分な人材・体制確保、業務負担軽減(配置基準の見直し、定員削減、人員拡充への補助) ・職場環境改善・処遇改善(給与引上げ、研修受講費用の支払い、残業を減らす、残業手当をきちんとつける、有給消化の励行) 4. その他 ・学生時代にしっかりガイドラインについて勉強出来る機会を設ける ・保護者からの積極的な協力。保護者とともに学習する ・理解度に差がないことが理想であるため、賞罰には反映しない形で理解度チェックを設ける

3. 啓発資材の作成と改良

(1) 啓発資材の作成

調査結果を基に、本事業の目的の1つである事故防止に向けた啓発資材を作成した。

① 対象・ねらい

主な対象は教育・保育施設等に従事する職員であり、職員がガイドライン等に記載の留意事項を理解し、事故予防策を実行しやすくなるよう促すことをねらいとした。

② 媒体形式

紙媒体での印刷を念頭に置くが、人によって希望するサイズが異なると考えられるため、Webページに公開し、各自ダウンロード・任意のサイズに印刷することを想定した。

③ 作成の考え方

職員アンケート調査結果を踏まえ、特に重大事故につながりやすい「寝る・食べる・水遊び」の場面に特化した上で、応急処置の場面を加えた。ガイドライン等に記載の留意事項を基本として、事業委員会委員の意見を参考としつつ、留意事項（推奨・禁止事項）が求められる理由まで記載することで、納得いただきやすい内容を意識した。わかりやすさを重視し分量が増えすぎないようにしたため、詳細な解説は参考資料として消費者庁Webページ等に二次元コードを通じて誘導した。

図表 72 啓発資材と参照した内容の比較表

	啓発資材における内容	参照した内容（出典）
ねる (留意事項)	こどもを一人にしない...異変をすぐに察知できるようにする	何よりも、一人にしないこと（ガイドライン）
	あおむけに寝かせる...うつぶせ寝の状態で顔が横向きの体勢も避ける（医学的な理由で医師からうつぶせ寝を勧められている場合以外）	医学的な理由で医師からうつぶせ寝をすすめられている場合以外は、乳児の顔が見える仰向けに寝かせることが重要（ガイドライン）
	やわらかい敷布団、重い掛け布団や、ぬいぐるみ等を使用しない...顔が埋まったり、払いのけられなくなったりして、鼻や口がふさがれないようにする	やわらかい布団やぬいぐるみ等を使用しない（ガイドライン）
	ヒモまたはヒモ状のものを置かない...首に巻き付かないようにする（例：よだれかけのヒモ、ふとんカバー内側のヒモ、ベッドまわりの電源コードなど）	ヒモ、またはヒモ状のもの(例:よだれかけのヒモ、ふとんカバーの内側のヒモ、ベッドまわりのコード等)を置かない（ガイドライン）
	口の中に異物や、ミルクや食べたもの等の嘔吐物がないか確認する...のどや気管につまらせないようにする	口の中に異物がないか確認する。ミルクや食べたもの等の嘔吐物がないか確認する（ガイドライン）
	定期的にこどもの身体に触れて呼吸・体位、睡眠状態を点検する...職場のマニュアルやチェック表などに合わせる	子どもの数、職員の数に合わせ、定期的に子どもの呼吸・体位、睡眠状態を点検すること等により、呼吸停止等の異常が発生した場合の早期発見、重大事故の予防のための工夫をする（ガイドライン）

	啓発資材における内容	参照した内容（出典）
	預け始めの時期は特に注意深く見守る（例：慣らし保育を行うなど）	死亡事故は預け始めの時期が多く（中略）保護者と相談の上、慣れ（慣らし）保育など、徐々に環境に慣れることで事故防止につなげていくことも重要である（平成30年度有識者会議年次報告（以下「年次報告」という））
	こどもの発達や健康状態によっては乳児に限らず定期的な確認を行い、状況に応じてあおむけに寝かせる	子どもの発達や健康状態を把握し、それによっては1歳以上であっても仰向けに寝かせる（年次報告）
ねる （理由説明）	睡眠中、うつぶせ寝でぐったりしているのを発見される死亡事故が繰り返し起きている 睡眠中は、窒息のほか、乳幼児突然死症候群(SIDS)のおそれがあり、予防方法は確立していないが、寝るときにうつぶせで寝かせたときのほうが SIDS の発症率が高いとされている	SIDS の予防方法は確立していません（中略）SIDS は、うつぶせ、あおむけのどちらでも発症しますが、寝かせる時にうつぶせに寝かせたときの方が SIDS の発症率が高いということが研究者の調査からわかっています（こども家庭庁リーフレット「睡眠中の赤ちゃんの死亡を減らしましょう」）
	やわらかい布団やぬいぐるみ等が鼻や口をふさいだり、ヒモまたはヒモ状のものが首に巻き付いたりして窒息するリスクがある	枕、タオル、衣服、よだれ掛け、ぬいぐるみなどが口や鼻を覆ったり、ヒモなどが首に巻き付いたりしてしまうリスクがあります（こども家庭庁リーフレット「窒息事故防止のために」）
	預け始めは事故が多く、過去の事故検証報告ではリスクが高いと指摘されており、こどものストレスや、発達状況の把握が必ずしも十分ではないことが影響している可能性もある	預け始めの時期に死亡事故が多い要因について（中略）環境の変化から子どもに強いストレスがかかり、急な不調につながるなどのリスクが指摘されている。一方で、職員の側も入所間もない子どもについて、発達や状態を十分に理解していないことも要因の一つと考えられる（年次報告）
たべる （留意事項）	こどもの年齢月齢によらず、普段食べている食材が窒息につながる可能性があることを認識する	子どもの年齢月齢によらず、普段食べている食材が窒息につながる可能性があることを認識して、食事の介助及び観察をする（ガイドライン）
	球形・かたい・粘着性が高いといった形状や性質の食べ物は避ける（過去に事故が発生した食材の例：ナッツ・豆類（ピーナッツなど）、ミニトマト（プチトマト）、白玉団子、ぶどうなど）	過去に、誤嚥、窒息などの事故が起きた食材（例：白玉風のだんご、丸のままのミニトマト等）は、誤嚥を引き起こす可能性について保護者に説明し、使用しないことが望ましい（ガイドライン）
	りんごなども基本的に使用を避け、どうしても食べさせる場合は、離乳食完了期までは加熱して与える...過去に事故が発生しており、かむことで細かくなったとしてもかたさ、切り方によってはつまりやすい	りんごや梨等の果物については、咀嚼により細かくなったとしても食塊の固さ、切り方によってはつまりやすいので、（離乳食）完了期までは加熱して提供すること（令和5年4月27日付けこども家庭庁成育局安全対策課等事務連絡）

	啓発資料における内容	参照した内容（出典）
	食べ物はこどもの口に合った量で与え、汁物などの水分を適切に与える...のどや気管につまらせないようにする	子どもの口に合った量で与える。汁物などの水分を適切に与える（ガイドライン）
	こどもの意志に沿うタイミングで与える...眠くなったら、もう食べたくないといった食べることに集中できない様子を確認したら無理に食べさせない	ゆっくり落ち着いて食べることができるよう子どもの意志に合ったタイミングで与える（ガイドライン）
	食事中に驚かせない	食事の提供中に驚かせない（ガイドライン）
	食事前に保護者や職員間でこどもの食事に関する情報を共有する（例：食べるための機能や食事に関する行動の発達状況、当日の健康状態など）	職員は、子どもの食事に関する情報（咀嚼・嚥下機能や食行動の発達状況、喫食状況）について共有する。また、食事の前には、保護者から聞き取った内容も含めた当日の子どもの健康状態等について情報を共有する（ガイドライン）
	食べ物を飲み込んだことを確認する（口の中に残っていないか注意）	食べ物を飲み込んだことを確認する（口の中に残っていないか注意する）（ガイドライン）
	食事中に眠くなっていないか・姿勢よく座っているか注意する	食事中に眠くなっていないか注意する。正しく座っているか注意する（ガイドライン）
たべる （理由説明）	こどもは、奥歯が生えそろわず、かみ砕く力や飲み込む力が十分ではない 硬くてかみ砕く必要のあるナッツ・豆類などをのどや気管に詰まらせて窒息（ちっそく：食べ物がのど等につまること）したり、小さなかけらが気管に入り込んで肺炎や気管支炎を起こしたりするリスクがある	特に注意が必要なのは、奥歯が生えそろわず、かみ砕く力や飲み込む力が十分ではない子どもが豆やナッツ類を食べると、のどや気管に詰まらせて窒息してしまったり、肺炎を起こしたりするリスクがあることです（消費者庁「食品による子どもの窒息・誤嚥(ごえん)事故に注意!」）
	食べ物を口に入れたままで、走ったり、寝転んだり、笑ったり、泣いたり、驚いたり、声を出したりすると、食べ物を不意に吸い込んでしまい、窒息・誤嚥（ごえん：食べ物などが気管や気管支に入ること）のリスクがある	遊びながら、走りながら、リクライニングした状態、寝転んだまま食べると、食べ物がのどや気管・気管支に入ってしまう危険性が高まります。さらに、驚いたり、泣いたりして、不意に息を吸ったりすることでも、リスクは高くなります（消費者庁「食品による子どもの窒息・誤嚥(ごえん)事故に注意!」）
みずあそび （留意事項）	「専ら監視を行う者」と「指導等を行う者」を分けて配置し、役割分担を明確にする	監視体制の空白が生じないように専ら監視を行う者とプール指導等を行う者を分けて配置し、また、その役割分担を明確にする（ガイドライン）
	十分な監視体制の確保ができない場合は、プール活動・水遊びの中止も選択肢とする	十分な監視体制の確保ができない場合については、プール活動の中止も選択肢とする（ガイドライン）
	監視者は、片付け、こどもの相手など他の作業を行わない（時間的余裕をもつ）	時間的余裕をもってプール活動を行う（ガイドライン）
	目立つ色の帽子などを身につける...誰が監視者であるか分かるようにする	目立つ色の帽子やビブスなど、周囲から誰が監視者であるか分かるものを身につけましょう。子供たちに、

	啓発資料における内容	参照した内容（出典）
みずあそび (理由説明)	こどもに「監視の先生はみんなを守ることが仕事なので、話しかけない・用を頼まない・一緒に遊んだりできない」ことを知らせておく	「監視の先生はみんなを守ることが仕事なので、話しかけない、用を頼まない、一緒に遊んだりできないこと」を知らせておきましょう（消費者庁「プール活動・水遊びに関するチェックリスト」）
	エリア全域を見渡せる場所から規則的に視線を動かしながら監視する 動かないこどもや、集団から外れて動くなど不自然な動きをしているこどもを見つける	監視エリア全域をくまなく監視する。動かない子どもや不自然な動きをしている子どもを見つける。規則的に視線を動かしながら監視する（ガイドライン）
	過去に、監視役の先生が、遊具の片付けなど、ほかの作業を行っていて、ふと目を話したすきに、こどもがおぼれた事故が起きている 監視場所に近いところや、浅い場所など、一般に安全と思われる場所も、おぼれる可能性がある おぼれるときは、助けを求めたり、苦しくて暴れるといった反応とは限らず、静かにおぼれることも多いと言われている	過去に、監視役の先生が、遊具の片付けなど、ほかの作業を行っていて、ふと目を話したすきに、こどもがおぼれた事故が起きている（消費者庁「プール活動・水遊び 監視のポイント」） 監視場所に近いところや、浅い場所など、一般に安全と思われる場所も、監視がおろそかにならないよう、注意しましょう（消費者庁「プール活動・水遊び 監視のポイント」） 溺れるときは、助けを求めたり、苦しくて暴れるといった反応とは限らず、静かに溺れることも多いと言われています（消費者庁「プール活動・水遊び 監視のポイント」）
応急処置	もしこどもの窒息などが起きてしまったら 突然心臓が止まったり、おぼれたりした場合、一刻も早い手当が必要で すぐに 119 番・応急処置を開始しましょう。	病気やけがにより突然心臓が止まったり、溺れたりした場合、一刻も早い手当が必要で（中略）119 番通報をしてから救急車が来るまでには最低でも数分かかるので、その間の応急措置が命を救います（こども家庭庁「こどもの事故防止ハンドブック」）
	心肺蘇生法 胸骨圧迫（心臓マッサージ） （強さ）胸の厚さが 3 分の 1 くらい沈む強さ （速さ）1 分間に 100～120 回 幼児：胸骨の下部分を、手のひらの根元で押す 乳児：左右の乳頭を結んだ線の中央で少し足側を、指 2 本で押す	＜胸骨圧迫（心臓マッサージ）＞ 意識がなく呼吸が停止している場合は、直ちに胸骨圧迫による心肺蘇生を開始します。幼児でも乳児でも、胸の厚さが 3 分の 1 くらい沈む強さで、1 分間に 100～120 回のスピードで圧迫します。 ■幼児の場合：胸骨の下半分を、手のひらの根元で押します。 ■乳児の場合：左右の乳頭を結んだ線の中央で少し足側を、指 2 本で押します。 （こども家庭庁「こどもの事故防止ハンドブック」）
	背部叩打法	＜背部叩打法（はいぶこうだほう）＞ 幼児にはこどもの後ろから片手を脇の下に入れて、胸と下あご部分を支えて突き出し、あごをそらせます。

	啓発資料における内容	参照した内容（出典）
	幼児：こどもの後ろから片手を脇の下に入れ、胸と下あご部分を支えて突き出し、あごをそらせる。片手の付け根で両側の肩甲骨の間を強く迅速に叩く 乳児：片腕にうつぶせに乗せ顔を支えて、頭を低くして、背中の真ん中を平手で何度も連続して叩く	片手の付け根で両側の肩甲骨の間を強く迅速に叩きます。乳児には片腕にうつぶせに乗せ顔を支えて、頭を低くして、背中の真ん中を平手で何度も連続して叩きます（こども家庭庁「こどもの事故防止ハンドブック」）
	胸部突き上げ法 片手で体を支え、手の平で後頭部をしっかり支える。心肺蘇生法の胸部圧迫と同じやり方で圧迫	＜胸部突き上げ法（きょうぶつきあげほう）＞ 片手で体を支え、手の平で後頭部をしっかり支えます。心肺蘇生法の胸部圧迫と同じやり方で圧迫しましょう（こども家庭庁「こどもの事故防止ハンドブック」）
	腹部突き上げ法 後ろから両腕を回し、みぞおちの下で片方の手を握り拳にして、腹部を上方へ圧迫（※幼児のみ、乳児は除く）	＜腹部突き上げ法（ふくぶつきあげほう）＞ 幼児は、後ろから両腕を回し、みぞおちの下で片方の手を握り拳にして、腹部を上方へ圧迫します（こども家庭庁「こどもの事故防止ハンドブック」）

④ デザイン

デザインは東海大学教養学部芸術学科准教授の富田誠氏に依頼した。富田氏は厚生労働省広報室参与などを務め、官公庁から一般国民にわかりやすく発信するノウハウをお持ちであり、ガイドライン等の内容の周知啓発に当たり適任であると考えた。

職員アンケート調査結果を踏まえ、職員が振り返りやすいよう裏表一枚にまとめ、イラストなどをまじえたわかりやすさを意識した。レイアウトは、見開きの左右に「寝る」「食べる」「水遊び」「応急処置」を配置した。イラストは、推奨・禁止事項を端的に表すこととし、漫画的表現による直感的なみやすさと、写実的表現による現実的なイメージのしやすさを併せ持つよう、両者の中間的表現とした。

なお、現場の様子をできる限り具体的に表現するため、事業検討委員会委員のご協力を得て、五反田保育園における保育の様子を視察させていただいた。

⑤ 周知方法

第一段階として、後述の通りセミナーにおいて紹介し、参加後アンケート調査を通じて、参加者からのフィードバックを得て改良した。

第二段階として、改良版を Web ページにて公開するとともに、セミナー申込者にもメールで案内することとする。

(2) セミナー開催

教育・保育現場の職員に、事故防止に向けた実践研修を提供するとともに、作成した啓発資材への意見を聴取するため、「教育・保育事故の予防に向けたセミナー」を開催した。

① 対象

全国の教育・保育施設等の職員を対象とした。職員アンケート調査とは異なり、セミナーの内容を職場にマネジメントにおいて活用いただけるよう、施設長等の管理職も対象とした。また、教育・保育施設等を助言・指導する立場にある自治体職員も対象とした。

② 開催方法

令和6年1月19日(金)13:00-15:00に、対面参加(東京会場)とオンライン参加(Microsoft Teams)のハイブリッド形式で開催した。参加費は無料である。広報は、職員アンケート調査の時と同様に、①自治体に依頼し管内の各教育・保育施設等にメール送付する方法と、②日本保育協会に依頼し傘下の各教育・保育施設等にメール送付する方法を用いて周知した。

③ プログラム

①保育事故遺族の講演、②保育現場職員の講演、③事故防止に向けた研修(KYT グループワーク ※オンラインはワークを観察)、④啓発資材についての解説という構成で実施した。

①保育事故遺族の講演は、実際の事故事例から改めて事故予防に向けた啓発を行うことをねらいとして、事業検討委員会委員でもあり、平成22年に認可保育所における食事時の窒息事故により子どもを亡くされた栗並えみ氏に依頼した。

②保育現場職員の講演は、KYTを実施している施設職員から自園における取組をご紹介いただき、参加者に参考にしてもらうことをねらいとして、公表されている第三者評価結果において、現地会場にお越しいただきやすい東京都内で、KYTの取組が高く評価されている保育所を選定した。その際、当該評価対象となった保育所からは既に異動されているが、取組を創設した当事者として推挙された、パピーナ久我山保育園園長の堀明日香氏に依頼した。

③事故防止に向けた研修(KYT グループワーク)は、KYTへの参加を通じて事故予防に向けた実践的なトレーニング手法を学んでいただくことをねらいとして、ファシリテーションについて、事業検討委員会委員でもあり、ご自身も保育士等キャリアアップ研修においてKYTを取り入れ講師を務められている大阪公立大学名誉教授の関川芳孝氏に依頼した。KYTで取り扱うイラストは、直近で食事時の死亡事故が発生していることや、冒頭の栗並委員の講演との関連性を考慮し、食事時の場面とし、啓発資材から抜粋した。

④啓発資材についての解説は、参加者より、啓発資材やKYTの実施方法についてフィードバックを頂き、改良していくことをねらいとして、事務局より、今回のセミナーで取り上げる啓発資材及びKYTについて、職員アンケート調査結果を踏まえて作成・実施したものであるという背景をお伝えした上で、啓発資材作成の考え方を紹介し、参加後アンケート調査への回答を依頼した。

図表 73 セミナープログラム

#	時間	セッションタイトル	講演者
1	13:00~13:10	開会あいさつ	こども家庭庁成育局 安全対策課
2	13:10~13:25	こどもの事故の事例紹介：ご遺族の立場から	碧南市認可保育所死亡事故 被害児童の親 栗並 えみ氏
3	13:25~13:40	こどもの事故を防ぐための取組紹介	パピーナ久我山保育園園長 堀 明日香氏
4	13:40~13:50	参加者間の自己紹介・アイスブレイク ※対面参加者のみ。オンライン参加者は休憩	—
5	13:50~14:30	KYT グループワーク ※オンライン参加者は対面参加者のワークを観察	大阪公立大学名誉教授 関川 芳孝氏
6	14:30~14:45	講評・Q&A セッション ※当日、講師からの講評は一部ワークに組み入れ、 Q&A は時間の都合上割愛	関川氏、栗並氏、堀氏
7	14:45~15:00	研修使用教材についての解説とご案内	事務局

④ 申込み概況

対面参加 65 名、オンライン参加 3,351 名の申込みを受け付けた。当初、対面参加者の上限は 50 名としていたが、想定よりも希望者が多かったため、上限を引き上げた。オンライン参加者数は、当初は最大 500 名程度を見込んでいたが、想定より多い 3,000 名を超える申込みがあった。

ア. 申込者の基本属性

40 代から 50 代が過半数を占める。教育・保育施設等の職員が約 9 割強である。自治体職員も約 6～7%程度含まれ、うち約 6 割が市区町村の所属である。

図表 74 年齢（対面）

#	回答	件数	割合
1	18-19歳	0	0.0%
2	20-29歳	5	7.7%
3	30-39歳	12	18.5%
4	40-49歳	18	27.7%
5	50-59歳	18	27.7%
6	60-69歳	11	16.9%
7	70歳以上	1	1.5%
	全体	65	100.0%

図表 75 年齢（オンライン）

#	回答	件数	割合
1	18-19歳	2	0.1%
2	20-29歳	342	10.2%
3	30-39歳	574	17.1%
4	40-49歳	1,026	30.6%
5	50-59歳	1,000	29.8%
6	60-69歳	351	10.5%
7	70歳以上	56	1.7%
	全体	3,351	100.0%

図表 76 職業（対面）

#	回答	件数	割合
1	教育・保育施設等の職員	60	92.3%
2	自治体職員	5	7.7%
	全体	65	100.0%

図表 77 職業（オンライン）

#	回答	件数	割合
1	教育・保育施設等の職員	3,152	94.1%
2	自治体職員	199	5.9%
	全体	3,351	100.0%

図表 78 自治体区分（対面）

#	回答	件数	割合
1	都道府県	2	40.0%
2	指定都市・中核市	0	0.0%
3	市区町村	3	60.0%
	全体	5	100.0%

図表 79 自治体区分（オンライン参加）

#	回答	件数	割合
1	都道府県	19	9.5%
2	指定都市・中核市	51	25.6%
3	市区町村	129	64.8%
	全体	199	100.0%

約 35%が認可保育所である。対面では居宅訪問型保育事業、小規模保育事業、その他の認可外保育施設がそれぞれ約 1 割、オンラインでは認定こども園が約 16%、企業主導型保育施設、その他の認可外保育施設、小規模保育事業が約 1 割を占める。

図表 80 施設・事業種別（対面）

#	回答	件数	割合
1	認可保育所	22	36.7%
2	居宅訪問型保育事業	8	13.3%
3	小規模保育事業	7	11.7%
4	その他の認可外保育施設	7	11.7%
5	企業主導型保育施設	5	8.3%
6	放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)	3	5.0%
7	認定こども園	1	1.7%
8	家庭的保育事業	1	1.7%
9	認可外の居宅訪問型保育事業	1	1.7%
10	幼稚園	0	0.0%
11	事業所内保育事業(認可)	0	0.0%
12	一時預かり事業	0	0.0%
13	病児保育事業	0	0.0%
14	子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)	0	0.0%
15	子育て短期支援事業(ショートステイ・トワイライトステイ)	0	0.0%
16	地方単独保育施設	0	0.0%
17	その他(単に「保育所」など、具体的な種別が不明なもの)	5	8.3%
	全体	60	100.0%

図表 81 施設・事業種別（オンライン）

#	回答	件数	割合
1	認可保育所	1,113	35.3%
2	認定こども園	507	16.1%
3	企業主導型保育施設	337	10.7%
4	その他の認可外保育施設	298	9.5%
5	小規模保育事業	296	9.4%
6	放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)	177	5.6%
7	幼稚園	58	1.8%
8	一時預かり事業	54	1.7%
9	居宅訪問型保育事業	47	1.5%
10	子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)	47	1.5%
11	事業所内保育事業(認可)	46	1.5%
12	病児保育事業	45	1.4%
13	認可外の居宅訪問型保育事業	37	1.2%
14	家庭的保育事業	23	0.7%
15	子育て短期支援事業(ショートステイ・トワイライトステイ)	6	0.2%
16	地方単独保育施設	1	0.0%
17	その他(単に「保育所」など、具体的な種別が不明なもの)	60	1.9%
	全体	3,152	100.0%

職種は約 5～6 割が保育士である。役職は、対面では約 42%が施設長等、約 35%が役職についていない者である。オンラインでは約 33%が施設長等、約 27%が役職についていない者、約 16%が主任である。勤務形態は、対面では約 77%、オンラインでは約 90%が常勤職員である。

図表 82 職種（対面）

#	回答	件数	割合
1	保育士	32	53.3%
2	嘱託医・看護師	5	8.3%
3	栄養士・調理員	1	1.7%
4	保育教諭	0	0.0%
5	保育補助者	0	0.0%
6	幼稚園教諭	0	0.0%
7	バス運転手	0	0.0%
8	その他	22	36.7%
	全体	60	100.0%

図表 83 職種（オンライン）

#	回答	件数	割合
1	保育士	1,934	61.4%
2	保育教諭	349	11.1%
3	嘱託医・看護師	178	5.6%
4	保育補助者	76	2.4%
5	幼稚園教諭	63	2.0%
6	栄養士・調理員	35	1.1%
7	バス運転手	1	0.0%
8	その他（放課後児童支援員、事務員など）	516	16.4%
	全体	3,152	100.0%

図表 84 役職（対面）

#	回答	件数	割合
1	施設長・園長・管理者	25	41.7%
2	役職についていない	21	35.0%
5	副園長・教頭	5	8.3%
3	主任	1	1.7%
4	副主任・中核リーダー・専門リーダー	1	1.7%
6	若手リーダー・職務分野別リーダー	1	1.7%
7	その他	6	10.0%
	全体	60	100.0%

図表 85 役職（オンライン）

#	回答	件数	割合
1	施設長・園長・管理者	1,047	33.2%
2	役職についていない	848	26.9%
3	主任	516	16.4%
4	副主任・中核リーダー・専門リーダー	344	10.9%
5	副園長・教頭	163	5.2%
6	若手リーダー・職務分野別リーダー	142	4.5%
7	その他	92	2.9%
	全体	3,152	100.0%

図表 86 勤務形態（対面）

#	回答	件数	割合
1	常勤職員	46	76.7%
2	非常勤職員	5	8.3%
3	その他(単に「パート」など、常勤か否かの区別が不明なもの)	9	15.0%
	全体	60	100.0%

図表 87 勤務形態（オンライン）

#	回答	件数	割合
1	常勤職員	2,841	90.1%
2	非常勤職員	241	7.6%
3	その他(単に「パート」など、常勤か否かの区別が不明なもの)	70	2.2%
	全体	3,152	100.0%

イ. セミナーへの関心

約5～6割が自治体から教育・保育施設等へのご案内からセミナーを認知している。

図表 88 セミナーを知ったルート（対面）

#	回答	件数	割合
1	自治体から教育・保育施設等へのご案内	34	52.3%
2	こども家庭庁から自治体への事務連絡	23	35.4%
3	保育団体から教育・保育施設等へのご案内	4	6.2%
4	知人からの紹介	1	1.5%
5	その他	3	4.6%
	全体	65	100.0%

図表 89 セミナーを知ったルート（オンライン）

#	回答	件数	割合
1	自治体から教育・保育施設等へのご案内	2,173	64.8%
2	こども家庭庁から自治体への事務連絡	772	23.0%
3	保育団体から教育・保育施設等へのご案内	304	9.1%
4	知人からの紹介	40	1.2%
5	その他	62	1.9%
	全体	3,351	100.0%

特に関心のあるプログラムとして、対面では約8割が現場職員からの講演、約6割が遺族からの講演、約5割が KYT 研修を挙げている。オンラインでは約95%が現場職員からの講演、約55%が遺族からの講演を挙げているが、KYT 研修は約17%に留まり、対面との差異が大きい。

図表 90 特に関心のあるプログラム（対面、複数回答（n=65））

#	回答	件数	割合
1	現場職員講演	51	78.5%
2	遺族講演	40	61.5%
3	KYT研修	31	47.7%
4	解説	14	21.5%

図表 91 特に関心のあるプログラム（オンライン、複数回答（n=3,351））

#	回答	件数	割合
1	現場職員講演	3,168	94.5%
2	遺族講演	1,840	54.9%
3	KYT研修	580	17.3%
4	解説	429	12.8%

セミナーで期待する効果として、他施設・事業の取組を求める声が最も多く、対面では約 74%、オンラインでは約 86%を占める。

図表 92 セミナーで期待する効果（対面、複数回答（n=65））

#	回答	件数	割合
1	他施設・事業の取組を知る	48	73.8%
2	研修受講	43	66.2%
3	有識者の知見を得る	40	61.5%
4	研修開催方法の参考	37	56.9%
5	遺族の思いを知る	24	36.9%
6	その他	3	4.6%

図表 93 セミナーで期待する効果（オンライン、複数回答（n=3,351））

#	回答	件数	割合
1	他施設・事業の取組を知る	2,887	86.2%
2	研修受講	2,373	70.8%
3	有識者の知見を得る	2,133	63.7%
4	研修開催方法の参考	1,833	54.7%
5	遺族の思いを知る	1,237	36.9%
6	その他	29	0.9%

⑤ 参加後アンケート調査

セミナー参加者に対し、セミナーや啓発資材等へのご意見・ご感想を伺うため、アンケート調査を実施した。有効回答数は対面参加 41 名、オンライン参加 1,187 名であった。

ア. 回答者の基本属性

40 代から 50 代が約 6 割を占め、教育・保育施設等の職員が約 9 割、自治体職員は約 1 割である。

図表 94 年齢（対面）

#	回答	件数	割合
1	18-19歳	0	0.0%
2	20-29歳	3	7.3%
3	30-39歳	5	12.2%
4	40-49歳	13	31.7%
5	50-59歳	13	31.7%
6	60-69歳	7	17.1%
7	70歳以上	0	0.0%
	全体	41	100.0%

図表 95 年齢（オンライン）

#	回答	件数	割合
1	18-19歳	1	0.1%
2	20-29歳	139	11.7%
3	30-39歳	221	18.6%
4	40-49歳	337	28.4%
5	50-59歳	367	30.9%
6	60-69歳	118	9.9%
7	70歳以上	4	0.3%
	全体	1,187	100.0%

図表 96 職業（対面）

#	回答	件数	割合
1	教育・保育施設等の職員	37	90.2%
2	自治体職員	4	9.8%
	全体	41	100.0%

図表 97 職業（オンライン）

#	回答	件数	割合
1	教育・保育施設等の職員	1,108	93.3%
2	自治体職員	79	6.7%
	全体	1,187	100.0%

図表 98 自治体区分（対面）

#	回答	件数	割合
1	都道府県	1	25.0%
2	指定都市・中核市	0	0.0%
3	市区町村	3	75.0%
	全体	4	100.0%

図表 99 自治体区分（オンライン）

#	回答	件数	割合
1	都道府県	11	13.9%
2	指定都市・中核市	29	36.7%
3	市区町村	39	49.4%
	全体	79	100.0%

約3割が認可保育所である。対面では企業主導型保育施設、居宅訪問型保育事業がそれぞれ約2割弱、オンラインでは認定こども園が約16%、企業主導型保育施設、小規模保育事業、その他の認可外保育施設が約1割を占める。

図表 100 施設・事業種別（対面）

#	回答	件数	割合
1	認可保育所	12	32.4%
2	企業主導型保育施設	7	18.9%
3	居宅訪問型保育事業	6	16.2%
4	小規模保育事業	4	10.8%
5	その他の認可外保育施設	3	8.1%
6	認可外の居宅訪問型保育事業	2	5.4%
7	放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)	1	2.7%
8	事業所内保育事業(認可)	1	2.7%
9	認定こども園	0	0.0%
10	家庭的保育事業	0	0.0%
11	幼稚園	0	0.0%
12	一時預かり事業	0	0.0%
13	病児保育事業	0	0.0%
14	子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)	0	0.0%
15	子育て短期支援事業(ショートステイ・トワイライトステイ)	0	0.0%
16	地方単独保育施設	0	0.0%
17	その他	1	2.7%
	全体	37	100.0%

図表 101 施設・事業種別（オンライン）

#	回答	件数	割合
1	認可保育所	387	34.9%
2	認定こども園	177	16.0%
3	企業主導型保育施設	125	11.3%
4	小規模保育事業	111	10.0%
5	その他の認可外保育施設	106	9.6%
6	放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)	50	4.5%
7	事業所内保育事業(認可)	19	1.7%
8	居宅訪問型保育事業	18	1.6%
9	子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)	17	1.5%
10	一時預かり事業	16	1.4%
11	幼稚園	14	1.3%
12	認可外の居宅訪問型保育事業	14	1.3%
13	病児保育事業	11	1.0%
14	家庭的保育事業	8	0.7%
15	子育て短期支援事業(ショートステイ・トワイライトステイ)	3	0.3%
16	地方単独保育施設	1	0.1%
17	その他	31	2.8%
	全体	1,108	100.0%

職種は約6割が保育士である。役職は、対面では約46%が施設長等、約24%が役職についていない者である。オンラインでは施設長等、役職についていない者がそれぞれ約3割である。勤務形態は、対面では約7割、オンラインでは約9割が常勤職員である。

図表 102 職種（対面）

#	回答	件数	割合
1	保育士	23	62.2%
2	嘱託医・看護師	5	13.5%
3	栄養士・調理員	1	2.7%
4	保育教諭	0	0.0%
5	保育補助者	0	0.0%
6	幼稚園教諭	0	0.0%
7	バス運転手	0	0.0%
8	その他（ベビーシッターなど）	8	21.6%
	全体	37	100.0%

図表 103 職種（オンライン）

#	回答	件数	割合
1	保育士	689	62.2%
2	保育教諭	115	10.4%
3	嘱託医・看護師	75	6.8%
4	保育補助者	27	2.4%
5	幼稚園教諭	24	2.2%
6	栄養士・調理員	14	1.3%
7	バス運転手・添乗員	1	0.1%
8	その他（放課後児童支援員、事務など）	163	14.7%
	全体	1,108	100.0%

図表 104 役職（対面）

#	回答	件数	割合
1	施設長・園長・管理者	17	45.9%
2	役職についていない	9	24.3%
3	副園長・教頭	3	8.1%
4	副主任・中核リーダー・専門リーダー	2	5.4%
5	若手リーダー・職務分野別リーダー	2	5.4%
6	主任	1	2.7%
7	その他（個人事業主など）	3	8.1%
	全体	37	100.0%

図表 105 役職（オンライン）

#	回答	件数	割合
1	施設長・園長・管理者	321	29.0%
2	役職についていない	346	31.2%
3	主任	186	16.8%
4	副主任・中核リーダー・専門リーダー	125	11.3%
5	副園長・教頭	49	4.4%
6	若手リーダー・職務分野別リーダー	48	4.3%
7	その他（個人事業主など）	33	3.0%
	全体	1,108	100.0%

図表 106 勤務形態（対面）

#	回答	件数	割合
1	常勤職員	27	73.0%
2	非常勤職員	3	8.1%
3	その他（フリーランスなど）	7	18.9%
	全体	37	100.0%

図表 107 勤務形態（オンライン）

#	回答	件数	割合
1	常勤職員	989	89.3%
2	非常勤職員	99	8.9%
3	その他（フリーランスなど）	20	1.8%
	全体	1,108	100.0%

イ. セミナーへの感想・意見

参加動機は、対面では約 6 ～ 7 割が遺族の思いを知る、他施設・事業の取組を知る、研修受講や開催方法の参考と回答し、オンラインでは約 7 割が遺族の思いを知る、研修受講と回答している。

図表 108 参加動機（対面、複数回答（n=41））

#	回答	件数	割合
1	遺族の思いを知る	28	68.3%
2	他施設・事業の取組を知る	26	63.4%
3	研修受講	26	63.4%
4	研修開催方法の参考	26	63.4%
5	有識者の知見を得る	23	56.1%
6	その他	1	2.4%

図表 109 参加動機（オンライン、複数回答（n=1,187））

#	回答	件数	割合
1	他施設・事業の取組を知る	873	73.5%
2	研修受講	798	67.2%
3	遺族の思いを知る	679	57.2%
4	研修開催方法の参考	653	55.0%
5	有識者の知見を得る	648	54.6%
6	その他	24	2.0%

プログラムごとの満足度として、遺族及び現場職員からの講演は高い。研修や解説について、対面と比較するとオンラインの方がまばらな回答分布になっている。

満足している点として、約 7 ～ 8 割が遺族の思いを知ることの挙げている。申込時点では、セミナーで期待する効果として遺族の思いを知ることの挙げていたのは約 37%であったのと照らし合わせると、期待値を上回ったと思われる。

満足していない点として、セミナー全体やプログラム等に関する自由記載回答から、特にオンラインについて、画面や音声の不具合及び解消に向けた対応などへの不満が背景に考えられる。

図表 110 プログラムごとの満足度（対面、n=41）

#	プログラム	5.満足している	4.やや満足している	3.どちらでもない	2.あまり満足していない	1.満足していない	平均スコア
1	遺族講演	39	1	1	0	0	4.9
2	現場職員講演	25	10	6	0	0	4.5
3	KYT研修	17	14	7	1	2	4.0
4	解説	11	16	9	3	2	3.8

図表 111 プログラムごとの満足度（オンライン、n=1,187）

#	プログラム	5.満足している	4.やや満足している	3.どちらでもない	2.あまり満足していない	1.満足していない	平均スコア
1	遺族講演	694	316	102	23	52	4.3
2	現場職員講演	457	442	175	47	66	4.0
3	KYT研修	195	308	344	129	211	3.1
4	解説	182	361	361	119	164	3.2

図表 112 「満足」「やや満足」の理由（対面、n=41）

#	回答	件数	割合
1	遺族の思いを知る	33	80.5%
2	他施設・事業の取組を知る	24	58.5%
3	有識者の知見を得る	18	43.9%
4	研修受講	17	41.5%
5	研修開催方法の参考	21	51.2%
6	その他	12	29.3%

図表 113 「満足」「やや満足」の理由（オンライン、n=1,187）

#	回答	件数	割合
1	遺族の思いを知る	887	74.7%
2	他施設・事業の取組を知る	636	53.6%
3	有識者の知見を得る	415	35.0%
4	研修受講	461	38.8%
5	研修開催方法の参考	465	39.2%
6	その他	221	18.6%

図表 114 「どちらともいえない」「あまり満足していない」「満足していない」の理由（対面、複数回答（n=41））

#	回答	件数	割合
1	遺族の思いを知る	1	2.4%
2	他施設・事業の取組を知る	1	2.4%
3	有識者の知見を得る	1	2.4%
4	研修受講	5	12.2%
5	研修開催方法の参考	2	4.9%
6	その他	18	43.9%

図表 115 「どちらともいえない」「あまり満足していない」「満足していない」の理由（オンライン、複数回答（n=41））

#	回答	件数	割合
1	遺族の思いを知る	60	5.1%
2	他施設・事業の取組を知る	113	9.5%
3	有識者の知見を得る	149	12.6%
4	研修受講	146	12.3%
5	研修開催方法の参考	129	10.9%
6	その他	579	48.8%

KYT において一部イラストを用い、KYT でテーマとした食事中的場面を中心に紹介した啓発資材について、良かった点として特に約 6 割が内容のわかりやすさを挙げている。改善点として、内容やイラストの詳細化・具体化などの声がみられる。

図表 116 啓発資材の良かった点（対面、複数回答（n=41））

#	回答	件数	割合
1	内容がわかりやすい	26	63.4%
2	内容の理由がわかりやすい	16	39.0%
3	デザインが読みやすい	16	39.0%
4	見返したり持ち運んだりしやすい	13	31.7%
5	その他	2	4.9%

図表 117 啓発資材の良かった点（オンライン、複数回答（n=1,187））

#	回答	件数	割合
1	内容がわかりやすい	722	60.8%
2	内容の理由がわかりやすい	551	46.4%
3	デザインが読みやすい	268	22.6%
4	見返したり持ち運んだりしやすい	230	19.4%
5	その他	223	18.8%

図表 118 啓発資材に関する自由記載（抜粋・要約、対面、n=41）

大カテゴリ	小カテゴリ	内容
内容	よい	・分かりやすい
	改善が必要	・リスクの説明について、ですます調ではなく、ポイントと同じ語尾で簡潔な方がよいと思う。箇条書きの方が目に留まりやすい ・食べるのところで、こどものかむ力の判断ポイントが書かれていると、さらにわかりやすいと思う ・別紙に事例があると一層意識しやすいと思う
デザイン	よい	・絵や色調の柔らかいトーンがとてもよい資料だと思う ・見やすい
	改善が必要	・A4 半分の大きさで、各場面にひそむリスクと防ぐポイントを裏表にすると携帯しやすいのではないかと ・ポイントはチェックリストのようにすればより振り返りやすい
KYT 活用	改善が必要	・園内研修で使えるよう、一枚絵もつけてもらえると助かる

図表 119 啓発資材に関する自由記載（抜粋・要約、オンライン、n=1,187）

大カテゴリ	小カテゴリ	内容
内容	よい	・過去の事故につながった原因が明記されているので、「やるべきこと、やってはいけないこと」が明確でわかりやすい ・事故防止に必要なことを短い文で誰でも分かりやすく書いてある ・教材にないことは二次元コードからより詳しい情報が分かる
	改善が必要	<全体>

大カテゴリ	小カテゴリ	内容
		・「やるべきこと」「やってはいけないこと」など重要ポイントは簡潔に一言で示すとよい。解説はとても詳しく丁寧に理解の助けになるので、別添か裏側に添えるとよい ・短い言葉のあとに細かい説明を入れてもらう方がパッと見たときに読みやすい。例) ねる：「すぐに異変を察知できるよう、こどもを一人にしない」 → 「一人にしない・こどもの異変をすぐに察知できるようにする」 ・寝る時、食べる時、水遊びについて、基本的に一人にしないこと、その場を離れないこと、一人ひとりの表情・身体の変化を注視することをまとめて取り上げ、それについての詳細な説明がいただければわかりやすいように感じた <ねる> ・こどもの顔色がわかる部屋の明るさが必要であることも記載すると、新人・学生にもわかりやすいと思う ・定期的な確認、いわゆる午睡チェックは、ガイドライン等には明記がないが、チェックの間隔について触れることができるならば記載してはどうか <たべる> ・保育士の視線が時計を見ているという設定が、もう少し明確に伝わるとよい/汁物もしくは水の入ったコップを描いていないので、水分を与えていない×と入れるか、水分用のコップを描くとよい ・リンゴの提供を避けるという文章が、保育施設全体としてリンゴの提供はしてはいけないという言葉のように感じた。ガイドラインにのっとり、完了期までは煮て提供しているが、どうしても提供しなければならない場合ではなかった。ガイドラインにも今後リンゴの提供は避けるようにと記述されていくのか <みずあそび> ・今回はプール遊びの場面のみのなので、プール遊びと書いてある方がしっくりくる。他にも滑りやすい場所など周りにあると思うので、プールのみならずその周辺の環境まで広がるとさらに良い ・監視員が監視できる人数で入水するよう記載する(数え切れない大人数で入水しない) <応急処置> ・イラストのみならずもう少しポイントなどを書いてほしい
デザイン	よい	・場面毎に A4 1 枚に優しい雰囲気イラストで一目でわかりやすくまとめられている ・イラストにバツがつきポイントが記載されているのは非常に良い ・いつでも確認できるように室内に掲示ができ、これまで以上に意識化に繋がられる ・自園で作成しているマニュアルに保存しやすい
	改善が必要	・ふんわり優しい感じで写実的なイラストよりも、もっとはっきりした(簡略化された?)ものの方が印象付けやすいと思う ・字が太くて小さいので、もう少しハッキリして大きいと良い ・持ち運んで活用することを目指しているのであれば、サイズや材質を考える必要がある
KYT 活用	よい	・園内での研修にも取り入れやすい

大カテゴリ	小カテゴリ	内容
	改善が必要	• KYTに使用できるようなバツのないイラストがあれば良い • イラストのみとその答えが裏表のようにできていたら良い
テーマ・対象	よい	• とても見やすく保護者にも意識していただける
	改善が必要	• 外遊び（遊具有り、無し）、戸外散歩、遠足、雨天室内遊び、ヒヤリハット事例の多いものなど、色んなバージョンが欲しい。新任にも伝えやすくなると思う • 年齢が高い児童にも焦点を当て、児童の年齢に即した課題をテーマにしてほしい • 保護者向けの資料もあるとよい。家庭でも注意してほしい部分や、施設でどのような点に注意して日々の保育に取り組んでいるのかを保護者にも伝えたい
その他	—	• 保育施設に対して事故予防を呼びかけるに当たり、具体的な手法・教材を提示いただき、参考になった。教材の完成にあたっては、有識者に加え、自治体にも意見照会いただきたい

プログラムや進行について、事故予防の実施に向けた具体的なイメージができた、KYTは勤務先でも実施しやすいと回答しているのは、対面では過半数であるのに対し、オンラインでは約2割程度に留まる。前述の通り、特にオンラインについて、画面や音声の不具合及び解消に向けた対応などへの不満が背景に考えられる。

図表 120 プログラムや進行の良かった点（対面、複数回答（n=41））

#	回答	件数	割合
1	事故予防の実施に向けて具体的なイメージができた	22	53.7%
2	KYTは勤務先でも研修・訓練として実施しやすい	22	53.7%
3	教材を理解しやすくなった	16	39.0%
4	時間がちょうどよい	14	34.1%
5	その他	7	17.1%

図表 121 プログラムや進行の良かった点（オンライン、複数回答（n=1,187））

#	回答	件数	割合
1	事故予防の実施に向けて具体的なイメージができた	407	34.3%
2	KYTは勤務先でも研修・訓練として実施しやすい	232	19.5%
3	教材を理解しやすくなった	545	45.9%
4	時間がちょうどよい	331	27.9%
5	その他	251	21.1%

図表 122 プログラムに関する自由記載（抜粋・要約、対面、n=41）

大カテゴリ	小カテゴリ	内容
遺族講演	よい	• 研修の初めに、実際に被害者ご遺族の方のお話を聞くことで、身が引き締まる思いで研修を受けることができた • 遺族の方のお話は、本当に強く心に響き、遺族の方の気持ちを思うと、涙が出てしまった。保育士として、大切なこどもの命を預かることの重大さを再確認した研修だった • ご遺族のお話はなかなか聞く機会がないので、貴重なお話だった
	改善が必要	• 園を責めているようにも感じられた

大カテゴリ	小カテゴリ	内容
KYT	よい	・実際にグループワークを行うことで有意義な時間が持てた。初めての方、職種が違う方とのコミュニケーションも同じ方向（目的）を向いて問題解決していくことで、初めてとは思えないほどスムーズな話し合いができた。対面の研修はとてもよいと思う ・保育士のための研修が多いが、今回自治体の方も参加されており、また違った視点での話を聞くことができ良かった。保育に関わるさまざまな人が参加できる研修は面白いと思った ・対面参加できて良かった。グループワーク中、講師が丁寧に各テーブルを回り助言をいただけたので、新たな気づきを得られた ・普段の保育を振り返る良い機会になった。園内研修で今回のワークを実践し、意見を共有できたらと思う ・大変有意義なセミナーだった。今後もこのような機会があればぜひグループワークを取り入れてもらいたい ・事故防止に関して、情報発信だけでなく、自分で考える機会のある研修は貴重であるため、今後も定期的実施してほしい
	改善が必要	・事業の異なる方と話し合う場では着眼点も違いとても勉強になったが、時間がもう少しあると、より有意義な時間になると思う ・集団保育の現場の声が聴けて、大変良い勉強の機会となったが、ベビーシッターとして保育をしているので保育環境の違いが大きく感じられた。グループに別れる場合は、多少なりとも、集団保育か個別保育かを種別して、配置をお願いしたいと思った ・リーダーが苦手な人もいるので、あらかじめ赤シールで決めるのではなく、グループに任せてもよいかと思った ・KYT の資料について、確定版は報告書参照とのことだったが、自園に持ち帰りすぐ取り組んでみたい内容だったので、簡単でも配布物があると持ち帰りやすかった ・e ラーニング（テスト含む）で全職員に受講させやすい方法での研修も検討いただきたい
構成・形式	よい	・今回の趣旨目的が明確かつ無駄のないセミナーの構成で、ロジックがしっかりしていた ・講演は 15 分という時間だったが、集中して聞くことができたので良かった ・研修時間が短時間で、その中でも要点が集約されており、長時間かけて行う研修よりも内容が無駄なく入ってきた
	改善が必要	・事故予防のための具体的取組、注意事項や過去の事例をたくさん聞けるとより良かった ・今回は時間が押してしまっていたので仕方ないと思うが、最後に質疑応答の時間があるとよかった。オンライン参加の方からどのようなコメントや質問が入っていたのかも知りたかった
その他	—	・もっと早く案内があると予定調整がしやすい ・申込みや問合せの際の対応をより迅速・丁寧にしてほしい ・ご家庭への注意喚起、保護者への指導もしてほしい

図表 123 プログラムに関する自由記載（抜粋・要約、オンライン、n=1,187）

大カテゴリ	小カテゴリ	内容
遺族講演	よい	・遺族のお気持ちを聞ける機会はないので、貴重なお話を伺えた ・大事な命を預かる職員として、常に子どもにとってどうかを考えながら保育を行えるチームでないといけないし、オープンに話し合える組織運営をしていきたいと思った ・おかしいと思うことをおかしいと言える職場にならなければ、子ども達を危険にさらしてしまうと感じた ・日々の保育を振り返るきっかけとなった ・機会があれば職員全員に聞かせたいと思った
	改善が必要	・事実関係がわからないので一方的な主張とを感じる部分があった
KYT	よい	・実践園の話が非常に参考になり、自園でも是非取り入れたい ・グループワークを実際に見て KYT の実践方法を体験できた。講師が参加者の意見をまとめわかりやすく換言する様子から、リーダーがどのように進化していくかを体験できとても参考になった ・どう進むか不明な中、集中し想像を巡らせて見ていたからか有意義に時間を使った感じがあり、満足度が高いのが不思議で面白い ・とても分かりやすい内容で、オンライン参加だったが一緒に問題を考えていくことでとても勉強になった ・遠方から若手職員(コロナ禍で入職し満足に実習できず)と参加し、ワークで職員間の気づき等を共有できとても有意義だった
	改善が必要	・グループワークの様子がわかりにくかった ・グループワークの付箋が見えにくかった ・グループワークの音声聞き取りにくかった ・進行の仕方など、勤務先で行う研修の参考にしたかったので、講師を正面から映してもらい、ワークの様子を見たかった ・オンライン参加者同士でワークをする場が欲しかった。 ・時間との兼ね合いで質疑応答が省略されたのが残念 ・オンラインでは難しいと思う
構成・形式	よい	・会場の都合など限界がある中、オンラインも用意してもらい感謝 ・声や説明もわかりやすく、進行もスムーズで参加しやすかった ・時間の無駄なく、濃い内容で進んでいきとても良かった ・短時間で効率的な研修だった ・参加型のセミナーで良かった ・現場に寄り添ったよい研修だった。やってみたいと話した ・この時期に学ぶことで新年度4月早々に実施していこうと思った ・午後からのちょうどよい時間で参加しやすかった ・このような形で繰り返し行ってもらいたい。とても勉強になった ・地方でもこのような研修を望む

大カテゴリ	小カテゴリ	内容
		- 開始時にスムーズに視聴できず少し不安になったが、すぐに解消されたので大きな改善点はないと思う - オンラインで会場参加と同じような体験を期待するものではないと思うが、「せめてグループワークの様子が少しでも伝わるように」という運営の配慮を十分に感じた。大変な挑戦だったと思うが、得難い学びの機会を得られたと感じている
	改善が必要	- 繰り返し退出する、画像や音声途切れるときがあった - 事前の接続テストや、不具合を訴える参加者への対応が不足していたのではないかと反省してよりよいものにしてほしい - 最初の画面が暗かったので、事務局から接続に関するアナウンスや入室前の接続確認があるとよかった。進行役と参加者対応役を分担し参加者の指摘に迅速に対応するとよりよくなると思う - 対面とオンラインのハイブリッドは難しい。録画配信でもよい - TeamsではなくZoomにしてほしい - 早口で聞き取りづらかった - 資料がすべて欲しかった - オンライン参加者がもう少し参加できる内容だとよりありがたい - オンラインへ配慮があったが、逆に会場がやり辛くないか心配だった。会場優先とし1グループに絞るなどしてきけるとよかった - 内容はとても良かったが通信状況が悪く視聴が難しい状態で残念。プログラムは興味深いのでまた同様の研修を企画してほしい - 保育者として節度を保つためQ&Aは記名式とするなど事前ルール化した方がよい

KYT を職場で実施する場合に適切な時間は、対面では 30 分、オンラインでは 10 分との回答が多い。手法理解のため初めは 30 分～1 時間、慣れたら 10～15 分と幅を持たせたいとの回答もある。

図表 124 KYT を職場で実施する場合に適切な時間（対面、複数回答（n=41））

#	回答	件数	割合
1	30分	18	43.9%
2	10分	13	31.7%
3	1時間	4	9.8%
4	その他	6	14.6%
	全体	41	100.0%

図表 125 KYT を職場で実施する場合に適切な時間（オンライン、複数回答（n=1,187））

#	回答	件数	割合
1	30分	180	15.2%
2	10分	628	52.9%
3	1時間	295	24.9%
4	その他	84	7.1%
	全体	1,187	100.0%

図表 126 KYT を職場で実施する場合に適切な時間（自由記載、抜粋・要約、対面、n=41）

- 時間を決める：90 分／20 分／10 分
- 幅を持たせる：初期 30 分、慣れたら 15 分／初めは解説を交えながらやり方を覚え、全員が理解できてから一回の実施時間を 10 分程度に設定していきたい

図表 127 KYT を職場で実施する場合に適切な時間（自由記載、抜粋・要約、オンライン、n=1,187）

- 時間を決める：2 時間／90 分／45 分／20 分／15 分／10 分
- 幅を持たせる：手法の理解のため初めは 30 分～1 時間、慣れたら 10～15 分／どの時間帯も園児がいるため、職員を一齐に揃えるのは困難であるが、この研修は必要不可欠であるため、30 分を複数回開催し、慣れてきたら通常保育の場面でその都度、行っていきたい
- その他：短時間でも気がついた時や顔を合わせた時、気軽に話し合える機会に行いたい。少しでも一歩ずつ行うことに意義がある／人数による／時間が取れない

⑥ 申込み概況申込み概況及び参加後アンケート調査を踏まえた検証

ア. 開催方法

対面参加について、当日、公共交通機関の遅延等により遅参者、欠席者が発生したが、グループ間の参加者移動にもご協力いただきワークを実施した。セミナー後に参加者間で継続して話し合う様子もみられ、講演及び研修以外に、他施設・事業や自治体関係者との交流も生まれていた。

特に対面参加の場合、移動が伴うことから、「もっと早く案内があると予定調整しやすい」との声もあった。本事業は令和 5 年 9 月～令和 6 年 3 月までの約半年の事業であり、タイトなスケジュールの中でセミナー周知が約 1 か月前となったが、可能であれば準備期間を十分に確保し早めに周知した上で、申込者により迅速・丁寧に対応できるとなおよいと考える。

オンライン参加について、開催までに「1 つの端末で複数名が視聴可能か」というお問合せが複数あったため、実際は申込者数を上回る視聴者数であったと想定される。申込者への事前連絡時、複数名で視聴される場合、付箋やペンを用意しワークに取り組んでいただく可能性もご案内した。

オンライン参加における当日進行上、①接続・音声不良となる参加者の発生及び当該事象への対応、②ワーク観察への期待値の齟齬、③投影資料と配布資料の区別に係る認識の不一致が大きな課題として挙げられる。図表 128 及び図表 129 にツールの比較、課題の詳細及び改善点をまとめた。

接続や音声について「声や説明がわかりやすい」「開始時は視聴できなかったがすぐに解消された」、運営について「進行がスムーズ」、グループワークについて「参加型のセミナーで良かった」「ワークの様子が少しでも伝わるようにという配慮を十分に感じた」という声もあり、接続・音声に特段問題が生じなかった参加者や、当初期待値との齟齬がない参加者には満足いただけた部分もあると思われるが、改善すべき課題について 1 つ 1 つ省みた上で、より多くの方に満足いただけるような配慮の積み重ねが必要であると考えます。

図表 128 オンライン会議ツールの比較（セミナー企画時点）⁵

カテゴリ	Microsoft Teams (Microsoft 365)	Google Meet (Google Workspace)	Webex	Zoom
運営会社	Microsoft	Google	Cisco	Zoom Video Communications
インターフェース	・ブラウザ ・専用アプリ	・ブラウザ ・専用アプリ	・ブラウザ ・専用アプリ	・ブラウザ ・専用アプリ
アカウント登録	不要	不要	不要	不要
最大接続ユーザー数	・会議：ライセンスに応じて最大 1,000 ・タウンホール：ライセンスに応じて最大 20,000	・ライセンスに応じて最大 1,000 (ライブストリームはライセンスに応じて最大 100,000)	・会議：ライセンスに応じて最大 1,000 ・ウェビナー：ライセンスに応じて最大 10,000	・会議：ライセンスに応じて最大 1,000 ・ウェビナー：ライセンスに応じて最大 50,000
画面共有	○	○	○	○
Q&A	○	○	○	○
ブレイクアウトルーム	○(最大 50 室)	○(最大 100 室)	○(最大 100 室)	○(最大 100 室)
セキュリティ	ISMAP クラウドサービスリスト ⁶ 登録済	ISMAP クラウドサービスリスト登録済	ISMAP クラウドサービスリスト登録済	ISMAP クラウドサービスリスト未登録 ⁷

図表 129 オンライン開催の課題と改善点

カテゴリ	準備段階の対応	開催前後の様子	課題	今後の改善点
ツール	・Microsoft Teams/Google Meet/Webex/Zoom が候補 ・Zoom は、企画時点ではセキュリティ面から選定せず ・大人数に耐える大規模イベント形式における機能等を比較し Teams タウンホールに決定	・Zoom の方が使いやすい、Zoom ならブレイクアウトルームができる、オンライン会議ツールを Zoom と総称し希望するなどの声あり	・オンライン会議ツールのシェアは、Zoom 約 42%と Teams 約 35%で上位約 75%を占める⁸が、今回 Zoom になじんだ参加者が多かったと思われ、より丁寧な操作説明が必要であった	・Zoom のセキュリティ面も改善されたことを踏まえ改めて候補とする ・Teams などの場合も、機能面でほとんど変わらない点や、操作方法を事前に早い段階で明示する

⁵ 各社公開情報より作成（令和 6 年 1 月時点）

⁶ 政府情報システムのためのセキュリティ評価制度（ISMAP）：政府が求めるセキュリティ要求を満たしているクラウドサービスを予め評価・登録することにより、政府のクラウドサービス調達におけるセキュリティ水準の確保を図る

⁷ セミナー企画時点（令和 5 年 9～12 月上旬）では未登録であった。なお、令和 5 年 12 月 25 日に登録された。

⁸ デジタル化の窓口「アフターコロナ時代の WEB 会議システム」（令和 5 年 4 月 21 日）

カテゴリ	準備段階の対応	開催前後の様子	課題	今後の改善点
接続・音声	- 複数回、複数端末でテストを実施 - 不具合は Microsoft 社に照会し、最終的に動作に問題ないことを確認。アプリ・OS の最新化を推奨される⁹ - 前日に同会場で開催した対面・オンラインの別セミナーも接続良好	- 開始前 12:00 頃より接続可とし、定刻に配信開始したが、接続・画面・音声不良の声あり - 事務局から通信環境の変更などアナウンスし、改善された声も届いたが終盤まで不調を訴える声あり	- 事務局は定刻に配信されたものと認識したままで、左記事態への対応・アナウンスが足りなかった - 最大接続数は下回っていたが、通信環境により負荷が大きかった可能性 - 端末バージョン等が影響した可能性	- 事前により複数のパターンを想定してテストを実施 - どうしても不具合が起る場合も迅速に確認できるよう人員配置・分担 - 予めアプリ及び OS の最新化などを呼びかけておく
グループワーク	- 当初想定は対面のみだが、有識者からより多くの人にみてもらえるようオンラインで、ワークを観察してもらってはどうかと助言あり - 事前に「オンラインは対面ワークの観察になる」旨を周知 - 申込み時、特に関心のあるプログラムに KYT を挙げる割合は、オンラインは 2 割に満たず、対面より期待値が低いと想定	- グループ内の音声まで聴きたい、付箋の内容を細かく見たいなど、「観察」内容として詳細を求める声あり - やむなく質疑応答の時間を割愛し、都度あるグループの議論の発表や、講師の助言を提供する時間に充てた - 状況がわかるようになったという声も届いたが、なおわかりにくさを訴える声あり	- 画面や音声など、事務局想定と参加者の期待値に齟齬があった - マイクは 1 つのグループの側に置いたが、周囲の音声も拾いすぎていた - 投影資料と会場の様子の 2 画面としていたが、同じ画面になっていない参加者があり、事務局も原因特定と対応に時間がかかり参加者の不安を招いた	- 事前により複数のパターンを想定してテストを実施 - オンラインでグループワークを「観察」する場合は、1 つのグループの細かい会話内容や付箋 1 つ 1 つの内容までクリアになるよう調整
ブレイクアウトルーム	- 講師と相談しワークの性質上オンラインでは難しいと判断 - 各ツールのブレイクアウトルームは最大 50-100 室のため申込者数から 1 室約 30 名となりこの点でも困難	オンライン参加者同士でグループワークをする場が欲しかった、オンラインでもグループワークできるツールを活用してほしかったとの声あり	ブレイクアウトルームの活用によるグループワークのニーズを把握しきれなかった	オンラインでもグループワークを実施する場合は、ブレイクアウトルームが活用できるよう、申込みの段階から参加人数の上限を設定

⁹ 参考：Microsoft Teams のハードウェア要件 <https://learn.microsoft.com/ja-jp/microsoftteams/hardware-requirements-for-the-teams-app#hardware-requirements-for-teams-on-mobile-devices>（令和 6 年 1 月閲覧）

カテゴリ	準備段階の対応	開催前後の様子	課題	今後の改善点
資料	- 対面・オンラインともに、グループワークという性質やアンケート調査結果など未確定情報も含まれることを踏まえ、投影・配布資料を区別 - 加えて、実際に起きた事故内容などセンシティブな内容も含まれることから録画配信はしないこととした	- 資料はすべて欲しかったとの声あり - 録画配信の希望あり	- 資料の性質により投影・配布を区別することはままある¹⁰が、事前にその旨を理解いただけるようお伝えできず、特にオンライン参加者にとって資料の一部欠損などと捉えられた - 上述の接続不良もあり録画配信へのニーズが高まった	- 本事業報告書の付録5～7において、当日資料や、啓発資材を確定版として掲載 - 資料の区別が必要な場合は、予めその趣旨を説明し、ご理解いただけるようご案内 - 録画配信してもよい前提の内容となるよう事前に検討

イ. プログラム

参加後アンケート調査結果による各プログラムの評価を図表 130 に示す。運営手法上の課題は上述の通りであるが、内容としては、保育事故のご遺族や、現場職員からの講演について特に評価が高く、研修の前にこのような講演を実施することで、モチベーションを高めた上で研修に臨むことができるというメリットが考えられる。KYT グループワークについては、オンライン開催を前提とした改善点を述べたところであるが、対面のみで開催することとした上で、同内容で複数回開催し、より多くの方にご参加いただくことも考えられる。

図表 130 各プログラムへの評価

カテゴリ	参加者の反応（要約）		今後に向けた対応
遺族講演	よい	- 初めに遺族のお話を聞くことで、身が引き締まる思いで研修受講できた - 遺族のお気持ちを聞ける機会はないので、貴重なお話を伺えた - 大事な命を預かる責任感と、オープンな組織運営を改めて志した	- 多くの参加者から好評を得たが、「遺族だから」というよりも、講演者個人の話法やメッセージの工夫によるところが大きいと考える - 遺族講演が必須というよりも、最終的に参加者への動機づけにつながるような効果が期待できれば依頼するというスタンスがよいのではないか
	課題	園を責めている、一方的と感じる部分があった	
現場職員講演	よい	- 非常に参考になった - 紹介された園の手法は取り組みやすく、自園でも是非取り入れたい	申込み時点から期待値が高く、多くの参加者から好評を得た

¹⁰ 例えば、富士通総研「災害派遣福祉チームの育成に関する調査研究事業報告書」（令和元年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金 社会福祉推進事業）では、最初から正解を見せるのではなく、段階的に気づき理解していくように促すため、演習スライドは印刷・配布しないよう推奨されている。

カテゴリ		参加者の反応（要約）	今後に向けた対応
	課題	15 分だったが集中して聞いた - もっとお話を聞きたかった	講演時間は、15 分でちょうどよいという声もあり個人差があると思われるので、ワーク時間との兼ね合いによる
KYT	よい	<対面> - 情報発信だけでなく、自分で考える研修は貴重。今後も定期実施してほしい - 異なる業種・職種の方と話し合うと着眼点も異なりとても勉強になった <オンライン> - ワークを実際に見れて学びがあった - オンラインでも一緒に問題を考えていくことでとても勉強になった	<対面かオンラインか> - オンラインでも実施する場合の改善点は上述の通り。グループワークは対面のみの実施とし、人数を絞った上で複数回開催することなども要検討 <グループ分け> - 異なる業種・職種を混在させたところ、概ね勉強になったという反応だが、集団保育・個別保育の区別への要望もあったため、集団・個別の区別やグループ裁量を持たせることも要検討
	課題	<対面> - 時間が足りない - 集団保育と個別保育を区別してほしい - リーダー決めはグループ任せでもよい <オンライン> - オンラインで KYT は難しいのでは - もう少し参加できると良かった ※運営上の課題及び対応は上述の通り	<時間> ワークの時間は手法を覚えていただくためにも長くとった上で、それぞれの勤務先に持ち帰って実施いただく際には個別の事情に応じた時間設定をしていただくとよいのではないか

ウ. 啓発資材

参加後アンケート調査結果による啓発資材の評価を図表 131 に示す。概ね見やすくわかりやすいという評価を得ているが、内容やデザインの改良について事業検討委員会においても議論し、修正が望ましい点について対応した。

今回は、事故予防に関するアンケート調査結果を踏まえ「寝る・食べる・水遊び」の場面に特化し、ガイドライン等の内容を中心に要点をまとめた 1 枚紙を作成することとしたが、内容の粒度、場面の拡大や対象の区分等については引き続き検討が必要と考える。

図表 131 啓発資材の評価

カテゴリ		参加者の反応（要約）	修正対応
内容	よい	- 過去の事故につながった原因が明記され、ポイントが明確でわかりやすい - 事故防止に必要なことを短い文で誰でも分かりやすく書いてある	<全体> 各場面の内容の共通化・詳細化や別紙事例の追加は、みやすさ・わかりやすさを念頭に 1 枚紙を作成しており文字の分量は限られること（文字数が

カテゴリ	参加者の反応（要約）	修正対応
	• 資料にかいていないことは二次元コードからより詳しい情報が分かる 課題 <全体> - 各場面、基本的に一人にしない、その場を離れない点などをまとめた上で詳細な説明があればよい - 別紙に事例があると一層意識しやすい <ねる> - こどもの顔色がわかる部屋の明るさが必要であることも記載するとよい - 定期的な確認、いわゆる午睡チェックは、ガイドライン等には明記がないが、チェックの間隔について触れることができるならば記載してはどうか <たべる> - こどものかむ力の判断ポイントが書かれているとさらにわかりやすい - ガイドラインにのっとり、完了期まではリングを煮て提供しているが、全体としてリングの提供はしてはいけないという言葉のように感じた <みずあそび> - 監視できる人数で入水するよう記載 - 内容はプール遊びの場面のみなので、プール遊びと書いてある方がしっくりくる。他にも滑りやすい場所など周辺環境まで広がるとさらに良い <応急処置> - イラストのみならずもう少しポイントなどを書いてほしい	増え留意点がわかりづらくなる懸念）を踏まえ、今後の検討事項とする <ねる> - ガイドラインにない部屋の明るさは、分量を考慮し今後の検討事項とする - ガイドラインにない午睡チェックの間隔は、分量を考慮し今後の検討事項とする <たべる> - ガイドライン本文にないかむ力は、年齢月齢によらず個人差が大きくまとめて簡潔に記載するのは困難であり、今後の検討事項とする。なお、ガイドライン p.16-18 に浦安市作成の参考資料を掲載している - りんごについては、ガイドライン p.3 に「過去に、誤嚥窒息なども事故が起きた食材は、誤嚥を引き起こす可能性について保護者に説明し、使用しないことが望ましい」とあり、「りんご」も過去に繰り返し事故が発生しているため、「使用しないことが望ましい食材」に当たる。その上で、事務連絡¹¹において、「りんごや梨等の果物については、咀嚼により細かくなったとしても食塊の固さ、切り方によってはつまりやすいので、（離乳食）完了期までは加熱して提供すること」とされていることを踏まえ、原案のままとする <みずあそび> - プール以外に乳児等の大きなたらいを使ったみずあそびなども想定されるため、原案のまま「みずあそび」と表記 - ガイドラインにない人数制限など他の留意事項の追記は、分量を考慮し今後の検討事項とする <応急処置> - スペースの都合上文字は小さくなるが、「こどもの事故防止ハンドブック」から応急処置の内容¹²を追記

¹¹ 令和5年4月27日付けこども家庭庁成育局安全対策課等事務連絡「教育・保育施設等における睡眠中及び食事中の事故防止に向けた取組の徹底について」

¹² こども家庭庁「こどもの事故防止ハンドブック」参照

カテゴリ		参加者の反応（要約）	修正対応
デザイン	よい	・場面ごとにA4 1枚に、優しい雰囲気のイラスト付きで一目でわかりやすくまとめられている ・イラストにバツがつきポイントが記載されているのは非常に良い ・室内に掲示しいつでも確認できる ・自園のマニュアルに保存しやすい	<サイズ・レイアウト> ・現在のサイズでも、①A3/A4に印刷して掲示・研修で活用、②タブレットやモニターでの投影、③スマートフォンでの閲覧など、用途に合わせた柔軟な使用方法が可能と考えるため、今回は原案のままとする ・各場面に記載していた参考資料及び二次元コードは最終ページ下部にまとめスペースを確保し、文字を調整 <チェックリスト化> ・ポイントの箇条書きのボツ部分を□にしてチェックボックス形式とする ・ポイントを短く伝えた後に補足する ・リスクの説明もポイントと同じ語尾で簡潔に記載 <イラスト> ・保育士が時計を見ているという設定が明確に伝わるよう修正 ・水分を与えていない×と入れるか、水分用のコップ等を描く ・テイストについては、柔らかい雰囲気について好意的な意見が多いこと、また、漫画的表現による直感的なみやすさと、写実的表現による現実的なイメージのしやすさを併せ持つよう、両者の中間的表現とした趣旨を踏まえ、今回は原案のままとする
	課題	<サイズ・レイアウト> ・A4 半分の大きさで、リスクとポイントを裏表にすると携帯しやすい ・字が太くて小さいので、もう少しハッキリ大きいと良い <チェックリスト化> ・ポイントはチェックリストのようにすればより振り返りやすい ・短い言葉のあとに細かい説明を入れてる方がパッと見たときに読みやすい ・リスクの説明もポイントと同じ語尾で簡潔な方がよい <イラスト> ・保育士が時計を見ているという設定が明確に伝わるよう修正 ・水分を与えていない×と入れるか、水分用のコップを描く ・柔らかく写実的なイラストより、もっとはっきり(簡略化?)した方が印象的	
KYT 活用	よい	・園内での研修にも取り入れやすい	・Web ページでの公開時に、バツのないイラストのみの媒体もダウンロードできるようにする
	課題	・バツのないイラストがあれば良い ・園内研修で使えるよう一枚絵も欲しい	
テーマ 対象	よい	・とても見やすく保護者にも意識していただける	・今回は、事故予防に関する職員アンケート調査結果を踏まえ「寝る・食べる・水遊び」の場面に特化することとしたが、他の場面も含め、対象をより区分して作成することも今後の検討事項とする
	課題	・外遊び（遊具有・無）、戸外散歩、遠足、雨天室内遊びなどの場面が欲しい ・児童年齢に即した課題を扱ってほしい ・保護者向けの資料もあるとよい	

4. 考察

(1) リサーチクエスチョンへの解

冒頭で示した通り、本事業は、4つのリサーチクエスチョンを設定し、事故防止に向けて①現場職員にとって求められる媒体、②現場でも活用できる啓発方策に焦点を当て調査研究を行った。調査結果を踏まえ導き出されたリサーチクエスチョンへの解を示す。

① ガイドライン等が「浸透」しているといえるのは具体的にどのような状態か

職員アンケート調査では、ガイドライン等を「知っている」よりも「読んだことがある」回答者、また、「睡眠中、プール活動・水遊び、食事中」の事故防止策を「理解している」よりも「実行している」回答者の方が少ないという結果になった。

他方、ガイドライン等に記載のある留意事項は、実行されてはじめて事故防止につながるものである。このため、ガイドライン等に記載のある留意事項を認知し、理解した上で、実行にまで至っている状態を「浸透」している状態であると考ええる。

② 現時点で浸透している職員層はどのような属性であり、浸透を促す要素は何か

職員アンケート調査では、「睡眠中、プール活動・水遊び、食事中」の事故防止策を実行している職員の属性として、年齢では20代～40代、役職ではリーダー職、勤務形態では常勤職員の割合が多かった。また、事故防止策の実行を促す要素として、ヒヤリハットの共有などができる職場の雰囲気づくりや、職場のマニュアル・研修など、職場のマネジメントに係る回答が多かった。

既に浸透段階にあるリーダー職などを中心に、事故防止に向けた職場の雰囲気づくりなどマネジメントを行うことで、事故防止策の実行を促すことが期待される。

③ 現時点で浸透していない職員層はどのような属性であり、浸透に向けた課題や要望は何か

職員アンケート調査では、「睡眠中、プール活動・水遊び、食事中」の事故防止策を実行している職員の属性として、保育士と比較して保育補助者などの補助的な役割を担う者、リーダー職と比較して役職についていない者、常勤職員と比較して非常勤職員などの職員層の割合が少なかった。

また、食事中的場面为例にすると、避けるべきまたは配慮が必要な食材の取扱いについて、栄養士・調理員が実行している割合は相対的に多いが、約7割程度に留まる上に、ガイドラインについて読んだことがあると回答した栄養士・調理師は約3割程度となっており、留意事項が職種によっては行き渡っていないことも想定される。

事故防止策の実行を阻む要素としては、ガイドライン等の読みにくさやわかりにくさを指摘する回答が多かった。

上述の職場マネジメントの中で、保育補助者や栄養士・調理師、非常勤職員等も含め幅広い職員に活用いただけるような、ガイドライン等の内容をわかりやすく伝える媒体・取組が期待される。

④ 浸透していない職員層にみられる課題や要望に対応する効果的な方策は何か

職員アンケート調査では、事故防止に向けて効果的と考える媒体は、特に重大事故につながりやすい「寝る・食べる・水遊び」に特化した一枚紙が最も多かった。また、事故防止に向けて効果的と考える取組は、実践的な研修や訓練が最も多く、例としてグループワークや KYT の回答が多かった。この結果は、リサーチクエスチョン②③への解で示した、ガイドライン等の内容をわかりやすく伝える媒体と、職場マネジメントの必要性とも合致する。

このため、本事業の目的である、事故防止に向けて①現場職員にとって求められる媒体として、「寝る・食べる・水遊び」に特化した一枚紙の作成と、②現場でも活用できる実践的なトレーニング手法の1つとして、デスクトップリサーチにより手法を明らかとした KYT の周知をセミナーで行うこととし、フィードバックを得て啓発資材の改良につなげた。

KYT は、参加者全員がリスクの原因を洗い出し、その中で一番大事なポイントを考え、「私ならどうする」と発言する機会を設け、「私たちチームはこうする」という確認をするプロセスを経るものである。こどもに関わる職員は、役職や勤務形態等に関わらず、一定の責任が求められるところ、KYT のようなトレーニングを行うことで、役職や勤務形態等を問わず、一人一人が事故予防について考え、発言する機会が増えるとともに、他職員と話しやすい雰囲気づくりにもなる。繰り返し KYT を実施することで、職員の事故予防に関する意識やリスクに関する理解・実行の程度が標準化されていき、結果としてガイドライン等の内容の浸透にもつながると期待される。

今回のセミナーで行った KYT ではイラストを用いたが、例えば、日々の現場においてヒヤリハット報告書が出てきた時にヒヤリハットの内容を題材に KYT を実施し、リスクマネジメント委員会や主任職員・園長等に報告してフィードバックしていくという循環を作ることも有効と考えられる。

(2) 調査設計上の課題

① アンケート調査対象の網羅性

今回の職員アンケート調査及びセミナーの周知は、自治体及び日本保育協会を経由して行った。この点、回答・参加をしたのは、行政や関係団体からの周知をよく読み、事故予防に対して普段から意識が高い層である可能性がある。また、事業検討委員会委員より、毎年度公表される「教育・保育施設等における事故報告集計」における報告件数自体も同様であるが、幼稚園からの回答数が少ないように感じるとの意見があった。今回の調査・セミナーに回答・参加していない層にどのようにアプローチすべきかについて、引き続き検討が必要である。

② セミナー開催方法の妥当性

当初、対面参加 50 名程度、オンライン参加 500 名程度を見込んでいたが、想定以上に多くの方からお申込みをいただいた。この点、接続・画面・音声が不安定となるオンライン参加者もみられ、事務局も対応・アナウンスに不足する点があった。対面参加のみの開催とする、または、オンライン参加でも、参加人数に上限を設けるなど予め指定した上で、オンライン参加者でもワークに参加できるようブレイクアウトルームを設けるなど、開催方法には引き続き検討が必要である。

5. まとめ

(1) 本事業の成果

① アンケート調査対象の網羅性現場職員の意見の吸上げ

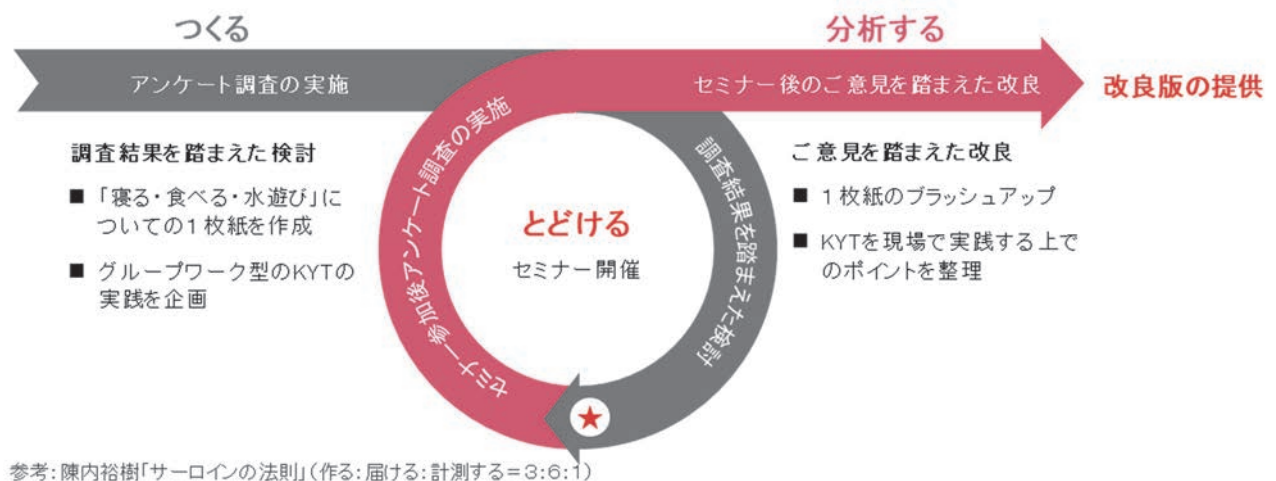
本事業では、「なるべく現場職員のご意見を吸い上げる」ことを主眼に置いた。

職員アンケート調査では、「普段こどもと直接接している現場職員の実態を把握する」という趣旨を考慮し、施設長等の管理職を除く教育・保育施設等の職員を対象として実施したが、約4万件を超える回答が集まった。多くの職員の声をいただくことができたとともに、アンケート調査を実施したこと自体、改めて現場職員にガイドライン等の存在を認知いただける機会になったと考える。

当該調査結果として、教育・保育の現場において、どのような要素が事故防止策の実行を促しているか、また、どのような媒体や取組が効果的と考えられているかを知ることができ、啓発資材の作成や、セミナーにおけるKYTの紹介につながった。

啓発資材の作成に当たっては、年度末までに作成して年度明けに事務連絡で案内して終わりではなく、作成過程のものを事業途中に開催したセミナーでご紹介し、参加後アンケート調査でフィードバックを得ることで、作成過程においても現場職員の意見を取り入れ、ブラッシュアップすることができた。

図表 132 「つくる、とどける、分析する」の流れ



② 啓発資材と啓発方策の両輪

事業検討委員会において、①ガイドライン自体の改良とともに、②ガイドライン等の内容を現場職員に実行してもらうための効果的な啓発方策の必要性が指摘された。ガイドライン自体を改良しても、現場職員に実行してもらわなければ事故予防にはつながらない。本事業では、運営上の課題は反省点として挙げられるが、事故防止に向けた啓発資材のみならず、その内容を実行に移すためのトレーニング手法を両輪で紹介した。

啓発資材は、職員アンケート調査結果を踏まえ、特に重大事故につながりやすい「寝る・食べる・水遊び」及び「応急処置」の場面に焦点を当て、ガイドラインやその他の事務連絡、Web ページ等に分散していた留意事項をまとめ、それが求められる理由まで記載し、イラストを交え裏表一枚に記載することで、短時間でも要領を掴みやすいものを作成した。

啓発方策は、今回はデスクトップリサーチや職員アンケート調査結果を基に、KYTに焦点を当て、そのトレーニング手法をセミナーにおいて紹介することで、現場職員に危険予知能力の向上を促すとともに、特に職場のマネジメントに当たる層にとって、職場において事故予防に向けたトレーニングの1つとして取り入れるための参考情報を提供した。

（２）今後に向けた課題

① 啓発資材の効果検証とそれを踏まえた更新の検討

本事業の成果として、啓発資材の作成に当たり、作成過程においても現場職員の意見を取り入れ、ブラッシュアップすることができた点を指摘したが、こうした改良に継続的に取り組んでいくことが、ガイドライン等の「浸透」に向けて重要であると考ええる。

また、今回は、職員アンケート調査において最も多くの要望を集めた「『寝る・食べる・水遊び』に特化した一枚紙」と「KYT」に焦点を当てて作成・実施したが、「事故全般について図解したハンドブック」等も回答を多く集めており、「寝る・食べる・水遊び」以外のテーマについて拡大していくことなども検討事項として想定される。

本事業で作成した啓発資材が、どの程度現場職員に広まり、どの程度活用されたのかについて、次年度以降検証し、検証の結果を踏まえ、更新の要否について検討する必要があると考ええる。

② 職場マネジメント手法の平準化の検討

事業検討委員会委員より、保育士等キャリアアップ研修において、「保健衛生・安全対策」に係る研修は必修化されていないため、当該研修の必修化を検討した上で、必修化するのであれば、研修内容も慎重に議論するべきであり、KYTなどのプログラムを組み込むと参考になるのではないかと指摘を受けた。

調査研究で紹介した KYT などのトレーニング手法を浸透させるために、開催手法については今回の反省点を踏まえ引き続き検証と改善を重ねながら、自治体などの研修内容に組み入れることや、より広域的に地域別ブロック研修を行うことなどを検討する必要があると考ええる。

③ ガイドライン浸透に向けた自治体の役割

自治体においては、教育・保育施設等への監査や巡回指導に当たり、補助的な役割の職員等を含むすべての職員が事故予防策を実行できるよう声掛けをしていると思われる。その中で、教育・保育施設等の中でどのような研修が実施されているか確認した上で、補助的な役割の職員等を含むすべての職員が研修に参加できるよう助言することが望ましいと考える。自治体が設定する研修として、例えば、幼稚園と保育所の合同研修など、教育・保育施設等の中で合同研修を実施することで、教育・保育に関わるすべての職員に広く学習機会を提供することも考えられる。

付録 1 職員アンケート調査票

教育・保育施設等の事故予防・事故対応アンケート調査

調査の趣旨・回答に関するお願い

この調査は、教育・保育の現場職員の皆様に、事故防止や事故発生時の対応に向けたガイドライン等をご活用いただくために、効果的な取組を分析することを目的として実施します。日頃、こどもの安全・安心に向けてご尽力いただいている現場職員の皆様が、事故防止や事故発生時の対応に向けたガイドライン等を感じているご意見について、是非率直なお声をお聞かせください。お忙しい中でのご協力に感謝申し上げます。

●ご回答者様についての留意事項

1. 施設1回答ではなく、職員の皆様お一人お一人にご回答いただきたいと思います。
2. 調査の趣旨を踏まえ、なるべく教育・保育の現場で、こどもと、直接、接している職員の皆様にご回答ください。

●ご回答に当たっての留意事項

1. 調査へのご協力は任意であり、途中で中断することもできます。
2. ご回答データは調査研究の目的のみに使用します。
3. ご回答の内容がお勤め先に伝わることはありません。
4. 匿名にて集計し、集計・分析結果は事業報告書としてとりまとめ、調査実施者であるPwCコンサルティング合同会社のWebサイト上に公表します。ご回答者様の許可なく個人名、施設名等が公開されることはありません。
5. 本調査の目的や内容、回答データの取扱い、回答方法等についてご不明な点などがありましたら、PwCコンサルティング合同会社公共事業部（XXXXXXXXXX）までお問い合わせください。

1. あなたの年齢をお答えください。

1. 18-19 歲
2. 20-29 歲
3. 30-39 歲
4. 40-49 歲
5. 50-59 歲
6. 60-69 歲
7. 70 歲以上

2. あなたの勤務先の所在地をお答えください。(都道府県)

3. あなたが働いている施設・事業をお答えください。※複数の施設・事業で働いている場合は、年間の就業時間が最も長い勤務先を1つ選択してください。

1. 認定こども園
2. 幼稚園
3. 認可保育所
4. 小規模保育事業
5. 家庭的保育事業
6. 居宅訪問型保育事業
7. 事業所内保育事業（認可）
8. 一時預かり事業
9. 病児保育事業
10. 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）
11. 子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ）
12. 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）
13. 企業主導型保育施設

14. 地方単独保育施設
 15. その他の認可外保育施設
 16. 認可外の居宅訪問型保育事業
 17. わからない
 18. その他
4. あなたの職種をお答えください。
1. 保育士
 2. 保育補助者
 3. 保育教諭
 4. 幼稚園教諭
 5. 栄養士・調理員
 6. 嘱託医・看護師
 7. その他
5. あなたの役職として最も当てはまるものをお答えください。
1. 施設長・園長・管理者
 2. 副園長・教頭
 3. 主任
 4. 副主任・中核リーダー・専門リーダー
 5. 若手リーダー・職務分野別リーダー
 6. 役職についていない
 7. その他
6. あなたの勤務形態をお答えください。
1. 常勤職員
 2. 非常勤職員
 3. その他
7. こどもの事故防止対策や、事故が発生した時の対応について、あなたが知っているガイドラインやマニュアル等をすべてお答えください。
1. 教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン（内閣府）※現在はこども家庭庁
 2. 子どもを事故から守る！事故防止ハンドブック（消費者庁）
 3. 家庭的保育の安全ガイドライン（NPO 法人家庭的保育全国連絡協議会）
 4. プール活動・水遊び監視のポイント（消費者安全調査委員会）
 5. ～食品による窒息 子どもを守るためにできること～（公益社団法人日本小児科学会 HP）
 6. 保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（厚生労働省）
 7. 幼稚園・保育所等の事故防止パンフレット なくそう！保育中の事故（JSC）
 8. 保育職員のための学びのツール（令和3年度子ども・子育て支援調査研究事業）
 9. こどものバス送迎・安全徹底マニュアル（内閣府など）
 10. 保育所等の園外活動時等における園児の見落とし等の発生防止に向けた取組の徹底について（内閣府等事務連絡）
 11. その他の国の通知・事務連絡（例：「教育・保育施設等における睡眠中及び食事中の事故防止に向けた取組の徹底について」（事務連絡））
 12. 自治体独自の事故防止関係資料（例：マニュアル、ハンドブック、リーフレット等）
 13. 勤務先独自の事故防止関係資料（例：マニュアル、ハンドブック、リーフレット等）
 14. ガイドラインやマニュアル等を知らない
 15. その他

8. こどもの事故防止対策や、事故が発生した時の対応について、あなたが読んだことのあるガイドラインやマニュアル等をすべてお答えください。
- ※問7と同様の選択肢
9. 問7・8知っていると答えいただいたものは、何で知りましたか。あてはまるものをすべてお答えください。
1. 資格試験の教材
 2. 勤務先や自治体等で実施された研修
 3. 自治体から勤務先への通知・事務連絡
 4. 勤務先からの案内（自治体から勤務先への通知・事務連絡を除く）
 5. 国（内閣府やこども家庭庁、消費者庁など）の Web サイト
 6. 自治体の Web サイト
 7. 知らない・読んだことはない
 8. その他
10. こどもの事故防止対策や、事故が発生したときの対応について、どの程度の頻度で振り返っていますか。最もあてはまるものをお答えください。※自己学習、職員研修、他職員等からの指導など、あらゆる機会での内容の振り返りを含め、お答えください。
1. 毎日・出勤のたびに確認している
 2. 週に3、4回程度
 3. 週に1、2回程度
 4. 月に1、2回程度
 5. 3か月に1、2回程度
 6. 半年に1、2回程度
 7. 1年に1、2回程度
 8. 一度読んだだけである・繰り返し読んでいない
 9. 読んだことはない
11. 特に重大事故が発生しやすい「睡眠中」の場面について、あなたが把握している事故防止対策をすべてお答えください。※栄養士・調理員、バス運転手等の方で、睡眠中の場面に従事しない方は、「7」の選択肢をお選びください。
1. こどもを仰向けに寝かせる（医学的な要因がある場合を除きうつぶせ寝にしない）
 2. こどもを一人にしない
 3. こどもの口の中に異物や嘔吐物がないか確認する
 4. こどもの呼吸・体位などを定期的に点検する
 5. こどもの周りにやわらかい布団やぬいぐるみ、ひも状のものなどを使用しない・置かない
 6. 預け始めの時期は、特に注意深く見守る
 7. 栄養士・調理員、バス運転手等のため睡眠中の場面に従事しない
 8. その他
12. 特に重大事故が発生しやすい「プール活動・水遊び」の場面について、あなたが把握している事故防止対策をすべてお答えください。※栄養士・調理員、バス運転手等の方で、プール活動・水遊びの場面に従事しない方は、「5」の選択肢をお選びください。
1. 監視担当者と指導担当者を分けて配置し、役割分担を明確にする・監視者は監視に専念する
 2. 監視者はプールサイドの外から、監視エリア全域をくまなく監視する
 3. 監視者は規則的に視線を動かしながら監視し、動かない・不自然な動きをしているこどもをみつける
 4. 時間的余裕をもってプール活動を行う
 5. 栄養士・調理員、バス運転手等のためプール活動・水遊びの場面に従事しない
 6. その他

13. 特に重大事故が発生しやすい「食事中」の場面について、あなたが把握している事故防止対策をすべてお答えください。※バス運転手等の方で、食事中の場面に従事しない方は、「9」の選択肢をお選びください。
1. ゆっくり落ち着いて食べられるようこどもの意志にあったタイミングで与える
 2. こどもの口にあった量で与える・一回で多くの量を詰めすぎない
 3. 食べ物を飲み込んだことを確認する・口の中に残っていないか注意する
 4. 汁物などの水分を適切に与える
 5. 食事の提供中に驚かせない
 6. 食事中に眠くなっていないか、正しく座っているか注意する
 7. ミニトマト（プチトマト）や乾いたナッツ、豆類、白玉団子などは給食で使用しない
 8. りんごなどは完了期までは過熱して提供する
 9. バス運転手等のため食事中の場面に従事しない
 10. その他
14. あなたが睡眠中、プール活動・水遊び、食事中の場面を含む、こどもの事故防止対策や、事故発生時の対応全般について理解するために役立ったことをすべてお答えください。
1. 国のガイドライン等のデザインが読みやすい
 2. 国のガイドライン等の内容がわかりやすい
 3. 国のガイドライン等の発信方法や頻度が適切である
 4. 自治体独自のガイドライン等のデザインが読みやすい
 5. 自治体独自のガイドライン等の内容がわかりやすい
 6. 自治体独自のガイドライン等の発信方法や頻度が適切である
 7. 勤務先独自のマニュアル等のデザインが読みやすい
 8. 勤務先独自のマニュアル等の内容がわかりやすい
 9. 勤務先独自のマニュアル等の発信方法や頻度が適切である
 10. 自治体や団体で実施された研修がわかりやすい
 11. 勤務先で実施された研修がわかりやすい
 12. 勤務先で事故予防・事故対応を理解していることを評価される
 13. 勤務先で ICT 等が導入され業務負担が軽減されたので学習時間がとれる
 14. 勤務先その他職員や他施設等の職員からアドバイスをもらえる
 15. 自治体の巡回指導などの際にアドバイスをもらえる
 16. 役に立ったことはない
 17. その他
15. あなたが睡眠中、プール活動・水遊び、食事中の場面を含む、こどもの事故防止対策や、事故発生時の対応全般について理解できていないことがあれば、その理由となっていることをすべてお答えください。
1. 国のガイドライン等のデザインが読みにくい
 2. 国のガイドライン等の内容がわかりにくい
 3. 国のガイドライン等の発信方法や頻度が不適切である
 4. 自治体独自のガイドライン等のデザインが読みにくい
 5. 自治体独自のガイドライン等の内容がわかりにくい
 6. 自治体独自のガイドライン等の発信方法や頻度が不適切である
 7. 勤務先独自のマニュアル等のデザインが読みにくい
 8. 勤務先独自のマニュアル等の内容がわかりにくい
 9. 勤務先独自のマニュアル等の発信方法や頻度が不適切である
 10. 自治体や団体で実施された研修がわかりにくい
 11. 勤務先で実施された研修がわかりにくい
 12. 勤務先で事故予防・事故対応を理解していることを評価されない

13. 勤務先で ICT 等が導入され業務負担が軽減されたので学習時間がとれない
14. 勤務先の他職員や他施設等の職員からアドバイスをもらえない
15. 自治体の巡回指導などの際にアドバイスをもらえない
16. 特にない
17. その他

16. 特に重大事故が発生しやすい「睡眠中」の場面について、あなたが実際に行っている事故防止対策をすべてお答えください。※栄養士・調理員、バス運転手等の方で、睡眠中の場面に従事しない方は、「7」の選択肢をお選びください。

※問 11 と同様の選択肢

17. 特に重大事故が発生しやすい「プール活動・水遊び」の場面について、あなたが実際に行っている事故防止対策をすべてお答えください。※栄養士・調理員、バス運転手等の方で、プール活動・水遊びの場面に従事しない方は、「5」の選択肢をお選びください。

※問 12 と同様の選択肢

18. 特に重大事故が発生しやすい「食事中」の場面について、あなたが実際に行っている事故防止対策をすべてお答えください。※バス運転手等の方で、食事中の場面に従事しない方は、「9」の選択肢をお選びください。

※問 13 と同様の選択肢

19. あなたが睡眠中、プール活動・水遊び、食事中の場面を含む、こどもの事故防止対策や、事故発生時の対応全般について実際に行うために役立ったことをすべてお答えください。

1. 国のガイドライン等は実行する際のイメージがわかりやすい
2. 国のガイドライン等は現場で手軽に見返することができる
3. 自治体独自のガイドライン等は実行する際のイメージがわかりやすい
4. 自治体独自のガイドライン等は現場で手軽に見返することができる
5. 勤務先独自のマニュアル等は実行する際のイメージがわかりやすい
6. 勤務先独自のマニュアル等は現場で手軽に見返することができる
7. 自治体や団体の研修は実行する際のイメージがわかりやすい
8. 勤務先の研修は実行する際のイメージがわかりやすい
9. 勤務先で ICT 等が導入され業務負担が軽減されたので事故予防・事故対応に時間を割ける
10. 勤務先で事故予防・事故対応を実行していることを評価される
11. 勤務先で事故予防・事故対応に係る実効的な役割分担が事前に決められている
12. 勤務先でヒヤリハット案件が起きると職員間で共有するなど、事故予防・事故対応を実行しようという雰囲気がある
13. 勤務先で事故予防・事故対応の内容を実行できているか、定期的に確認される
14. 自治体の巡回指導などで課題が指摘されると改善に向けて対応する
15. 役に立ったことはない
16. その他

20. あなたが睡眠中、プール活動・水遊び、食事中の場面を含む、こどもの事故防止対策や、事故発生時の対応全般について実行できていないことがあれば、その理由となっていることをすべてお答えください。

1. 国のガイドライン等は実行する際のイメージがわかりにくい
2. 国のガイドライン等は現場で手軽に見返することができない
3. 自治体独自のガイドライン等は実行する際のイメージがわかりにくい
4. 自治体独自のガイドライン等は現場で手軽に見返することができない
5. 勤務先独自のマニュアル等は実行する際のイメージがわかりにくい
6. 勤務先独自のマニュアル等は現場で手軽に見返することができない

7. 自治体や団体の研修は実行する際のイメージがわきにくい
 8. 勤務先の研修は実行する際のイメージがわきにくい
 9. 勤務先で ICT 等が導入され業務負担が軽減されたので事故予防・事故対応に時間を割けない
 10. 勤務先で事故予防・事故対応を実行していることを評価されない
 11. 勤務先で事故予防・事故対応に係る実効的な役割分担が事前に決められていない
 12. 勤務先でヒヤリハット案件が起きると職員間で共有するなど、事故予防・事故対応を実行しようという雰囲気がない
 13. 勤務先で事故予防・事故対応の内容を実行できているか、定期的に確認されない
 14. 自治体の巡回指導などで課題が指摘されると改善に向けて対応しない
 15. 特にない
 16. その他
21. ガイドライン等の内容を理解・実行するために、何があると効果的だと思いますか。最もあてはまるものを3つお答えください。
1. 「食べる・寝る・水遊び」など特に死亡に至りやすい事故について見返しやすいよう1枚でわかりやすく予防策をまとめたもの：紙媒体
 2. 「食べる・寝る・水遊び」など特に死亡に至りやすい事故について見返しやすいよう1枚でわかりやすく予防策をまとめたもの：電子媒体
 3. 事故予防・事故対応全般についてイラストや写真を用いて図解したハンドブック：紙媒体
 4. 事故予防・事故対応全般についてイラストや写真を用いて図解したハンドブック：電子媒体
 5. 事故予防・事故対応を学習できる e-learning 教材：講義聴講
 6. 事故予防・事故対応を学習できる e-learning 教材：学習アプリ
 7. 事故予防・事故対応を学習できる e-learning 教材：事故類型ごとの1,2分の解説動画
 8. クラス内で子どもと一緒に事故予防について学習できる教材
 9. 最新の知見を反映させる、他の通知等の内容とまとめるなどして、わかりやすく改良されたガイドライン等
 10. その他
22. ガイドライン等の内容を理解・実行するために、どのような取組が効果的だと思いますか。最もあてはまるものを3つお答えください。
1. グループワークを実施する
 2. KYT（危険予知トレーニング）を実施する
 3. インシデント分析を実施する
 4. その他、実践的な研修や訓練を実施する
 5. 毎日の送迎、食事や季節などにあわせ、特有の事故対策を発信する
 6. 職員用アプリで事務連絡を発信し、確認したかどうかまでチェックする
 7. ICT や安全装置の導入により事故予防に注力できる環境を整備する
 8. チャットボット等を通じて専門家に質問できる相談窓口を設置する
 9. 資格試験時の事故予防・事故対応の内容を充実させる
 10. リーダーへの昇格等の要件に事故予防・事故対応の理解度を加える
 11. 理解度チェックを設け、結果が繰り返し低い場合は悪い評価を与える
 12. その他
23. ご回答の内容によって、今後事業報告書やセミナー等で好事例としてご紹介してもよいか、ご連絡を差し上げる可能性があります。ご連絡の可否をお答えください。
1. 連絡をもらっても構わない
 2. 連絡は控えてほしい

付録2 セミナーリーフレット

こども家庭庁令和5年度子ども・子育て支援調査研究事業

教育・保育事故の予防に向けたセミナー



この度、こども家庭庁令和5年度子ども・子育て支援調査研究事業の一環として、「教育・保育事故の予防に向けたセミナー」を開催します。

セミナーでは、教育・保育現場における事故予防に向けた対応の実効性向上を目的として実施します。事故当事者の方(ご遺族)や、事故予防の実践に取り組まれる現場職員の方、保育分野の有識者の方にご講演いただくとともに、特に重大事故が発生しやすい「たべる」の場面に焦点を当てた、事故予防策の実践に向けた研修(危険予知トレーニング: KYT)を行います。

本セミナーを通じて、事故予防策の実践に向けた訓練手法を知っていただき、現場で活かしていただけますと幸いです。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

開催概要

日時	2024年1月19日(金)		13:00～15:00(12:30受付開始)	
会場	①対面(下記参照)、②オンライン(Teams)のハイブリッド開催 ＜現地会場＞ 〒100-0004東京都千代田区大手町1-1-1 大手町パークビルディング15F ＜アクセス＞ https://www.pwc.com/jp/ja/about-us/office/tokyo-otemachi.html 東京メトロ東西線・千代田線・半蔵門線・丸ノ内線、都営地下鉄三田線「大手町駅」(C6a出口直結) JR「東京駅」(丸ノ内北口より徒歩約10分)			
対象	教育・保育施設等の職員(職種不問)及び自治体職員			
定員数	①対面: 50名(先着順)、②オンライン: 定員なし			
参加費	無料			
お申込み	下記申込みフォームよりお申し込みをお願いします。 ※対面参加の場合、参加人数が上限に達した時点で、申込期限を待たずに受付を締め切らせていただきます。 ※対面参加の場合、オンライン会議画面にお姿が投影される可能性があります。予めご了承ください。			
	①対面参加用 【申込み期限: 1/12(金)まで】		②オンライン参加用 【申込み期限: 1/18(木)まで】	
お問い合わせ	PwCコンサルティング合同会社 セミナー事務局			

プログラム

時間	セッションタイトル	講演者
13:00～13:10	開会あいさつ	こども家庭庁成育局安全対策課
13:10～13:25	こどもの事故の事例紹介: ご遺族の立場から 講演	碧南市認可保育所死亡事故 被害児童の親 栗並 えみ氏
13:25～13:40	こどもの事故を防ぐための取組紹介 講演	バビリーナ久我山保育園園長 堀 明日香氏
13:40～13:50	参加者間の自己紹介・アイスブレイク ※対面参加者のみ。オンライン参加者は休憩時間となります。	-
13:50～14:30	KYTグループワーク 研修 ※オンライン参加者は対面参加者のワークを観察いただきます。	大阪公立大学名誉教授 関川 芳孝氏
14:30～14:45	講評・Q&Aセッション	関川氏、栗並氏、堀氏
14:45～15:00	研修使用教材についての解説とご案内	PwCコンサルティング合同会社

※プログラム内容、講演者については変更となる場合がございます。予めご了承ください。

本セミナーは、こども家庭庁から国庫補助内示を受けたPwCコンサルティング合同会社が、令和5年度子ども・子育て支援調査研究事業「教育・保育施設等における『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』等の効果的な周知方策についての調査研究事業」の一環として実施します。

<個人情報の取り扱いについて>

お申し込みの際にご記入いただきました個人情報は、PwC Japanグループの個人情報保護方針に従い適切に管理いたします。詳細の取り扱いについては、以下のウェブサイトをご覧ください。

<https://www.pwc.com/jp/ja/sitemap/privacy.html>

© 2023 PwC. All rights reserved.

PwC refers to the PwC network member firms and/or their specified subsidiaries in Japan, and may sometimes refer to the PwC network. Each of such firms and subsidiaries is a separate legal entity. Please see www.pwc.com/structure for further details.



付録3 セミナー申込み票

教育・保育現場での事故予防に向けたセミナー参加申込みフォーム

セミナー参加お申込みについて

この度はお申込みをいただき誠にありがとうございます。

当該セミナーは、教育・保育現場における事故予防に向けた対応の実効性向上を目的として実施します。事故当事者の方（ご遺族）や、事故予防の実践に取り組まれる現場職員の方、保育分野の有識者の方にご登壇いただき、ご講演いただくとともに、特に重大事故が発生しやすい「たべる」の場面に焦点を当てた、事故予防策の実践に向けた研修（危険予知トレーニング：KYT）を行います。

●お申込みに際しての留意事項

1. 申込みフォームにはオンライン参加用と、対面参加用がございます。こちらは【オンライン参加用／対面参加用】ですので、お間違えのないようご注意ください。
2. 対面参加者は、オンライン会議画面にお姿が投影される可能性が想定されますので、予めご理解いただいてからお申し込みください。
3. 申込みフォームの送信は、一度限りでお願いします。
4. 申込みフォームを送信すると、入力内容の修正はできません。送信前に入力内容をよくご確認くださいの上で、お申し込みください。
5. ご入力いただいたメールアドレスに、セミナーへの招待メールを送信いたします。[]から送信いたしますので、迷惑メール対策をされている場合は受信設定をご確認ください。

本調査の目的や内容、回答データの取扱い、回答方法等についてご不明な点などがありましたら、PwC コンサルティング合同会社公共事業部 セミナー事務局（[]）までお問い合わせください。

※本セミナーは、こども家庭庁から国庫補助内示を受けた PwC コンサルティング合同会社が、令和5年度子ども・子育て支援調査研究事業「教育・保育施設等における『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』等の効果的な周知方策についての調査研究事業」の一環として実施します。

1. 氏名（漢字）
2. 氏名（カナ）
3. メールアドレス
4. 電話番号※ハイフンなしでご記載ください。
5. 年齢
 1. 18-19 歳
 2. 20-29 歳
 3. 30-39 歳
 4. 40-49 歳
 5. 50-59 歳
 6. 60-69 歳
 7. 70 歳以上
6. 会場までの移動時間※対面参加者のみ
 1. ～30 分程度
 2. 30 分超～1 時間程度
 3. 1 時間超～2 時間程度
 4. 2 時間超

7. 職業

1. 教育・保育施設等の職員
2. 自治体職員

問7で「教育・保育施設等の職員」を選択された方（問8～15）

8. あなたが働いている施設・事業をお答えください。

※複数の施設・事業で働いている場合は、年間の就業時間が最も長い勤務先を1つ選択してください。

※「学童」の場合は「放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)」を選択するなど、なるべく正式な施設・事業名でご回答ください。

※例えば、児童養護施設にお勤めで、「子育て短期支援事業」に従事される場合は「子育て短期支援事業」を選択するなど、選択肢中に記載のある施設・事業を起点にご回答ください。

1. 認定こども園
2. 幼稚園
3. 認可保育所
4. 小規模保育事業
5. 家庭的保育事業
6. 居宅訪問型保育事業
7. 事業所内保育事業（認可）
8. 一時預かり事業
9. 病児保育事業
10. 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）
11. 子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ）
12. 放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)
13. 企業主導型保育施設
14. 地方単独保育施設
15. その他の認可外保育施設
16. 認可外の居宅訪問型保育事業
17. わからない
18. その他

9. （施設・事業を「その他」と回答された方）具体的な施設・事業名をお答えください。

10. あなたの職種をお答えください。

1. 保育士
2. 保育補助者
3. 保育教諭
4. 幼稚園教諭
5. 栄養士・調理員
6. 嘱託医・看護師
7. バス運転手
8. その他

11. （職種を「その他」と回答された方）具体的な職種名をお答えください。

12. あなたの役職をお答えください。

1. 施設長・園長・管理者
2. 副園長・教頭
3. 主任
4. 副主任・中核リーダー・専門リーダー
5. 若手リーダー・職務分野別リーダー
6. 役職についていない

7. その他

13. (役職を「その他」と回答された方) 具体的な役職名をお答えください。
14. あなたの勤務形態をお答えください。※例えば、「パートタイム職員」の方でも、「フルタイム」の方は「常勤職員」、「短時間」の方は「非常勤職員」を選択いただくなど、実態に即してご回答ください。
1. 常勤職員
 2. 非常勤職員
 3. その他
15. (勤務形態を「その他」と回答された方) 具体的な勤務形態をお答えください。

問7で「自治体職員」を選択された方(問16)

16. あなたの所属する自治体区分をお答えください。
1. 都道府県
 2. 指定都市・中核市
 3. 市区町村
17. セミナーを知ったルートをお答えください。
1. こども家庭庁から自治体への事務連絡
 2. 自治体から教育・保育施設等へのご案内
 3. 保育団体から教育・保育施設等へのご案内
 4. 知人からの紹介
 5. その他
18. (セミナーを知ったルートを「その他」と回答された方) 具体的なルートをお答えください。
19. セミナーで特に関心のあるプログラムをお答えください。
1. 【講演】 こどもの事故の事例紹介：ご遺族の立場から
 2. 【講演】 こどもの事故を防ぐための取組紹介
 3. 【研修】 KYT グループワーク
 4. 【解説】 研修使用教材についての解説
20. ご参加に当たり、今回のセミナーで期待する効果をお答えください。
1. 事故によりこどもを亡くされたご遺族の思いを知る
 2. こどもの事故防止や事故発生時の対応について他施設・事業における取組を知る
 3. こどもの事故防止や事故発生時の対応について有識者の知見を得る
 4. こどもの事故防止や事故発生時の対応について現場で実践しやすくなるための研修を受ける
 5. こどもの事故防止や事故発生時の対応について勤務先で行う研修等の参考とする
 6. その他
21. (本セミナーで期待する効果を「その他」と回答された方) 具体的に期待する効果をお答えください。
22. 【個人情報の取扱いに関する同意】以下の個人情報の取扱いについてご確認の上、同意いただける場合は「同意します」を選択してください。

PwC コンサルティング合同会社(以下「当社」といいます。)は、お客様の個人情報を適切に保護することの重要性を認識し、その取扱いについて注意を払っております。当社へご提供いただいたお客様の個人情報は、以下の内容および当社の個人情報保護方針(<https://www.pwc.com/jp/ja/sitemap/privacy/consulting.html>)に従って適切に保護します。

1. 個人情報の利用目的

当社は、お客様から収集した個人情報について、以下の目的のために利用いたします。

- セミナー運営をはじめとする「教育・保育施設等における『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』等の効果的な周知方策についての調査研究事業」の実施のため
- お客様からのご相談およびお問い合わせへの回答のため
- 上記のほか、当社の個人情報保護方針に記載する利用目的

2. 個人情報の第三者提供

当社は、「教育・保育施設等における『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』等の効果的な周知方策についての調査研究事業」に係る情報提供のため、以下の内容に従い第三者にお客様の個人情報を提供する場合があります。

- 個人情報を提供する第三者：こども家庭庁、事業検討委員会委員
- 提供する個人情報：職種、役職、勤務形態、セミナーを知ったルート、セミナーで特に関心のあるプログラム、セミナーに期待する効果

上記内容に問題がなければ、以下「個人情報の取扱いに同意します」にチェックを入れてください。

☐ 個人情報の取扱いに同意します

付録4 セミナー参加後アンケート調査票

【教育・保育現場での事故予防に向けたセミナー】参加後アンケート

参加後アンケートのお願い

この度はセミナーにご参加くださり、誠にありがとうございました。今後の参考にさせていただくために、皆様のセミナーに対する、ご感想・ご意見をお聞かせいただけますと幸いです。

●参加後アンケートについての留意事項

1. アンケートの送信は、一度限りでお願いします。
2. アンケートを送信すると、入力内容の修正はできません。送信前に入力内容をよくご確認くださいの上で、送信ください。

本調査の目的や内容、回答データの取扱い、回答方法等についてご不明な点などがありましたら、PwC コンサルティング合同会社公共事業部 セミナー事務局（XXXXXXXXXX）までお問い合わせください。

1. 年齢

1. 18-19 歳
2. 20-29 歳
3. 30-39 歳
4. 40-49 歳
5. 50-59 歳
6. 60-69 歳
7. 70 歳以上

2. 職業

1. 教育・保育施設等の職員
2. 自治体職員

問2で「教育・保育施設等の職員」を選択された方（問3～10）

3. あなたが働いている施設・事業をお答えください。

※複数の施設・事業で働いている場合は、年間の就業時間が最も長い勤務先を1つ選択してください。

※「学童」の場合は「放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)」を選択するなど、なるべく正式な施設・事業名でご回答ください。

※例えば、児童養護施設にお勤めで、「子育て短期支援事業」に従事される場合は「子育て短期支援事業」を選択するなど、選択肢中に記載のある施設・事業を起点にご回答ください。

1. 認定こども園
2. 幼稚園
3. 認可保育所
4. 小規模保育事業
5. 家庭的保育事業
6. 居宅訪問型保育事業
7. 事業所内保育事業（認可）
8. 一時預かり事業
9. 病児保育事業
10. 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）
11. 子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ）
12. 放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)
13. 企業主導型保育施設
14. 地方単独保育施設

15. その他の認可外保育施設
16. 認可外の居宅訪問型保育事業
17. わからない
18. その他

4. (施設・事業を「その他」と回答された方) 具体的な施設・事業名をお答えください。

5. あなたの職種をお答えください。

1. 保育士
2. 保育補助者
3. 保育教諭
4. 幼稚園教諭
5. 栄養士・調理員
6. 嘱託医・看護師
7. バス運転手
8. その他

6. (職種を「その他」と回答された方) 具体的な職種名をお答えください。

7. あなたの役職をお答えください。

1. 施設長・園長・管理者
2. 副園長・教頭
3. 主任
4. 副主任・中核リーダー・専門リーダー
5. 若手リーダー・職務分野別リーダー
6. 役職についていない
7. その他

8. (役職を「その他」と回答された方) 具体的な役職名をお答えください。

9. あなたの勤務形態をお答えください。※例えば、「パートタイム職員」の方でも、「フルタイム」の方は「常勤職員」、「短時間」の方は「非常勤職員」を選択いただくなど、実態に即してご回答ください。

1. 常勤職員
2. 非常勤職員
3. その他

10. (勤務形態を「その他」と回答された方) 具体的な勤務形態をお答えください。

問2で「自治体職員」を選択された方(問11)

11. あなたの所属する自治体区分をお答えください。

1. 都道府県
2. 指定都市・中核市
3. 市区町村

12. セミナーへの参加形式についてお答えください。

1. 対面参加
2. オンライン参加

13. セミナーへの参加動機についてお答えください。

1. 事故により子どもを亡くされたご遺族の思いを知る
 2. こどもの事故防止や事故発生時の対応について他施設・事業における取組を知る
 3. こどもの事故防止や事故発生時の対応について有識者の知見を得る
 4. こどもの事故防止や事故発生時の対応について現場で実践しやすくなるための研修を受ける
 5. こどもの事故防止や事故発生時の対応について勤務先で行う研修等の参考とする
 6. その他
14. (セミナーへの参加動機を「その他」と回答された方) セミナーへの参加動機をお答えください。
15. セミナーへの満足度についてお答えください。※各プログラムの満足度を5件法(満足している・やや満足している・どちらともいえない・あまり満足していない・満足していない)で尋ねる
1. 【講演】 こどもの事故の事例紹介: ご遺族の立場から
 2. 【講演】 こどもの事故を防ぐための取組紹介
 3. 【研修】 KYT グループワーク
 4. 【解説】 研修使用教材についての解説
16. (1つ以上「満足している」「やや満足している」と回答された方) 回答についての理由をお答えください。
1. 事故により子どもを亡くされたご遺族の思いを知ることができた
 2. こどもの事故防止や事故発生時の対応について他施設・事業における取組を知ることができた
 3. こどもの事故防止や事故発生時の対応について有識者の知見を得ることができた
 4. こどもの事故防止や事故発生時の対応について現場で実践しやすくなるための研修であった
 5. こどもの事故防止や事故発生時の対応について勤務先で行う研修等の参考となった
 6. その他
17. (「満足している」「やや満足している」の理由を「その他」と回答された方) 回答についての具体的な理由をお答えください。
18. (1つ以上「どちらともいえない」「あまり満足していない」「満足していない」と回答された方) 回答について、理由をお答えください。
1. 事故により子どもを亡くされたご遺族の思いをあまり知ることができなかった
 2. こどもの事故防止や事故発生時の対応についてあまり他施設・事業における取組を知ることができなかった
 3. こどもの事故防止や事故発生時の対応についてあまり有識者の知見を得ることができなかった
 4. こどもの事故防止や事故発生時の対応についてあまり現場で実践しやすくなるための研修ではなかった
 5. こどもの事故防止や事故発生時の対応についてあまり勤務先で行う研修等の参考とすることができなかった
 6. その他
19. (「どちらともいえない」「あまり満足していない」「満足していない」の理由を「その他」と回答された方) 回答についての具体的な理由をお答えください。
20. 本セミナーでご紹介した教材(こどもの重大な事故を防ぐためのポイント)について、良かった点を教えてください。
1. 特に重大事故につながりやすい「ねる・たべる・みずあそび」の場面について、やるべきこと・やってはいけないことの内容がわかりやすい
 2. 特に重大事故につながりやすい「ねる・たべる・みずあそび」の場面について、事故予防のためにやるべきこと・やってはいけないことの理由がわかりやすい
 3. デザインが読みやすい

4. 見返したり、持ち運んだりしやすい
5. その他

21. (教材の良かった点を「その他」と回答された方) 具体的に良かった点をお答えください。
22. 本セミナーでご紹介した教材(こどもの重大な事故を防ぐためのポイント)について、改善してほしい点があれば、教えてください。※自由記載
23. 本セミナーのプログラムや進行について、良かった点を教えてください。
 1. 教材(こどもの重大な事故を防ぐためのポイント)を用いて研修が行われたため、教材の内容をより理解しやすくなった
 2. グループワークにより事故予防の実践に向けて具体的なイメージができた
 3. 紹介された KYT の手法は自分の勤務先でも研修・訓練として実施しやすい
 4. 時間がちょうどよい
 5. その他
24. (プログラムや進行の良かった点を「その他」と回答された方) 具体的に良かった点をお答えください。
25. 本セミナーで実施した KYT について、職場で実施する場合、どのくらいの時間が適切かお答えください。
 1. 1 時間
 2. 30 分
 3. 10 分
 4. その他
26. (職場における KYT の実施時間を「その他」と回答された方) 具体的な時間をお答えください。
27. 本セミナーのプログラムや進行について、改善してほしい点があれば、教えてください。※自由記載
28. その他、ご感想やご意見がありましたら、ご自由にご記入ください。※自由記載



本セミナーの対象・目的

教育・保育施設等の職員の方や、自治体職員の方に、①事故予防に向けたトレーニングを行うとともに、②トレーニングの方法論を学ぶ機会としていただきたいと思います。

	 教育・保育施設等の職員	 教育・保育施設等の職員 (リーダー以上の役職)	 自治体職員
① 事故予防に向けたトレーニングする	ガイドライン等で示されている留意点を再確認する 知識だけではなく、リスクを察知し、回避する能力を養う	ガイドライン等で示されている留意点を再確認する 知識だけではなく、リスクを察知し、回避する能力を養う	ガイドライン等で示されている留意点を再確認する
② トレーニングの方法論を学ぶ	危険予知トレーニングの手法を知る	危険予知トレーニングの手法を知る 園内研修等でも行えるよう、危険予知トレーニングの進め方を知る	危険予知トレーニングの手法を知る 研修や指導時の助言に使えるよう、危険予知トレーニングの進め方を知る

※「ガイドライン」は「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(こども家庭庁)を指す。以下同様。
PwC

プログラム

時間	セッションタイトル	講演者
13:00~13:10	開会あいさつ	こども家庭庁成育局安全対策課
13:10~13:25	こどもの事故の事例紹介:ご遺族の立場から	碧南市認可保育所死亡事故 被害児童の親 栗並 えみ氏
13:25~13:40	こどもの事故を防ぐための取組紹介	パピーナ久我山保育園園長 堀 明日香氏
13:40~13:50	参加者間の自己紹介・アイスブレイク ※対面参加者のみ。オンライン参加者は休憩時間となります。	—
13:50~14:30	KYTグループワーク ※オンライン参加者は対面参加者のワークを観察いただきます。	大阪公立大学名誉教授 関川 芳孝氏
14:30~14:45	講評・Q&Aセッション	関川氏、栗並氏、堀氏
14:45~15:00	研修使用教材についての解説とご案内	PwCコンサルティング合同会社

!!Attention!!



講演・研修内容のメモ取りは可能



スクリーンショット



SNSでの拡散

配布・投影資料の記録・参加者以外への共有は**禁止**

PwC

3

1

開会あいさつ

こども家庭庁成育局安全対策課

2

こどもの事故の事例 紹介：ご遺族の立場から

碧南市認可保育所死亡事故
被害児童の親 栗並 えみ氏

事故予防に向けたトレーニングの実施によせて

～保育所でわが子を亡くした経験から

2024年1月19日 教育・保育事故の予防に向けたセミナー
(こども家庭庁 令和5年度子ども・子育て支援調査研究事業)

栗並 えみ

はじめに

被害者遺族の立場から

・事故概要

日時：2010年10月29日(金) 午後3時半頃

場所：社会福祉法人立 認可保育所

氏名：栗並 寛也(くりなみ ひろや)1歳4か月

状況：おやつ(ラムネ・人形焼きのようなカステラ)の食事中に窒息し、意識不明となる。

⇒意識が回復しないまま、39日後に死亡。

・事故後、自ら保育士たちに聞き取りを行ったこと

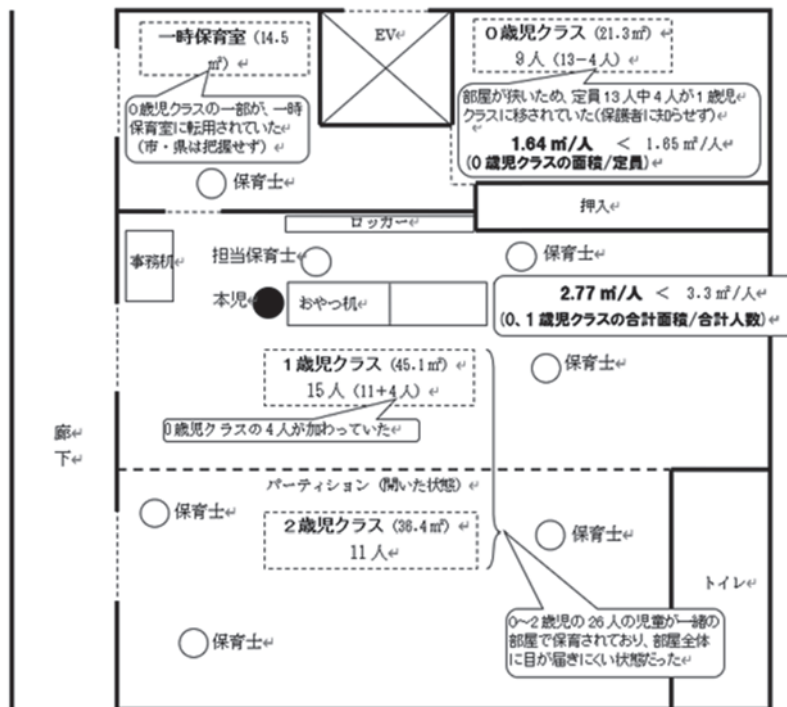
・被害者遺族の立場から、当該保育施設を見ていて感じたこと

- おやつの内容について
- 居室を移したことについて
- 担当保育士を見ていて感じたこと

おわりに

事故発生時の状況⁴⁾

- 10月より0歳児クラスの人数が急増(9→13人)し、本児を含む4人が居室を1歳児クラスに移されていた。⁴⁾
 - 国が定める「ほふくする0～1歳児に必要な面積基準」は3.3㎡/人だが、愛知県は1.65㎡/人でも良いとする独自解釈を行っており、その結果、多数の0歳児が受け入れられていた。⁴⁾
 - 0歳児クラスの一部が一時保育室に転用され、本来の面積よりも著しく狭くなっていた。⁴⁾
- 0～2歳児クラスの26人もの児童が一部屋で一緒に保育されており、部屋全体に目が届きにくい状態だった。⁴⁾
- 本児は他児より遅れて昼寝より目覚め、おやつを食べ始める。他児は食べ終えて、「2歳児クラス」の部屋で遊んでいた。「1歳児クラス」の部屋は本児のほか保育士3人がいた。⁴⁾
- ラムネやベビーカステラという水分の少ない菓子をそのままの大きさと与えられ、その間一度も飲み物を与えられていなかった。担当保育士が何度も席を離れるなど、食事の見守りが不十分だった。⁴⁾



第三者検証委員会による指摘

わが子の死亡事故についての検証報告書「碧南市『保育事故』第三者委員会報告書」(H25.2かしの木保育園死亡事故第三者委員会)から、本日の講演内容に関わる点を抜粋して掲載。

■おやつ選び方、提供の仕方について(報告書 p12 から抜粋)

「事故発生当時の園運営の状況としては、おやつ選定においては、明確な基準は無く、担当保育士が選んで発注していて、チェックする体制はとられていなかったことが確認できますが、このような園運営の状況に、おやつ的重要性(危険性も含めて)に関する園としての課題意識や問題意識の欠如が示されているといえます。」

「おやつをバイキングにした目的が明らかでなく、保育者の満足で実施された感があります。当日は、分量を決め保育者が盛り付けを行ったということですが、まだおやつを乳児の自主性に任せ自由に選択させる能力のある時期ではなく、保育者が選択して食べ方を教える時期と考えるべきでしょう。食べる機能の発達には個人差があり、その児の状態を考慮しての選択及び指導が必要と言えます。」

「委員会は、事故の背景的な要因のひとつとして、このような園運営の問題があったと考えます。」

■居室を移した際の対応について(報告書 p13 から抜粋)

「委員会は、乳幼児期の子どもにとって大きな環境の変化をとまなう保育形態の変更という問題の重大性についての、園長をはじめとする園関係者の認識の甘さを問題点として指摘しておきたいと思います。」

※票並にて、読点を1箇所付加

3

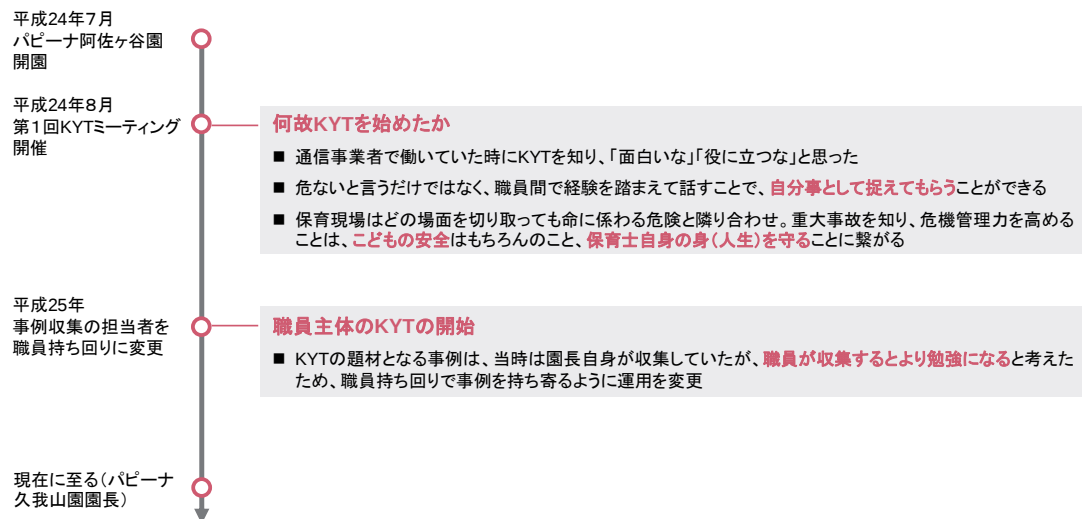
こどもの事故を防ぐための 取組紹介

パピーナ久我山保育園園長
堀 明日香氏

Agenda

1. KYTを始めた経緯
2. KYTの進め方
3. KYTで用いる事例
4. KYTを始めたことによる効果

KYTを始めた経緯



PwC

8

KYTの進め方

概要		KYTミーティングの流れ	
開催頻度	1か月に1回程度	準備	
開催のタイミング	職員会議	① 担当職員は、担当月の題材及び、話し合いたい要点を決めてレジュメを作成し、職員会議の3～5日前を目途に園長へ提出	
開催時間	5～10分	② 園長が職員会議のアジェンダに添付して全職員(保育補助、調理職員含む)に配布	
テーマ	危機管理に関すること全般(午睡、食事、室内外の遊び、不審者対応、個人情報流失、健康)	③ その他職員は、会議までに担当クラスで補助の職員を含めた職員同士で事例を基に話し合う	
		※ 準備負荷を下げる ため、年度当初の4月に担当月を発表。職員会議で「翌月は〇〇先生」とリマインド	
		当日	
		① 事例紹介(担当職員から)	
		② 事前準備の発表(各クラスからまたは、一人ひとり順番に発言)	
		③ 模擬回答の紹介(担当職員から)	
		※ 全員での解を出したり唱和したりはせず、基本は出題者からの回答の提示でクロージング	
		※ 唯一解を出すより、 自分で考えたり、話し合いの場を設けたりすることに重きを置いている	

PwC

9

KYTで用いる事例

イラスト・写真

一人ひとりの気づきの力を養うために、以下の写真から予測される事例をひとり1つずつあげてください。

- ① 気になる点をあげる
- ② 危険を予測した場所や物から考えられる、繋がってしまう事象を考える

※保育とは関係のない写真やイラストを使用

イラスト・写真A



イラスト・写真B



PwC

実際に起きた事故

■ 事例

某日午後4時35分頃、認可外保育所で、家庭用プールで遊んでいた女児(3)がおおむけにうかんでいるのを職員が見つけた。

女児は救急車で病院に搬送されたが、意識不明の重体。まもなく死亡した。

警察署の発表によると、女児は午後4時半頃から、ほかの園児と離れ、保育所のベランダに置かれたプール(縦135cm、横100cm)で遊び始めた。女性職員(31)が付き添っていたが、別の園児の保護者対応のためそばを離れ、戻ってくると、プール内で浮かんでいたという。水深は23.5cmだった。

保育所には当時、ほかに職員2人と園児十数人がいたが、いずれも庭で遊んでいたという。同署で詳しい状況を調べている。

女児の死因は溺死とみられていて、警察は、業務上過失致死の疑いもあるとみて保育所の職員らから事情をきいている。

■ 考察

- ① 問題点は何か
- ② どのように対応すべきだったか
- ③ 当園で類似事故を起こさないためには

10

KYTを始めたことによる効果

1 職員の意識の向上

- 他者、他園の事例を疑似体験することで、**危機管理能力・想像力が向上する**
- 「起きた時、どうするか・何をしなければいけないか」を考えることで、**事故やケガの対応に見通しが持てるようになる**
- 担当職員に「何をやりたいか」「当園で確認が必要なことは何か、足りないことは何か」を任せることで、**職員がより良い園環境を考えるようになる**
- 担当制の導入や意見交換の場を設ける仕組みを作ることで**全ての職員を拘り上げる**
- **新人からベテランまで**様々な意見が出るがどの意見も保育観も大事
- 保育について話し合う機会が増えることで、**話しやすい・相談しやすい空気感を作る**

2 他の園内イベントへの波及効果

- 保護者会や各種行事など他の園内イベントでの企画や段取りにも活かしてくる

PwC

11

4

【対面】参加者間の自己
紹介・アイスブレイク

【オンライン】休憩

会場の皆様

自己紹介・アイスブレイク

- この後、テーブルごとのグループに分かれてグループワークを実施します。
- ワーク実施前のアイスブレイクとして、同じテーブルの方同士で、お一人ずつ1分程度で自己紹介を行ってください。
- 自己紹介が一巡しましたら、周りの方のお話で気になった点を質問したり、共感する部分があればお伝えしてみたりしてください。

自己紹介の際のテーマTips

- どこからどんな交通手段で来たか
 - 最近のお勤め先で起こったできごと
 - 新しく始めてみた趣味 など
- ※ 例示に捉われず、どうぞ好きな話題をお話してください

10
min

オンライン参加の皆様

休憩

- 次のセッションが開始するまで休憩のお時間となります。
 - なお、ご講演いただいた栗並氏・堀氏にご質問がございましたら、TeamsのQ&Aまたは事務局メールアドレス info@nissai.co.jp にお送りください。
- ※研修後のQ&Aセッションにて、可能な限りお答えできればと存じます。なお、お時間の都合上、すべてのご質問には回答できかねる場合がございます旨、予めご了承ください。

5

KYTグループワーク

大阪公立大学名誉教授
関川 芳孝氏

KYTとは？

危険予知訓練は、職場や作業の状況のなかにひそむ危険要因とそれが引き起こす現象を、職場や作業の状況を描いたイラストシートを使って、また、現場で実際に作業をさせたり、作業してみせたりしながら、小集団で話し合い、考え合い、分かり合って、危険のポイントや重点実施項目を指差唱和・指差呼称で確認して、行動する前に解決する訓練です。

危険予知訓練は、危険（キケン、Kiken）の**K**、予知（ヨチ、Yochi）の**Y**、トレーニング（トレーニング、Training）の**T**をとって、KYTといえます。

出典：中央労働災害防止協会「危険予知訓練（KYT）」とは <https://www.jisha.or.jp/zerosai/kyt/index.html>

危険予知の重要性

1. 保育園での事故は、子どもの生活全てが対象
2. リスクは、ありとあらゆる場所・場面に存在
3. マニュアルに全てを書いたり、教えることは不可能
4. 事故防止の重要性を自ら理解する
5. 知識だけでは十分でなく**危険回避能力が必要**

出典：田中哲郎「事故防止のための取り組み」（平成28年度保育所等事故予防研修会資料）

危険予知トレーニングの目的

1. **感受性を鋭くする**
2. **集中力を高める**
3. **問題解決能力を向上させる**
4. **実践への意欲を強める**
5. **安全先取り職場風土づくり**

出典：中央労働災害防止協会「危険予知訓練（KYT）」が目指すもの <https://www.jisha.or.jp/zerosai/kyt/file03.html>

危険予知トレーニングの手法

- 第1R（**現状把握**）
どんな危険がひそんでいるか
- 第2R（**本質追究**）
これが危険のポイントだ
- 第3R（**対策樹立**）
あなたならどうする
- 第4R（**目標設定**）
私たちはこうする

出典：中央労働災害防止協会「危険予知訓練（KYT）」の進め方 <https://www.jisha.or.jp/zerosai/kyt/file04.html>

本日用いるイラスト



本日のKYTの進め方

5min

1 現状を把握する(個人ワーク) | どんな危険がひそんでいるか

1. イラストをみて想像される、重大事故につながる食事時のヒヤリハット場面を考えてください。
2. 思いついたことを、一つひとつポストイットにメモしてください。
3. メモしたポストイットをテーブル中央の紙に貼り付けていってください。

5min

2 現状を把握する(グルーピング) | どんな危険がひそんでいるか

1. 同じようなヒヤリハット場面について書かれたメモを一つのグループにしてまとめましょう。
2. リーダーは、グルーピングされたヒヤリハット場面にタイトルを付け、紙に書き込みましょう。
 - 「こどもの食べ方」
 - 「こどもの状態・体調」
 - 「食材の形状や性質」など

18min

3 重要な危険を洗い出し、対策を考える | これが危険のポイントだ、あなたならどうする？

1. メンバーと話し合い、グルーピングされたヒヤリハット場面の中から、特に重要と思われるヒヤリハット場面の一つを選んでください。
2. それについて、メンバーは、事故防止のために注意すべき事柄や、事故防止のためにとるべき行動をあげてください。
3. リーダーは、注意すべきことを、中央の紙に箇条書きに整理して、チェックリストを作成してください。

2min

4 目標を設定する | 私たちはこうする

1. リーダーが、「食事中に●●の場面で窒息・誤嚥事故が発生するリスクがあります。私たちが具体的に事故防止のためにとるべき行動を確認します」とメンバーに声をかけます。
2. リーダーが、「一つ……すること」と声をあげて確認し、続いて参加者全員で復唱します。
3. 「二つ……すること」……、とすべての注意すべきことを確認し、全員で「確認よし！」で終わります。

会場の皆様

個人ワーク

1. イラストをみて想像される、重大事故につながる食事中的ヒヤリハット場面を考えてください。
2. 思いついたことを、一つひとつポストイットにメモしてください。
3. メモしたポストイットをテーブル中央の紙に貼り付けていってください。

point

曖昧な表現は避け、具体的に表現する

例:

- 食べ物を詰め込み過ぎて窒息する
- × あぶない
- × 食べ物を詰め込み過ぎなので

5
min

オンライン参加の皆様

個人ワーク

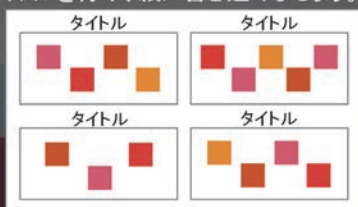
1. イラストをみて、重大事故につながる食事中的ヒヤリハット場面を考えてください。
2. 思いついたことを、ひとつひとつメモしてください。

18

会場の皆様

グルーピング

1. 同じようなヒヤリハット場面について書かれたメモを一つのグループにしてまとめましょう。
2. リーダーは、グルーピングされたヒヤリハット場面にタイトルを付け、紙に書き込みましょう。



★ 名札の右上に赤い●のある方がリーダーとなり、ファシリテーションしてください。

W田 C明



5
min

オンライン参加の皆様

個人ワーク

1. 同じようなヒヤリハット場面について書かれたメモを一つのグループにしてまとめましょう。
2. グルーピングされたヒヤリハット場面にタイトルを付けましょう。
3. 「危ない！」と感じた具体的な経験を思い返し、ヒヤリハット場面が起こった原因と事故防止のためにとった行動を振り返ってください。

19

会場の皆様

ディスカッション

1. メンバーと話し合い、グループ化されたヒヤリハット場面の中から、特に重要と思われるヒヤリハット場面一つを選んでください。
2. それについて、メンバーは、ヒヤリハットの原因や、事故防止のために注意すべき事柄や、事故防止のためにとるべき行動をあげてください。
3. リーダーは、注意すべきことを、中央の紙に箇条書きに整理して、チェックリストを作成してください。

チェックリスト

- ☐ XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
- ☐ XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
- ☐ XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
- ☐ XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
- ☐ XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

point

皆で確実に実行できる内容にする

例:

- 汁物などの水分を適切に与える
- × 人手を増やす

18
min

オンライン参加の皆様

ディスカッションの傍聴

1. 会場のうち、テーブルDのディスカッションの様子を観察してください。
2. その際、ご自身もグループワークに参加しているつもりで、一緒に考えてください。
 - 自分で考えてグルーピングしたヒヤリハット場面は、観察しているテーブルにおけるグルーピングのうちどれに当てはまるか
 - 特に重要と思われるヒヤリハット場面はどれか
 - 事故防止のために注意すべき事柄や、事故防止のためにとるべき行動は何か

会場の皆様

目標設定

1. リーダーが、「食事に●●の場面で窒息・誤嚥事故が発生するリスクがあります。私たちが具体的に事故防止のためにとるべき行動を確認します」とメンバーに声をかけます。
2. リーダーが、「一つ……すること」と声をあげて確認し、続いて参加者全員で復唱します。
3. 「二つ……すること」……、とすべての注意すべきことを確認し、全員で「確認よし！」で終わります。

2
min

オンライン参加の皆様

目標設定の傍聴

1. ご自身もグループワークに参加しているつもりで、一緒に唱和してください。心の中でも結構です。

発表



タッチ・アンド・コール



出典：厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署「社会福祉施設における安全衛生対策～腰痛対策・KY活動～」
PwC

23

6

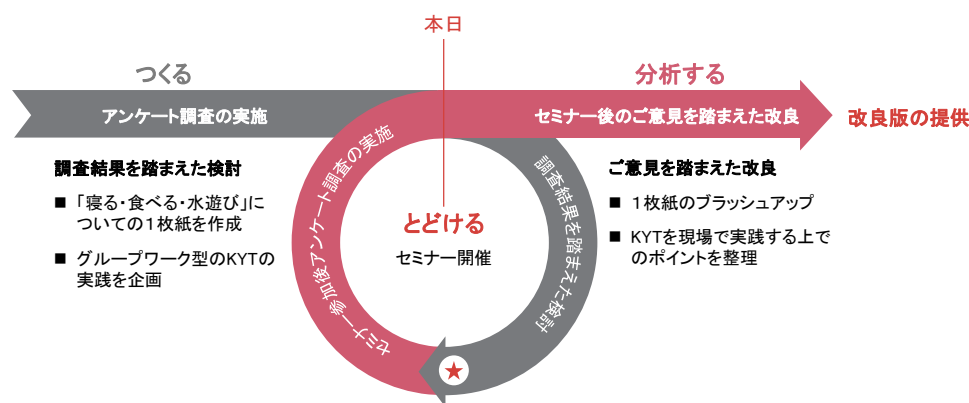
講評・Q&Aセッション

7

研修使用教材について
の解説とご案内

参加後アンケートへのご協力をお願い

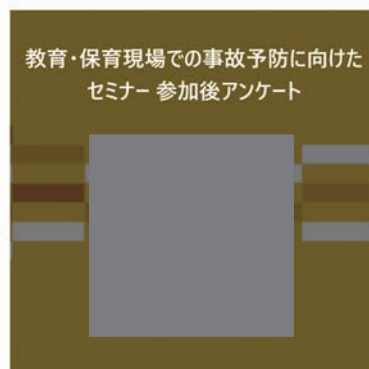
「つくっておわり」ではなく、つくる過程で現場の皆様のお声をできる限り反映したいと考えています。是非参加後アンケート調査にご協力いただけますと幸いです。



参考: 陳内裕樹「サーロインの法則」(作る:届ける:計測する=3:6:1)
PwC

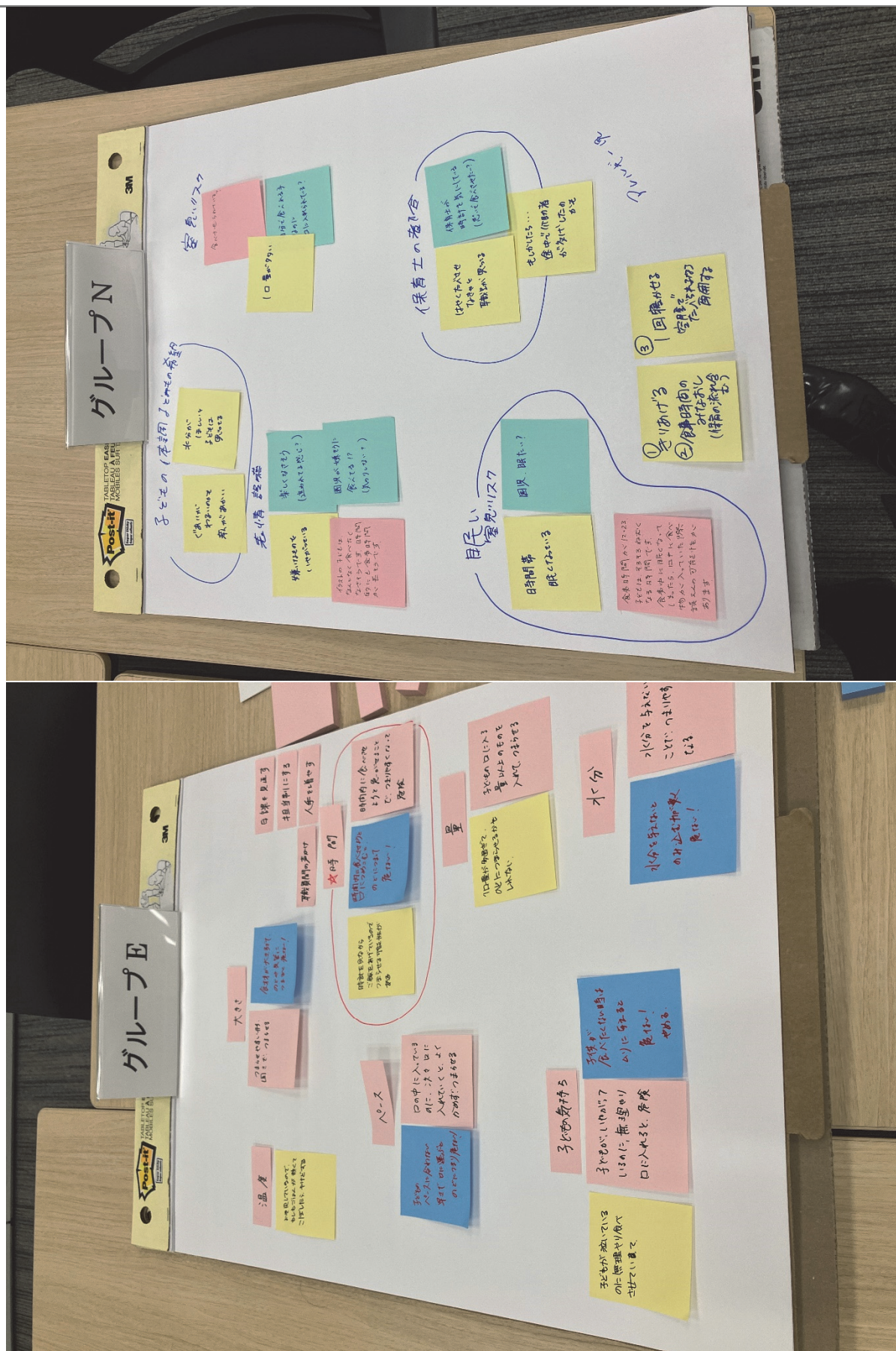
28

ご参加ありがとうございました。
現地参加の方はお気をつけてお帰りください。

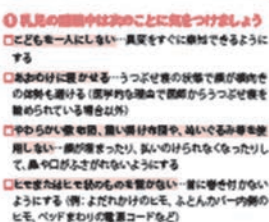


www.pwc.com/jp

© 2024 PwC Consulting LLC. All rights reserved.
PwC refers to the PwC network member firms and/or their specified subsidiaries in Japan, and may sometimes refer to the PwC network. Each of such firms and subsidiaries is a separate legal entity. Please see www.pwc.com/structure for further details.
This content is for general information purposes only, and should not be used as a substitute for consultation with professional advisors.



ときにきをつけること



こどもの 教育・保育施設等の職員向け
重大な事故を防ぐための
ポイント ねる・たべる・あそび

- 乳孔の様子を確認しましょう
- 口の中に異物や、ミルクや食べ物などの草の葉の紐がないか確認する。このとき乳孔につまみこみやすいようにする。
 - 定期的なこどもの身体検査に母乳・乳汁は、開閉状態を確認する。一部のマニュアルやチェック表などにも含む。
 - 預け始める時間給付に注意深く見守る（例：授乳し保育を始めるなど）
- ※乳孔のほか、こどもの発育や健康状態によっては1歳以上でも定期的な開閉検査を行い、状況に応じておおむけに費やす。

- 睡眠中、うつぶせで寝ていたりしているのを発見する死
亡事故が頻りに起こっている
- 睡眠中は、意識のレベルが、乳幼児突然死症候群(SIDS)の
おそれがあり、予防方法は確立していないが、寝る姿勢などに
うつぶせで寝かせることはそのおそれのSIDSの発症率が低いと
なされている
- やわらかい布団や高いぐらゐる等が原因と見えない死に
なるとはわかってはいますが、その間に寝かされたままに寝て
しまうリスクがある
- 預け胎児死産後が赤く、過剰な事故後延滞症候群がリスク
が高いと指摘されており、こどもの死因として、発症状況
の把握が必要と十分ではないことと指摘している可能性
がある



めと別に差をつけること



こどもの 教育・保育施設等の職員向け
重大な事故を防ぐための
ポイント おる・たべる・あそび

- ❶ 数例外例を整理しましょう
- ❑「専ら救済を行う者」と「兼務等を行う者」を分けて記載し、役割分担を明確にする
 - ❑十分な救済体制の確保ができない場合は、プール活動・水遊びの中止も選択肢とする



❑監視者は、片付け、こどもの相手など他の作業を行わない
[園児数に合わせよう]

- ❑ 独立つきの特子などを身につける一龍が数回であるか分かるようにする
- ❑ こどもに「数珠の先生はみんなをさせることが仕事なので断じなければならない。用を頼まない。一緒に連人だつてせぬなりことを知らせておく
- ❑ エリア全域を見渡せる場所から規則的に回線を動かしながら数珠する

・通食に、監修役の先生が、道具の片付けなど、細かな作業を行っていて、と目を開いたときに、こどもがおぼれた

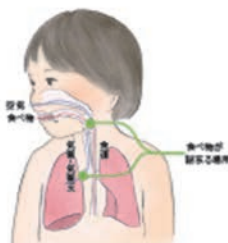
- 数箇場所に達いところや、強い曝露など、一般に安全と見られる場所も、おぼれる可能性がある
- おぼれるときは、助けを求めたり、背しくて隠れるといった反応とが現らす。顔がにおぼれることも多いと言われている

と意に意を付けること



こどもの年齢段階によらず、習得されている材料が能力につながる可能性があることを認識する

- ②形・色・臭・味・硬軟性が悪いといった形状・性質の食
べ物は避ける(通食に事故が発生した食材の例:ナ
・豆類(豆・ナツメなど)、エニシトマト(プチトマト)
・臭豆腐、ぶどうなど)



こどもの
重大な事故を防ぐための
ポイント お母さん・お父さん・おじいちゃん・おばあちゃん



■食べ物は子どもの口に合った量で考え、汁物などの水分も適切に与える…のどや気管につまらせないようにする

- こどもの意欲に合うタイミングで考える…弱くなった、もう食べたくないといった食べることに集中させない。様子を観望したら無理に食べさせない
- 食事に驚かせない

■食事前に保護者や職員間でこどもの食事に関する情報を共有する（例：食べるための機転や食事に関する行動の発

- 食べ物を飲み込んだことも確認する(口の中に残っていないか注意)
- 食事中に嘔吐していないか・咽下よく行っているかを注意する

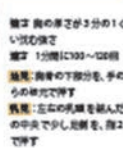
- こどもは、肉體が生えそろわず、かみゆく力や飲み込む力が十分ではない

- 喉でつかみゆく必要のあるナッツ・豆類などをのどや食道に詰まらせたまま「ゴืน」て食べ物がのどや胃につまるといったり、水もなければ胃液が入り込んで肺炎や食道炎、胃炎を起こしたりするリスクがある
- 食べ物を口に入れたままで、走ったり、後転んだり、突いたり、投げたり、蹴ったり、声を出したりすると、一気に急激な急回りの動きの中の食物が胃液や食道炎に巻き込まれて肺炎・腸炎（にえん：食べ物などが胃や小腸や大腸に入ること）のリスクがある

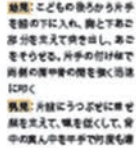
急應
處理

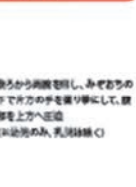
もし子どもの息患などが起きてしまったら
突然心臓が止まったり、おぼれたりした場合、
一刻も早い手当が必要で、
すぐに119番・救急車を開始しましょう。

100



結果: こどもの使うかう片手



[illegible]

【謝辞】

本事業において、調査やセミナーにご協力いただき貴重なご意見をいただいた教育・保育現場及び自治体の皆様、啓発資材の作成にご協力いただいた富田先生、視察を許可いただいた五反田保育園の皆様、ご助言をいただいた事業検討委員会委員の皆様に深く感謝申し上げます。

日々、安全・安心な保育の実現に向けて尽力される教育・保育現場及び行政担当者の皆様に心から敬意を表しつつ、今回作成した啓発資材が少しでもお役に立てること、ひいては、未来のこどもたちの命を守ることにつながることを祈念します。

※本報告書及び啓発資材は、PwC コンサルティング合同会社のホームページにて公開する。

令和5年度子ども・子育て支援調査研究事業
教育・保育施設等における「教育・保育施設等における
事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」等の
効果的な周知方策についての調査研究
事業報告書

発行日：令和6年3月
編集・発行：PwC コンサルティング合同会社